

本書をお読みになる前に

1 各部名称

2 ハードウェア

3 機能

4 セキュリティ

5 ソフトウェア

6 BIOS

7 技術情報

8 トラブル
シーティング

製品ガイド



目次

本書をお読みになる前に

本書の表記	5
商標および著作権について	7

第1章 各部名称

1 各部の名称と働き	10
パソコン本体前面	10
パソコン本体上面	13
パソコン本体右側面	14
パソコン本体左側面	15
パソコン本体下面	17
CRT/LAN 変換ケーブル	18
2 状態表示 LED について	19
3 ワンタッチボタンについて	21

第2章 ハードウェア

1 疲れにくい使い方	24
ディスプレイ	25
使用時間	25
入力機器	25
机と椅子	25
作業スペース	25
2 周辺機器を取り付ける前に	26
取り扱い上の注意	26
3 ポイントティングデバイスについて	27
フラットポイントについて	27
4 キーボードについて	30
OADG キーボード	30
5 バッテリについて	34
バッテリを充電する	34
バッテリで運用する	35
バッテリ残量を確認する	36
取り扱い上の注意	37
内蔵バッテリパックを交換する	39
6 ポータブル CD/DVD ドライブについて	41
使用できるディスク	41
各部の名称と働き	44
ポータブル CD/DVD ドライブの取り付け／取り外し	46
ディスクをセットする／取り出す	48
7 ドッキングステーションについて	51
使用できるディスク	51
取り扱い上の注意	53
各部の名称と働き	56
ドッキングステーションを取り付ける	58
ドッキングステーションを取り外す	60
DVD-RAM への書き込み／書き換えについて	61
ディスクをセットする／取り出す	62
8 PC カードについて	65
取り扱い上の注意	65
PC カードをセットする	65
PC カードを取り出す	67

9 SD メモリーカードについて	70
取り扱い上の注意	70
SD メモリーカードをセットする	70
SD メモリーカードを取り出す	71
10 プリンタについて	73
接続について	73
11 外部ディスプレイについて	74
接続について	74
12 ハードウェアのお手入れ	77
パソコン本体のお手入れ	77
液晶ディスプレイのお手入れ	77
キーボードのお手入れ	78

第3章 機能

1 ディスプレイ関連	80
液晶ディスプレイの明るさ設定	80
全画面表示と通常表示の切り替え	82
ディスプレイの表示について	84
解像度と色数について	84
表示装置の切り替え	85
マルチモニタ機能	88
外部ディスプレイの走査周波数について	91
2 音量の設定	92
音量ボリュームまたはキーボードで調節する	92
画面上の音量つまみで設定する	93
再生時／録音時の音量設定について	93
3 通信	95
LANについて	95
無線 LAN (IEEE 802.11a, IEEE 802.11g 準拠) について	97
Bluetooth ワイヤレステクノロジーについて	98
4 ドライブ関連	103
ドライブ構成	103
5 省電力	104
スタンバイ／休止状態／省電力モード	104
注意事項	104
省電力の設定	106
スタンバイまたは休止状態にする	108
スタンバイまたは休止状態からの復帰	109
省電力モードの設定	110
6 HDD プロテクション	112
HDD プロテクションの特長	112
「Shock Sensor Utility」について	112
7 静音ユーティリティ	115
「静音ユーティリティ」について	115
「静音ユーティリティ」の使い方	115

第4章 セキュリティ

1 セキュリティについて	118
2 ネットワーク接続時のセキュリティ	120
コンピュータウイルス対策	120
Windows やソフトウェアのアップデート	124
通信データの暗号化	126
無線 LAN 使用時の通信データの暗号化	126
3 不正使用からのセキュリティ	127
Windows のパスワード	127

管理者権限とユーザー アカウント	127
アクセス権と暗号化	127
BIOS のパスワード	128
指紋センサー	128
4 パソコン本体廃棄時のセキュリティ	129
パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意	129
ハードディスクのデータ消去サービスについて	130

第 5 章 ソフトウェア

1 ソフトウェア一覧	132
各ソフトウェアの紹介	134
アンインストール方法	153

第 6 章 BIOS

1 BIOS セットアップとは	156
2 BIOS セットアップの操作のしかた	157
BIOS セットアップを起動する	157
設定を変更する	159
各キーの役割	160
BIOS セットアップを終了する	161
3 メニュー詳細	162
メインメニュー	162
詳細メニュー	163
セキュリティメニュー	164
起動メニュー	166
情報メニュー	167
終了メニュー	167
4 BIOS のパスワード機能を使う	169
パスワードの種類 169	
パスワードを設定する	169
パスワードを設定した後は	171
パスワードを変更／削除する	172
5 BIOS が表示するメッセージ一覧	174
メッセージが表示されたときは	174
メッセージ一覧	175

第 7 章 技術情報

1 仕様一覧	180
本体仕様	180

第 8 章 トラブルシューティング

1 トラブルに備えて	184
テレビ／ラジオなどの受信障害防止について	184
Windows のセットアップ後の操作	184
修正プログラムの適用について	185
データのバックアップ	185
自動車内での使用について	185
ドキュメントの確認	185
2 トラブル発生時の基本操作	186
本パソコンや周辺機器の電源を確認する	186
以前の状態に戻す	186
Safe モードで起動する	187
バックアップを行う	187
メッセージなどが表示されたらメモしておく	188

診断／修正プログラムを使用する	188
リカバリ	189
3 起動・終了時のトラブル	190
4 Windows・ソフトウェア関連のトラブル	192
5 ハードウェア関連のトラブル	194
ハードウェア関連のトラブル一覧	194
BIOS	195
メモリ	195
内蔵 LAN	196
ハードディスク	197
CD／DVD	198
バッテリ	199
ディスプレイ	200
サウンド	201
キーボード	201
ポインティングデバイス	201
USB	202
IEEE1394	202
プリンタ	203
その他	203
6 それでも解決できないときは	204
お問い合わせ先	204
索引	205

本書をお読みになる前に

本書の表記

警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようにになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	○で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例 : 【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例 : 【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

diskcopy a: a:
↑ ↑

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを1回押してください。
- また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- CD/DVD ドライブなどのドライブ名を、「CD/DVD ドライブ」で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

例：[CD/DVD ドライブ]：\$setup.exe

連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例： 「スタート」ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作
↓
「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

BIOS セットアップの表記

本文中のBIOS セットアップの設定手順において、各メニュー やサブメニュー または項目を、「-」(ハイフン) でつなげて記述する場合があります。また、設定値を「:」(コロン) の後に記述する場合があります。

例： 「メイン」メニューの「言語 (Language)」の項目を「日本語 (JP)」に設定します。
↓
「メイン」-「言語 (Language)」: 日本語 (JP)

画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記		
FMV-BIBLO LOOX Q70TN	本パソコン パソコン本体		
Microsoft® Windows® XP Professional	Windows XP Professional	Windows XP	Windows
Microsoft® Internet Explorer 6.0	Internet Explorer		
Microsoft® Office 2003 Service Pack 2	Office 2003 SP2 または Office 2003 の SP2		
Microsoft® Office Excel 2003	Excel 2003		
Microsoft® Office Home Style ⁺	Home Style ⁺		
Microsoft® Office Home Style ⁺ Service Pack 2	Home Style ⁺ SP2 または Home Style ⁺ の SP2		
Microsoft® Office Outlook® 2003	Outlook 2003		
Microsoft® Office Personal Edition 2003	Office Personal 2003 または Office 2003		
Microsoft® Office Word 2003	Word 2003		
Microsoft® Outlook® Express	Outlook Express		
Norton Internet Security™ 2006	Internet Security		
Roxio DigitalMedia SE	Roxio DigitalMedia		
InterVideo WinDVD™ 5	WinDVD		
Adobe® Reader™ 7.0.8	Adobe Reader		
RealPlayer™	RealPlayer		
ウイルスバスター™2006 インターネットセキュリティ	ウイルスバスター		
FMV オンラインユーザー登録 Build2003.7	FMV ユーザー登録		

商標および著作権について

Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
インテル、Intel、Pentium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
Bluetooth は、Bluetooth SIG の商標であり、弊社へライセンスされています。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2006
画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

Memo

第1章

各部名称

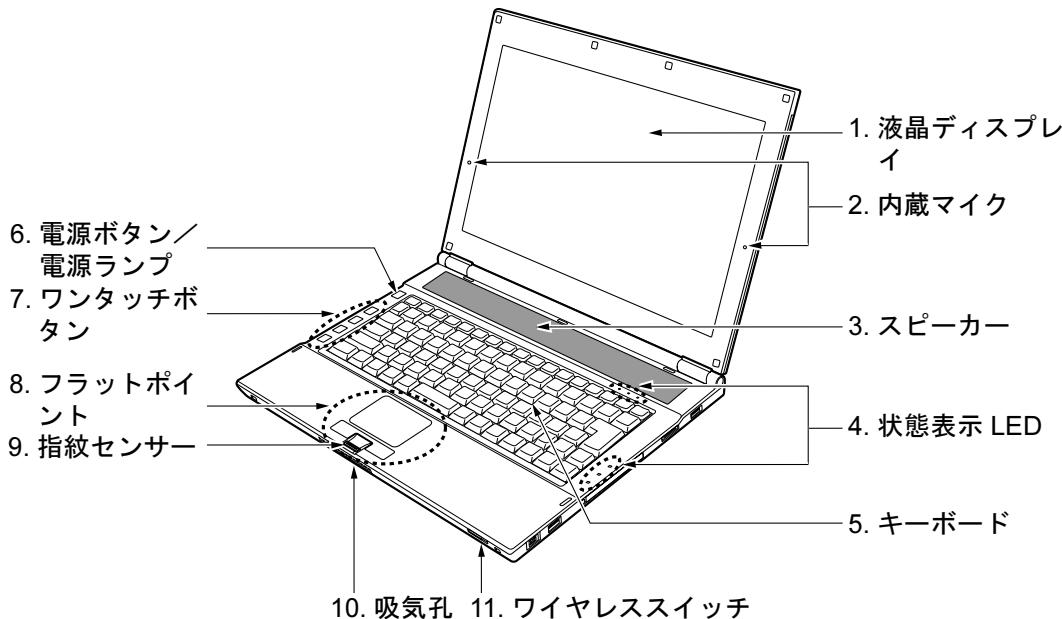
各部の名称と働きについて説明しています。

1 各部の名称と働き	10
2 状態表示 LED について	19
3 ワンタッチボタンについて	21

1 各部の名称と働き

パソコン本体前面

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。



1 液晶ディスプレイ

本パソコンの画面を表示します。

POINT

液晶ディスプレイの特性について

以下は液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

- ・液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は99.99%以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。
- ・本製品で使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。
- ・長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらく経つと消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。
- ・表示する条件によってはムラおよび微少な斑点が目立つことがあります。

2 内蔵マイク

音声を録音できます。

POINT

- マイクとスピーカーを同時に使用するソフトウェアをお使いの場合、ハウリングが起きることがあります。このようなときは、音量を調整するか、市販のヘッドホンや外付けマイクをお使いください。
- また、マイクを使用していないときは、マイクを「ミュート」（消音）にしてください。「ミュート」にする方法については、「機能」－「音量の設定」（→ P.92）をご覧ください。
- 内蔵マイクから録音する場合、音源との距離や方向によっては、音がひろいににくい場合があります。クリアな音声で録音したい場合には、外付けマイクを使用されることをお勧めします。

3 スピーカー

本パソコンの音声が出力されます。

「機能」－「音量の設定」（→ P.92）

重要

- 音量は、スピーカーから聞こえる音がひずまない範囲に設定や調整をしてください。スピーカーが故障する原因となります。

4 状態表示 LED

本パソコンの状態が表示されます。

「状態表示 LED について」（→ P.19）

5 キーボード

文字を入力したり、パソコン本体に命令を与えます。

「ハードウェア」－「キーボードについて」（→ P.30）

6 電源ボタン／電源ランプ（）

パソコン本体の電源を入れたり、スタンバイ（中断）／レジューム（回復）させるためのボタンです。

パソコンの電源が入っているときは、中央の電源ランプが点灯します。また、このほかに次の状態を表します。

- 点滅
スタンバイ状態を表します。
- 消灯
電源が切れている状態、または休止状態を表します。

POINT

- 電源ボタンを4秒以上押さないでください。
電源ボタンを4秒以上押し続けると、パソコンの電源が切れてしまいます。

7 ワンタッチボタン

ソフトウェア「ワンタッチボタン設定」を使用することにより、パソコンの各機能を呼び出せるようになります。

「ワンタッチボタンについて」（→ P.21）

8 フラットポイント

マウスポインタを操作します。

9 指紋センサー

指紋を識別してユーザー認証を行うことができます。
また、スクロール機能を使って画面を上下にスクロールさせることもできます。

10 吸気孔

空気を取り込むための穴です。

⚠ 注意



- ・吸気孔をふさがないでください。
内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

11 ワイヤレススイッチ

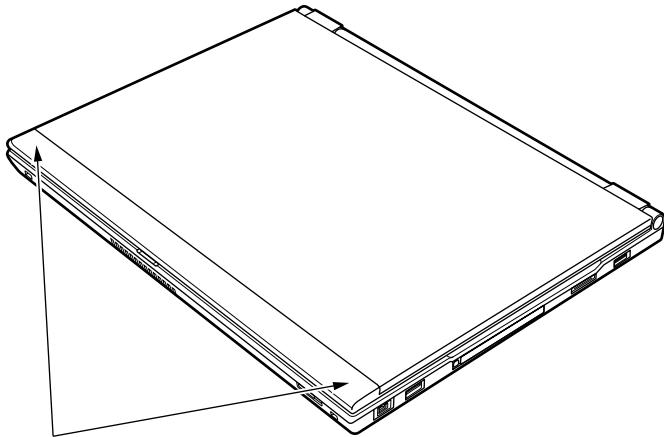
無線 LAN、Bluetooth ワイヤレステクノロジーによる通信機能の ON と OFF を切り替えます。
病院や飛行機内、その他電子機器使用の規制がある場所では、スイッチを OFF にしてください。

POINT

- ・無線 LAN については『内蔵無線 LAN をお使いになる方へ』をご覧ください。
- ・Bluetooth ワイヤレステクノロジーについては、「機能」－「Bluetooth ワイヤレステクノロジーについて」(→ P.98) をご覧ください。

パソコン本体上面

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。



1. 内蔵無線 LAN アンテナ

1 内蔵無線 LAN アンテナ

無線 LAN 用のアンテナが内蔵されています。

本パソコンの使用中、特に無線 LAN で通信中はアンテナ部分に極力触れないでください。また、本パソコンを設置する場合には、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所を避けてください。通信性能が低下し、設置環境によっては通信できなくなることがあります。

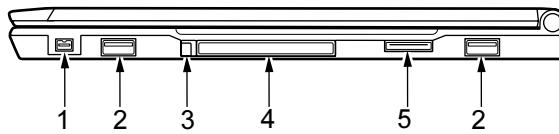
「機能」—「無線 LAN（IEEE 802.11a、IEEE 802.11g 準拠）について」（→ P.97）

POINT

- ・無線 LAN については『内蔵無線 LAN を使いになる方へ』をご覧ください。

パソコン本体右側面

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。



重要

- 各コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。

1 IEEE (アイトリプルイー) 1394 (DV) 端子 (1394)

デジタルビデオカメラ (DVC) や外付けハードディスクなどの IEEE1394 規格の周辺機器を接続するためのコネクタです。

本パソコンと接続する場合は、コネクタが 4 ピンのケーブルを用意してください。6 ピンのケーブルはお使いになれません。

2 USB コネクタ (•□□)

FDD ユニット (USB) や USB 接続に対応したプリンタなど、USB 規格の周辺機器を接続するためのコネクタです。

USB2.0 に準拠しているため、USB1.1 および USB2.0 に対応した機器が接続できます。

POINT

- ハブなどを経由して USB2.0 に対応した機器を接続した場合、ハブの性能によって接続した機器の性能が低下することがあります。

3 PC カード取り出しボタン

PC カードを取り出すときに押します。

「ハードウェア」 - 「PC カードを取り出す」 (→ P.67)

4 PC カードスロット (■)

PC カードをセットするためのスロットです。

「ハードウェア」 - 「PC カードをセットする」 (→ P.65)

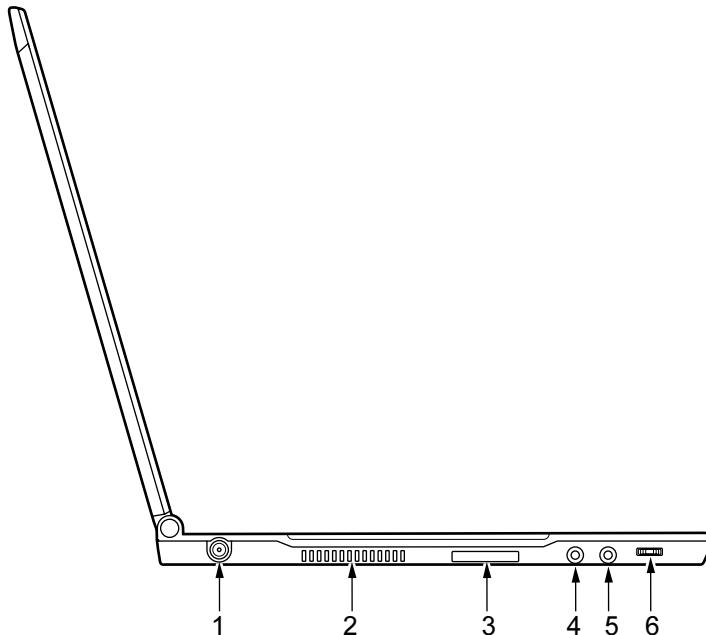
5 CRT/LAN 変換コネクタ

CRT/LAN 変換ケーブルを接続するためのコネクタです。

「CRT/LAN 変換ケーブル」 (→ P.18)

パソコン本体左側面

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。



※ 重要

- 各コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。

1 DC-IN コネクタ (—)

添付の AC アダプタを接続するためのコネクタです。

2 排気孔

パソコン本体内部の熱を外部に逃がすためのものです。

パソコンの電源を入れると、内部のファンが数秒間回転します。また、パソコン本体内部の温度が高くなると内部のファンが回転し、熱が放出されます。

このため、起動時や動作中にファンによる回転音が発生しますが、パソコンの冷却のためであり、異常ではありません。

⚠ 注意



- 排気孔をふさがないでください。
内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

※ 重要

- 排気孔からは熱風が出ます。排気孔付近には手を触れないでください。
- 排気孔の近くに物を置かないでください。排気孔からの熱で、排気孔の近くに置かれた物が熱くなることがあります。

3 SD メモリーカードスロット

SD メモリーカードをセットするためのスロットです。
「ハードウェア」 – 「SD メモリーカードをセットする」 (→ P.70)

4 マイク端子 (Φ)

市販のマイクを接続することができます (外径 3.5mm のミニプラグに対応)。
ただし、市販されているマイクの一部の機種 (ダイナミックマイクなど) には、使用できないものがあります。ご購入前に確認してください。

△ 重要

- マイク端子には、マイク以外のコネクタを接続しないでください。故障の原因となることがあります。

5 ヘッドホン端子 (Ω)

市販のヘッドホンを接続することができます (外径 3.5mm のミニプラグに対応)。ただし、形状によっては取り付けられないものがあります。ご購入前に確認してください。

△ 注意



- ヘッドホンやイヤホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないでください。

耳を刺激するような大きな音量で聞くと、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。



- 電源を入れたり切ったりする前には音量を最小にしておいてください。また、ヘッドホンやイヤホンをしたまま、電源を入れたり切ったりしないでください。

突然大きな音や刺激音が出て、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

6 音量ボリューム

音量を調節します。手前側にたおすと小さく、奥側にたおすと大きくなります。また、音量ボリュームを押すとミュート (消音) になります。

音声入出力時のバランスや音量などは、音量を設定する画面で設定できます。音量ボリュームで調節しても、音量が大きすぎたり、小さすぎたりする場合は、画面の音量つまみで調節してください。

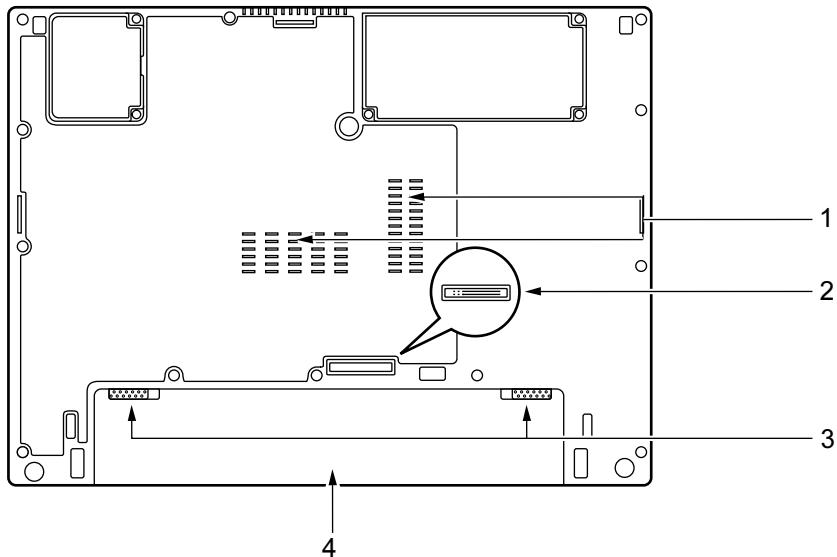
「機能」 – 「音量の設定」 (→ P.92)

POINT

- 音量ボリュームで音量を調節しても音が聞こえない場合は、音量を設定する画面の設定がミュート (消音) になっていないか確認してください。

パソコン本体下面

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。



1 吸気孔

空気を取り込むための穴です。

⚠ 注意



- ・吸気孔をふさがないでください。
内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

2 ドッキングステーション接続コネクタ

ドッキングステーションを接続するためのコネクタです。

ドッキングステーション接続時には、ドッキングステーション接続コネクタのカバーを外してください。

「ハードウェア」 - 「ドッキングステーションについて」 (→ P.51)

3 内蔵バッテリパックロック

内蔵バッテリパックを取り外すときにスライドさせます。

「ハードウェア」 - 「内蔵バッテリパックを交換する」 (→ P.39)

4 内蔵バッテリパック

内蔵バッテリパックが装着されています。

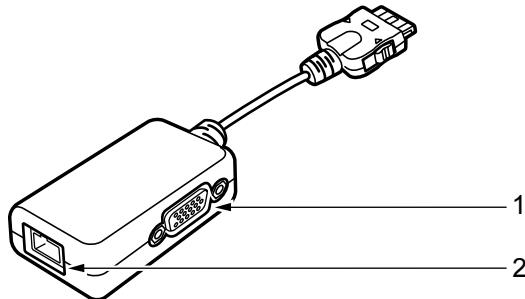
「ハードウェア」 - 「内蔵バッテリパックを交換する」 (→ P.39)

CRT/LAN 変換ケーブル

重要

- 各コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。



1 外部ディスプレイコネクタ (□)

アナログディスプレイなど、外部ディスプレイを接続するためのコネクタです。

ドッキングステーション接続時には、ドッキングステーションの外部ディスプレイコネクタをお使いください。

「ハードウェア」 - 「外部ディスプレイについて」 (→ P.74)

2 LAN コネクタ (□)

LAN ケーブルを接続するためのコネクタです。

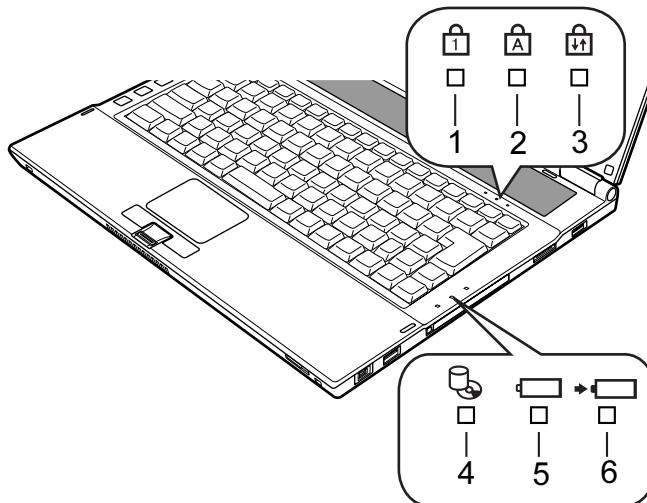
ドッキングステーション接続時には、ドッキングステーションの LAN コネクタをお使いください。

「機能」 - 「LAN について」 (→ P.95)

2 状態表示 LED について

1

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。



POINT

- ・電源を切っている場合は、充電中を除いて状態表示 LED の全表示が消灯します。

1 Num Lock ランプ (1)

キーボードがテンキー モードのときに点灯します。【Num Lk】キーを押して、テンキー モードの設定と解除を切り替えます。

「ハードウェア」 - 「キーボードについて」 (→ P.30)

2 Caps Lock ランプ (2)

英大文字固定 モード (英字を大文字で入力する状態) のときに点灯します。

【Shift】 + 【Caps Lock】キーを押して、英大文字固定 モードの設定と解除を切り替えます。

3 Scroll Lock ランプ (3)

画面をスクロールしないように設定 (スクロール ロック) したときに点灯します。

【Fn】 + 【Num Lk】キーを押して、スクロール ロックの設定と解除を切り替えます。

点灯中の動作は、ソフトウェアに依存します。

4 ハードディスク／CD アクセスランプ (4)

内蔵ハードディスクや CD／DVD にアクセスしているときに点灯します。

POINT

- ・ハードディスク／CD アクセスランプが点灯中に、電源ボタンを操作すると、ハードディスクが壊れるおそれがあります。

5 バッテリ残量ランプ (5)

本パソコンに接続されている内蔵バッテリパックの残量を表示します。

「ハードウェア」 - 「バッテリ残量を確認する」 (→ P.36)

6 バッテリ充電ランプ (→□)

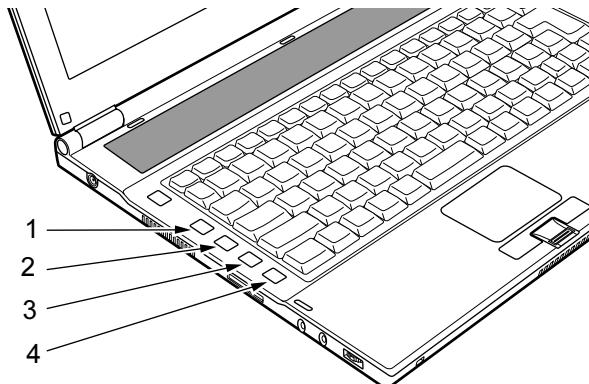
本パソコンにACアダプタが接続されている場合に、内蔵バッテリパックの充電状態を表示します。

「ハードウェア」 – 「バッテリを充電する」 (→ P.34)

3 ワンタッチボタンについて

ワンタッチボタンは、パソコンの各機能を呼び出すためのボタンです。ボタンを押すだけでソフトウェアを起動することができます。

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。



	ボタン	起動するソフトウェア（ご購入時）
1	A ボタン	インターネット
2	B ボタン	メール
3	C ボタン	省電力ユーティリティ
4	D ボタン	バックアップ

POINT

- 各ボタンに割り当てられているソフトウェアを変更できます。詳しくは、ソフトウェア「ワンタッチボタン設定」のヘルプをご覧ください。

Memo

2

第2章

ハードウェア

本パソコンを使用する上での基本操作や、本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器の基本的な取り扱い方について説明しています。

1 疲れにくい使い方	24
2 周辺機器を取り付ける前に	26
3 ポイントティングデバイスについて	27
4 キーボードについて	30
5 バッテリについて	34
6 ポータブル CD/DVD ドライブについて	41
7 ドッキングステーションについて	51
8 PC カードについて	65
9 SD メモリーカードについて	70
10 プリンタについて	73
11 外部ディスプレイについて	74
12 ハードウェアのお手入れ	77

1 疲れにくい使い方

パソコンを長時間使い続ければ、目が疲れ、首や肩や腰が痛くなることがあります。その主な原因は、長い時間同じ姿勢でいることや、近い距離で画面やキーボードを見続けることです。パソコンをお使いの際は姿勢や環境に注意して、疲れにくい状態で操作しましょう。



POINT

- 富士通では、独立行政法人産業医学総合研究所の研究に協力し、その成果が「パソコン利用のアクション・チェックポイント」としてまとめられています。
- 詳しくは、富士通ホームページ (<http://design.fujitsu.com/jp/universal/ergo/vdt>) の解説をご覧ください。

ディスプレイ

- ・外光が直接目に入ったり画面に映り込んだりしないように、窓にブラインドやカーテンを取り付けたり、画面の向きや角度を調整しましょう。
- ・画面の輝度や文字の大きさなども見やすく調整しましょう。
- ・ディスプレイの上端が目の位置と同じかやや低くなるようにしましょう。
- ・ディスプレイの画面は、顔の正面にくるように角度を調整しましょう。
- ・目と画面の距離は、40cm 以上離すようにしましょう。

使用時間

- ・1 時間以上続けて作業しないようにしましょう。続けて作業をする場合には、1 時間に 10 ~ 15 分程度の休憩時間をとりましょう。また、休憩時間までの間に 1 ~ 2 分程度の小休止を 1 ~ 2 回取り入れましょう。

入力機器

- ・キーボードやマウスは、肘の角度が 90 度以上になるようにして使い、手首や肘は机、椅子の肘かけなどで支えるようにしましょう。

机と椅子

- ・高さが調節できる机や椅子を使いましょう。調節できない場合は、次のように工夫しましょう。
 - 机が高すぎる場合は、椅子を高く調節しましょう。
 - 椅子が高すぎる場合は、足置き台を使用し、低すぎる場合は、座面にクッションを敷きましょう。
- ・椅子は、背もたれ、肘かけ付きを使用しましょう。

作業スペース

- ・机上のパソコンの配置スペースと作業領域は、充分確保しましょう。
スペースが狭く、腕の置き場がない場合は、椅子の肘かけなどを利用して腕を支えましょう。

2 周辺機器を取り付ける前に

取り扱い上の注意

ここでは周辺機器を接続する前に、予備知識として知っておいていただきたいことを説明します。

・周辺機器によっては設定作業が必要です

パソコンの周辺機器の中には、接続するだけでは正しく使えないものがあります。このような機器は、接続した後で設定作業を行う必要があります。たとえば、プリンタや PC カードを使うには、取り付けた後に「ドライバのインストール」という作業が必要です。また、メモリなどのように、設定作業がいらない機器もあります。周辺機器は、本書をよくご覧になり、正しく接続してください。

・マニュアルをご覧ください

ケーブル類の接続は、本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。誤った接続状態で使用すると、本パソコンおよび周辺機器が故障する原因となることがあります。本書で説明している周辺機器の取り付け方法は一例です。本書とあわせて周辺機器のマニュアルも必ずご覧ください。

・純正品をお使いください

弊社純正の周辺機器については、販売店にお問い合わせになるか、富士通ショッピングサイト「WEBMART（ウェブマート）」(<http://www.fujitsu-webmart.com/>) をご覧ください。

他社製品につきましては、本パソコンで正しく動作するかどうか、保証いたしかねます。他社製品をお使いになる場合は、製造元のメーカーにお問い合わせくださいますようお願いいたします。

・ACPI に対応した周辺機器をお使いください

本パソコンは ACPI モードに設定されています。ACPI モードに対応していない周辺機器をお使いの場合、省電力機能などが正しく動作しない場合があります。

また、本パソコンでは、低レベルのスタンバイ（ACPI S1）をサポートしていません。

お使いになる周辺機器が低レベルのスタンバイのみサポートしている場合、本パソコンをスタンバイや休止状態にしないでください。

・周辺機器の電源は、本パソコンの電源を入れる前に入れてください

電源を入れて使う周辺機器を取り付けた場合は、周辺機器の電源を入れてから本パソコンの電源を入れてください。また、周辺機器の電源を切るときは、本パソコンの電源を切ってから周辺機器の電源を切ってください。

※ 重要

- ・コネクタに周辺機器を取り付ける場合は、コネクタの向きを確認し、まっすぐ接続してください。
- ・複数の周辺機器を取り付ける場合は、1つずつ取り付けて設定してください。

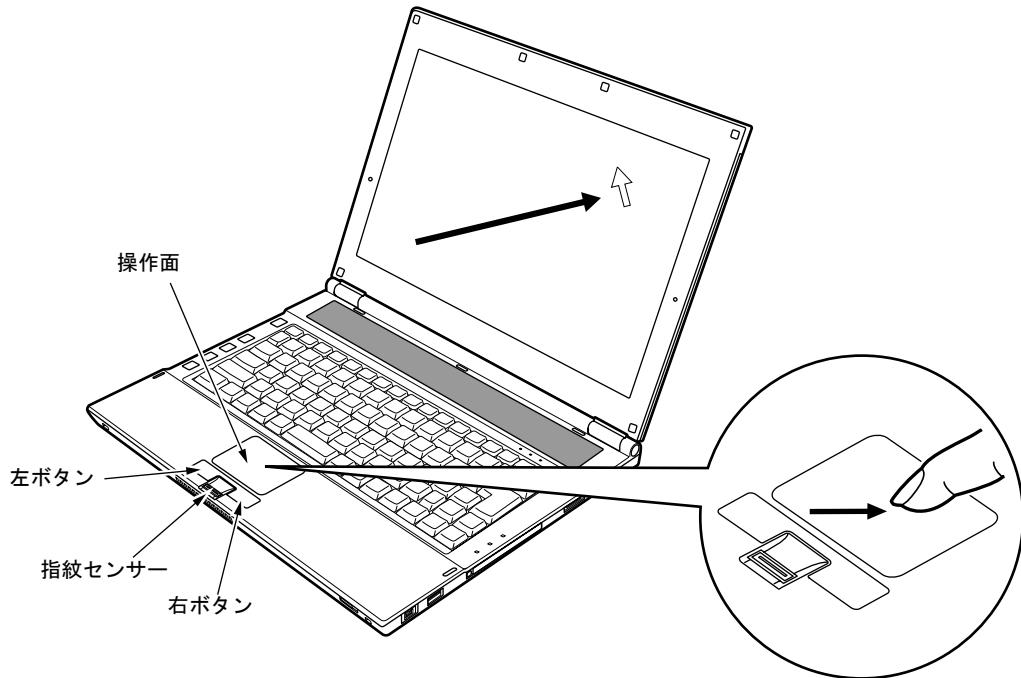
3 ポイントティングデバイスについて

フラットポイントについて

フラットポイントは、指先の操作で画面上の矢印（マウスポインタ）を動かすことのできる便利なポインティングデバイスで、操作面とその手前にある2つのボタンで構成されています。

操作面は、マウスでいえばボール部分の機能を持ち、操作面を上下左右に指先でなぞることにより画面上のマウスポインタを移動させます。また、軽くたたく（タップ）ことにより、クリックやダブルクリック、ポイント、ドラッグなどの操作を行うこともできます。

左右のボタンは、それぞれマウスの左右のボタンに相当し、その機能はソフトウェアにより異なります。

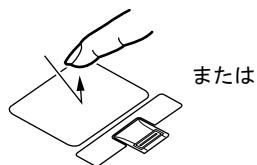


POINT

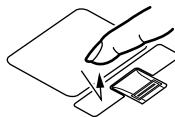
- ・フラットポイントは、その動作原理上、お使いになる方の指先の乾燥度などにより、ポインティング動作に若干の個人差が発生する場合があります。
- ・フラットポイントは表面の結露、湿気などにより、誤動作することがあります。また濡れた手や汗をかいた手でお使いになった場合、あるいはフラットポイントの表面が汚れている場合はマウスポインタが正常に動作しないことがあります。電源を切ってから、中性洗剤を含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。
- ・お使いになるソフトウェアによっては、指紋センサーのスクロール機能による画面のスクロールができない場合があります。
- ・フラットポイントとマウスの同時使用については、「マウスのプロパティ」ウィンドウで設定できます。詳しくは、「USBマウスをお使いの場合」（→P.29）をご覧ください。

フラットポイントの使い方

・クリック



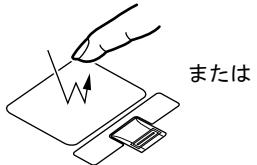
または



操作面を1回タップ（軽くたたく）するか、左ボタンをカチッと1回押して、すぐ離すことです。

また、右ボタンを1回カチッと押すことを「右クリック」といいます。

・ダブルクリック



または



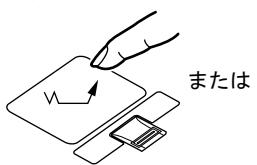
操作面を2回連続してタップするか、左ボタンをカチカチッと2回素早く押して、すぐ離すことです。

・ポイント

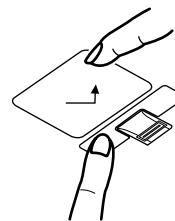


マウスポインタをメニューなどに合わせることができます。マウスポインタを合わせたメニューの下に階層がある場合（メニューの右端に▶が表示されています）、そのメニューが表示されます。

・ドラッグ

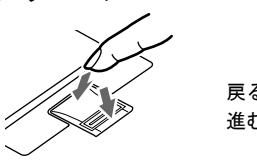


または



マウスポインタを任意の位置に移動し、操作面を素早く2回タップします。2回目のタップのときに指を操作面上から離さないで、希望の位置まで操作面をなぞり、指を離します。または、マウスポインタを任意の位置に移動し、左ボタンを押しながら希望の位置まで操作面をなぞり、指を離します。

・スクロール



戻る：向こうに押す
進む：手前に押す

指紋センサーのスクロール機能で、画面のスクロールすることができます。ウィンドウ内のスクロールする領域をクリックしてから、指紋センサー上で指先を前後方向にスライドすると、ウィンドウ内の表示がスクロールします。

POINT

- 上記のボタンの操作は、右利き用に設定した場合の操作です。左右のボタンの役割は、「マウスのプロパティ」ウィンドウで変更できます。
- また、「マウスのプロパティ」ウィンドウでは、マウスポインタやダブルクリック、スクロールの速度なども変更できます。
- 「マウスのプロパティ」ウィンドウを表示するには、「コントロールパネル」ウィンドウの「プリンタとその他のハードウェア」—「マウス」アイコンをクリックしてください。
- 操作面をタップする場合は、指先で軽く、素早く行ってください。また、力を入れて行う必要はありません。
- マウスポインタは、フラットポイントの操作面を指でなぞった方向に移動します。操作面の端まで移動した場合は、一度操作面から離し、適当な場所に指を降ろしてからもう一度なぞってください。

- ・指紋センサーのスクロール機能の速度は、「指紋センサー」ウィンドウで変更できます。「指紋センサー」ウィンドウを表示するには、「コントロールパネル」ウィンドウの関連項目にある「コントロールパネルのその他のオプション」－「指紋センサー」アイコンをクリックしてください。

USB マウスをお使いの場合

本パソコンに USB マウスを接続すると、自動的にフラットポイントが使えなくなります。USB マウスを接続したときにフラットポイントと併用する場合は、次のように設定してください。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「プリンタとその他のハードウェア」の順にクリックします。
- 2 「マウス」アイコンをクリックします。
「マウスのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「デバイス設定」タブの「USB マウス接続時に内蔵ポインティングデバイスを無効にする。」のチェックを外し、「OK」をクリックします。

POINT

- ・「マウスのプロパティ」ウィンドウで、USB マウスを接続したときのフラットポイントの動作を設定するには、「Synaptics Pointing Device Driver」が必要です。本パソコンにはプレインストールされています。
- ・フラットポイントと USB マウスを同時に使用する設定をした場合、【Fn】 + 【F4】キーでフラットポイントの有効と無効を切り替えることができます。
 1. Windows が起動したら、【Fn】 + 【F4】キーを押します。
キーを押すたびに、フラットポイントの有効と無効が切り替わります。
有効の場合は「Internal pointing device:Enabled」、無効の場合は「Internal pointing device:Disabled」などと表示されます。
 - ・【Fn】 + 【F4】キーを押してフラットポイントを無効にしても、本パソコンの再起動後およびリジューム後は、フラットポイントが有効になります。フラットポイントを無効にする場合は、もう一度【Fn】 + 【F4】キーを押して切り替えてください。
 - ・「IndicatorUtility」をアンインストールすると、手順 1 で表示されるメッセージは画面に表示されません。
- ・フラットポイントを常に無効にするには、手順 3 で「USB マウス接続時に内蔵ポインティングデバイスを無効にする。」をチェックしてください。

4 キーボードについて

OADG キーボード

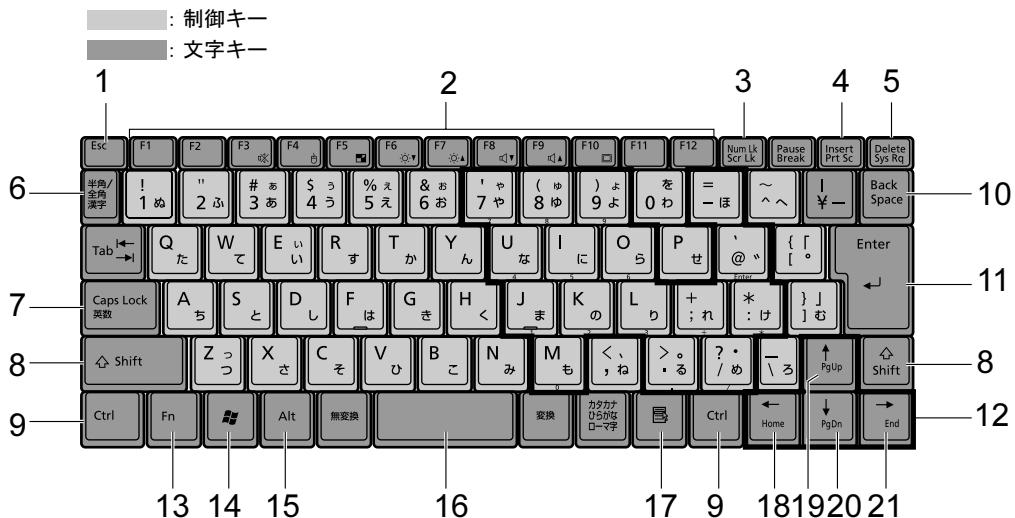
キーボードのキーの役割を説明します。

キーは大きく分けると、制御キーと文字キーの2種類に分かれます。

POINT

- お使いになるソフトウェアにより、キーの役割が変わることがあります。
ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
 - キーボードに青字で刻印されているキーは、【Fn】キーと一緒に押すとお使いになれます。

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。



主なキーの名称と働き

1 [Esc] キー

ソフトウェアの実行中の操作を取り消します。また、【Ctrl】 + 【Shift】キーと一緒に押すと、「Windows タスクマネージャ」ウィンドウが表示され、ソフトウェアを強制終了できます。

2 [F1] ~ [F12] キー

ソフトウェアごとにいろいろな機能が割り当てられています。

3 【Num Lk】 キー

テンキーモードに切り替えます。再度押すと、解除されます。

「テンキーモードについて」 (→ P.32)

4 【Insert】キー／【Prt Sc】キー

【Insert】キー 文字の入力時に、「挿入モード」と「上書きモード」を切り替えます。

【Prt Sc】キー 【Fn】キーと一緒に押すと、画面のコピーをクリップボードに取り込みます。また、【Alt】キーと一緒に押すと、アクティブになっているウィンドウのコピーをとることができます。

5 【Delete】キー

カーソルの右にある文字や選択した範囲の文字、または選択したアイコンやファイルなどを削除します。

また、【Ctrl】+【Alt】キーと一緒に押すと、「Windows タスクマネージャ」ウィンドウまたは「Windows のセキュリティ」ウィンドウが表示され、システムを強制終了できます。

6 【半角／全角】キー

文字の入力時に、半角と全角を切り替えます。

7 【Caps Lock】キー

【Shift】キーと一緒に押して、アルファベットの大文字／小文字の入力モードを切り替えます。

Caps Lock を ON にすると大文字、OFF にすると小文字を入力できます。

8 【Shift】キー

他のキーと組み合わせて使います。

9 【Ctrl】キー

他のキーと組み合わせて使います。

10 【Back Space】キー

カーソルの左にある文字や選択した範囲の文字を削除します。

11 【Enter】キー

入力した文字を確定したり、文を改行したり、コマンドを実行したりします。

リターンキーまたは改行キーとも呼ばれます。

12 【↑】【↓】【←】【→】キー

カーソルを移動します。

13 【Fn】キー

本パソコン独自のキーです。次のような働きがあります。

【Fn】+【F3】 スピーカーやヘッドホンの ON/OFF を切り替えます。

「機能」－「音量ボリュームまたはキーボードで調節する」(→ P.92)

【Fn】+【F4】 フラットポイントの有効と無効を切り替えます (→ P.29)。

【Fn】+【F5】 全画面表示と通常表示を切り替えます。

「機能」－「全画面表示と通常表示の切り替え」(→ P.82)

【Fn】+【F6】 液晶ディスプレイを暗くします。

「機能」－「液晶ディスプレイの明るさ設定」(→ P.80)

【Fn】+【F7】 液晶ディスプレイを明るくします。

「機能」－「液晶ディスプレイの明るさ設定」(→ P.80)

【Fn】+【F8】 音量を小さくします。

「機能」－「音量ボリュームまたはキーボードで調節する」(→ P.92)

【Fn】+【F9】 音量を大きくします。

「機能」－「音量ボリュームまたはキーボードで調節する」(→ P.92)

【Fn】 + 【F10】 外部ディスプレイ接続時に、液晶ディスプレイのみの表示、外部ディスプレイのみの表示、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示を切り替えます。

「機能」 – 「表示装置の切り替え」 (→ P.85)

14 【Win】 (Windows) キー

「スタート」メニューを表示します。

15 【Alt】 キー

他のキーと組み合わせて使います。

16 【Space】 キー

空白を入力します (キーボード手前中央にある、何も書かれていない横長のキーです)。

17 【Alt】 (アプリケーション) キー

選択した項目のショートカットメニューを表示します。

マウスの右クリックと同じ役割をします。

18 【Home】 キー

【Fn】キーと一緒に押すと、カーソルを行の最初に移動します。

また、【Ctrl】キーと一緒に押すと、文章の最初に移動します。

19 【Pg Up】 キー

【Fn】キーと一緒に押すと、前の画面に切り替えます。

20 【Pg Dn】 キー

【Fn】キーと一緒に押すと、次の画面に切り替えます。

21 【End】 キー

【Fn】キーと一緒に押すと、カーソルを行の最後に移動します。

また、【Ctrl】キーと一緒に押すと、文章の最後に移動します。

テンキーモードについて

文字キーの一部を通常の状態と切り替えて、テンキー (数値入力を容易にするキー配列) として使えるようにするモードを「テンキーモード」といいます。テンキーモードの切り替えは、【Num Lk】キーで行い (状態表示 LED の Num Lock ランプが点灯)、キーボードの図の太線で囲まれたキーがテンキーとなります。これらのキーで入力できる文字は、各キーの前面に刻印されています。

POINT

- 別売のテンキーボードを接続している場合に【Num Lk】キーを押してテンキーモードにすると、テンキーボードのテンキーが有効となり、パソコン本体のキーボードのテンキー部は無効となります。
- BIOS セットアップの「キーボード／マウス設定」の「起動時の Numlock 設定」を「オン (Fn キー)」に設定すると、パソコン本体のキーボードのテンキー部が、【Fn】キーと一緒に押した場合のみテンキーモードで使えるようになります。

USB テンキーボードをお使いの場合

USB テンキーボードは、パソコン本体のテンキーモードとは独立してテンキーモードを切り替えることができます。

テンキーモードに切り替えるには、USB テンキーボードの【Num Lock】キーを押します。

POINT

- ・パソコンの電源を入れた時、またはパソコンに接続した時は、USB テンキーボードはテンキーモードになります。
- ・Excel 2003 をお使いのときに、テンキーの【-】キーを押すと拡張（選択）モードになることがあります。これは Excel 2003 の仕様によるものです。

5 バッテリについて

バッテリを充電する

1 AC アダプタを接続します。

AC アダプタを接続すると、充電が始まります。

状態表示 LED のバッテリ充電ランプ (→□) が点灯し、内蔵バッテリパックの充電状態が表示されます (→ P.34)。

2 バッテリ充電ランプが緑色点灯に変わったことを確認し、AC アダプタを取り外します。

POINT

- 充電時間については、「技術情報」－「仕様一覧」(→ P.180) をご覧ください。
- 本パソコンご購入時、または 1 ヶ月以上充電していない場合は、バッテリを充電してからお使いください。
- バッテリの充電は、バッテリ充電ランプが緑色点灯するまで充分に時間をかけて行い、満充電状態にしてください。
- バッテリ残量が 90% 以上残っている場合は、AC アダプタを取り付けても充電されません。89% 以下で充電されます。
- 電源が切れている場合、充電が完了してしばらくすると状態表示 LED の全表示が消灯します。
- 周囲の温度が高すぎたり低すぎたりすると、バッテリの充電能力は低下します。
- バッテリ運用直後の充電などでは、バッテリの温度が上昇しているため、バッテリの保護機能が働いて充電が行われない場合があります(バッテリ充電ランプがオレンジ点滅します)。しばらくして、バッテリの温度が低下すると充電が開始されます。

バッテリの充電状態 (バッテリ充電ランプ)

本パソコンに AC アダプタが接続されている場合、状態表示 LED のバッテリ充電ランプに、内蔵バッテリパックの充電状態を表示します。

LED 表示	バッテリパックの充電状態
緑色点灯	充電終了
オレンジ点灯	充電中
オレンジ点滅	充電停止中 (バッテリ温度アラーム時など ^注)

注: バッテリ温度アラームとは、内蔵バッテリパックが熱を持って温度が高くなったり、冷やされて温度が低くなったりした場合に、バッテリの保護機能が働いて充電を停止することです。

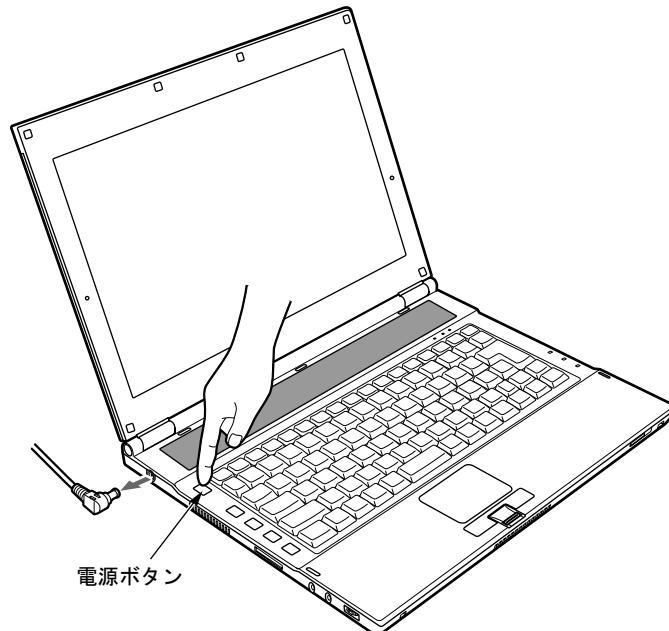
POINT

- バッテリ充電ランプが消灯している時は、AC アダプタが接続されていません。
- 内蔵バッテリパックが取り付けられていない場合にも、バッテリ充電ランプが「緑色点灯」表示になります。

バッテリで運用する

1 ACアダプタを取り外し、電源ボタンを押します。

電源ランプが点灯します。



2

POINT

- ・周囲の温度が低いと、バッテリ稼働時間は短くなります。
- ・バッテリ稼働時間については、「技術情報」－「仕様一覧」(→P.180)をご覧ください。
- ・バッテリを長期間使用すると充電する能力が低下するため、バッテリ稼働時間が短くなります。稼働時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリに交換してください(→P.39)。

バッテリ残量を確認する

バッテリの残量は、電源が入っているときや充電中に、状態表示 LED のバッテリ残量ランプで確認できます。

バッテリの残量表示（バッテリ残量ランプ）

パソコンが動作状態のときは点灯し、スタンバイのときは点滅します。

緑色点灯／点滅 約 100%～約 50% のバッテリレベルを示します。



オレンジ点灯／点滅 約 49%～約 13% のバッテリレベルを示します。



赤色点灯／点滅 LOW バッテリ状態（約 12%以下のバッテリレベル）を示します。LOW バッテリ状態では、スピーカーが ON の場合は警告音が鳴ります。

POINT

- ・バッテリ残量ランプは、バッテリ（リチウムイオン電池）の特性上、使用環境（温度条件やバッテリの充放電回数など）により、実際のバッテリ残量とは異なる表示をする場合があります。
- ・バッテリ残量が 90%以上残っている場合は、AC アダプタを取り付けても充電されません。89%以下で充電されます。
- ・バッテリ残量ランプは、動作状態またはバッテリ充電中に点灯します。スタンバイ状態で、AC アダプタが接続されていない場合には、点灯ではなく点滅になります。
- ・電源 ON 時に早い間隔で赤色点滅する場合は、バッテリが正しく充電できないことを示します。

バッテリ温度アラーム（バッテリ充電ランプ）

バッテリ充電ランプのオレンジ点滅は、内蔵バッテリパックが熱を持って温度が高くなったり、冷やされて温度が低くなったときに、バッテリの保護機能が働いて充電を停止していることを表しています。しばらくして内蔵バッテリパックの温度が平常に戻ると、点灯になり充電を再開します。

バッテリの異常表示（バッテリ残量ランプ）

バッテリ残量ランプが、早い間隔で赤色点滅する場合は、バッテリが正しく充電できないことを示します。

POINT

- ・バッテリ残量ランプが早い間隔で赤色点滅している場合は、パソコン本体の電源を切ってからバッテリの取り付けをやり直してください。それでも赤色点滅している場合はバッテリが異常です。新しいバッテリと交換してください。
内蔵バッテリの交換については「内蔵バッテリパックを交換する」（→ P.39）をご覧ください。

LOW バッテリ状態

バッテリが LOW バッテリ状態になると、状態表示 LED のバッテリ残量ランプが赤色点灯／点滅します。すみやかに AC アダプタを接続して、バッテリを充電してください。

POINT

- ・ Windows の省電力機能で警告音が鳴るように設定できます。詳しくは、「機能」－「省電力の設定」(→ P.106) をご覧ください。
ただし、スピーカーを OFF にしていると、警告音が聞こえません。【Fn】+【F3】キーを押して、スピーカーの ON と OFF を切り替えてください。
 - ・ Windows の起動前 (BIOS セットアップなど) では、警告音が鳴るように設定できません。
 - ・ LOW バッテリ状態のまま使い続けると、作成中または保存中のデータが失われることがあります。すみやかに AC アダプタを接続してください。また、AC アダプタがない場合は、作成中のデータを保存し、動作中のソフトウェアを終了後、本パソコンの電源を切ってください。
 - ・ ハードディスクへの読み書きは大量の電力を使用します。LOW バッテリ状態で、ハードディスクへデータを保存する場合は、AC アダプタを接続してください。
 - ・ LOW バッテリ状態のまま放置すると、自動的にスタンバイします。ただし、ハードディスクなどデータの読み書きを行っている場合は、その処理が終了するまでスタンバイしません。
 - ・ 本パソコンではバッテリ残量が約 3% になったら、自動的にスタンバイするように設定されています。設定を変更する場合は、次の項目のチェックを外してください。
 - ・ 「電源オプションのプロパティ」ウィンドウの「アラーム」タブの「バッテリ切れアラーム」の「電源レベルが次に達したらバッテリ切れアラームで知らせる」
- ただし、これらの設定を変更すると、バッテリが切れた時点で電源が切断されます。そのため、保存中や作成中のデータが失われたり、パソコン本体の動作が不安定になることがあります。

2

取り扱い上の注意

⚠ 警告



- ・ バッテリの交換などで、バッテリパックの取り付け／取り外しを行うときは、落としたり、強い衝撃を与えないでください。また、落としたり、強い衝撃を与えたバッテリパックは使用しないでください。
感電や火災、バッテリパックの破裂の原因となります。

・ 分解しないでください

バッテリを分解して内部に触れると、感電・火災の原因となります。

・ 放電について

- バッテリは、充電後にお使いにならなくても、少しづつ自然放電していくので、使う直前に充電することをお勧めします。
- 長期間（約 1ヶ月以上）本パソコンをお使いにならない場合は、バッテリを取り外して涼しい場所に保管してください。パソコン本体に取り付けたまま長期間放置すると過放電となり、バッテリの寿命が短くなります。

・ 寿命について

- パソコン本体を長期間使用しない場合でも、バッテリは消耗し劣化します。月に一度はパソコン本体をバッテリで運用し、バッテリの状態を確認してください。
- 高温環境に放置した場合、バッテリの消耗、劣化が進みます。

- 短時間に大量の電力を消費したり、バッテリ切れ状態になるまで使用したりすると、バッテリの消耗、劣化が進みます。
- 「電源オプションのプロパティ」または「電源の管理のプロパティ」で次のように設定すると、バッテリの寿命が長くなります。
 - ・「電源設定」で「バッテリの最大利用」またはそれに準じた設定にする
 - ・「アラーム」タブの「バッテリ切れアラーム」のチェックを外さない
- バッテリは消耗品なので、長期間使用すると充電能力が低下します。その場合は新しいバッテリと交換してください。
- バッテリの稼働時間が極端に短くなってきたらバッテリの寿命です。
- 寿命になったバッテリは、パソコン本体から取り外してください。取り付けたまま放置すると、感電や火災の原因となります。

- ・ **廃棄・リサイクルについて**

バッテリを廃棄する場合は、ショート（短絡）防止のために、バッテリパックのコネクタに絶縁テープを貼るなどの処置を行ってください。なお、取り外したバッテリパックは乾電池などの電池と混ぜないようにしてください。

また、バッテリパック（リチウムイオン電池）は、貴重な資源です。廃棄する場合は、リサイクルにご協力をお願いします。

バッテリパックのリサイクルについては、『取扱説明書』をご覧ください。

- ・ **バッテリ稼働時間について**

- バッテリ稼働時間を長くするには、省電力機能を利用します。詳しくは、「機能」－「省電力」（→ P.104）をご覧ください。
- バッテリ稼働時間は環境温度に影響され、低温時はバッテリ稼働時間が短くなる場合があります。

- ・ **次のような場合は AC アダプタを使用してください**

- ハードディスクや CD などを頻繁に使用するとき
- LAN を頻繁に使用するとき
- 本パソコンをご購入時の状態に戻すとき

- ・ **次のような場合は、バッテリ残量に注意してください**

- 無線 LAN などのワイヤレス機器を使用するとき
- BIOS セットアップを操作するとき

内蔵バッテリパックを交換する

内蔵バッテリパックの交換は、プログラムやデータをハードディスクなどに保存してから行います。

⚠ 警告



- ・バッテリパックの交換を行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。また、パソコン本体やバッテリパックのコネクタに触れないでください。感電や故障の原因となります。

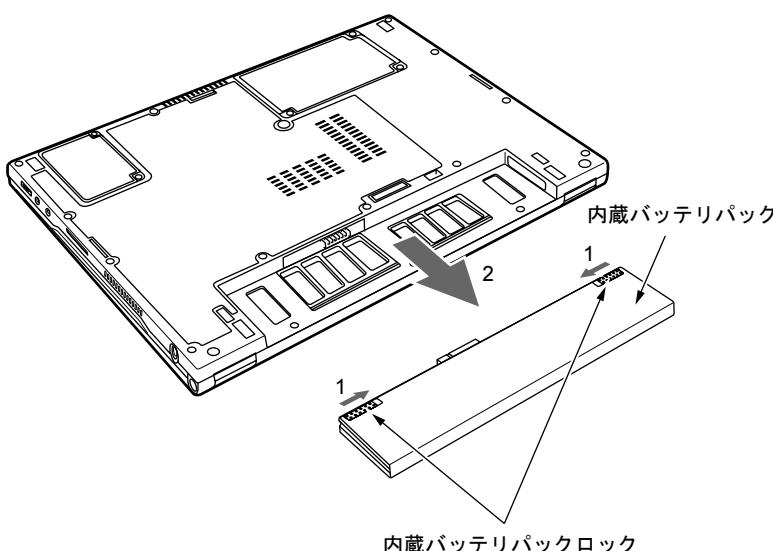
2

POINT

新しい内蔵バッテリパックは、次の製品をお買い求めください。

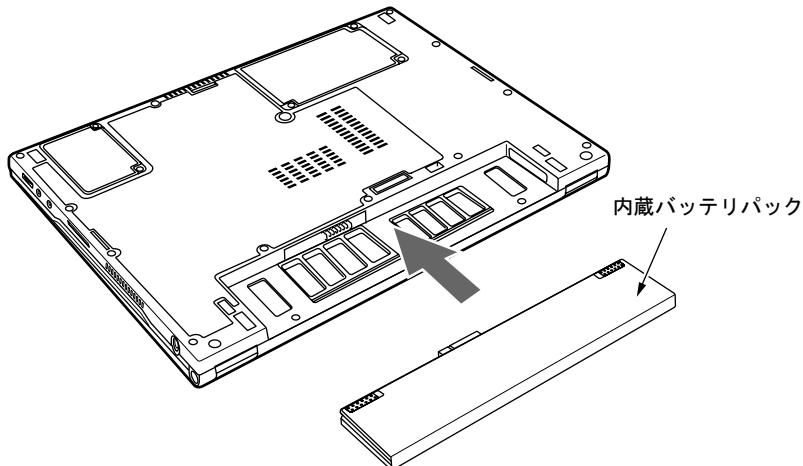
品名：内蔵バッテリパック
型名：FMVNBP151
品名：内蔵バッテリパック（M）
型名：FMVNBP152
品名：内蔵バッテリパック（L）
型名：FMVNBP153
(ご購入元にお問い合わせください)

- 1 パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します（→『取扱説明書』）。
- 2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。
- 3 内蔵バッテリパックロックを矢印の向きにスライドさせながら（1）、内蔵バッテリパックを取り外します（2）。



4 新しい内蔵バッテリパックを取り付けます。

内蔵バッテリパックをパソコン本体と水平に差し込み、カチッと音がするまで押し込みます。バッテリパックは自動的にロックされます。



※ 重要

- 取り外した内蔵バッテリパックは、ショート（短絡）防止のために、内蔵バッテリパックのコネクタに絶縁テープを貼るなどの処置をしてください。なお、取り外した内蔵バッテリパックは乾電池などの電池と混ぜないようにしてください。また、内蔵バッテリパック（リチウムイオン電池）は、貴重な資源です。廃棄する場合は、リサイクルにご協力をお願いします。
- リサイクルについては、『取扱説明書』をご覧ください。

6 ポータブルCD/DVD ドライブについて

使用できるディスク

2

- 次のマークのついたディスク

ディスクの種類		読み込み	書き込み	書き換え
CD-ROM		○	×	×
CD-ROM XA		○	×	×
CD-DA (音楽 CD)		○	×	×
Video CD		○	×	×
CD-EXTRA	 	○	×	×
CD TEXT ^{注1}		○	×	×
Photo CD ^{注2}		○	×	×
CD-R		○	○	×
CD-RW	  	○	○	○
DVD-Video ^{注3}		○	×	×

ディスクの種類		読み込み	書き込み	書き換え
DVD-ROM		○	×	×
DVD-RAM ^{注4}		○	×	×
DVD-R		○	×	×
DVD-RW		○	×	×
DVD+R		○	×	×
DVD+R DL		○	×	×
DVD+RW		○	×	×

注1：付属ソフトウェアを使用することにより、再生が可能です。

注2：使用時には市販の専用ソフトが必要です。

注3：再生可能なDVD-Videoは、リージョンコードが「2」か、「ALL」と書かれているディスクです。リージョンコードが異なる場合は設定の変更が必要です。リージョンコードの変更は4回まで、最後に設定したリージョンコードに固定されます。

注4：DVD-RAMの再生は、カートリッジから取り出し可能なメディア、またはカートリッジがないメディアに限ります。

- 本製品に使用するディスクは、以下のものを推奨します。

ディスク	メーカー
CD-R	太陽誘電(株)、(株)リコー、三菱化学メディア(株)、日立マクセル(株)
CD-RW	三菱化学メディア(株)、富士通サプライ品

富士通サプライ用品については、以下にお問い合わせ下さい。

富士通コワーコ株式会社 お客様総合センター

0120-505-279

9:00～17:30（土曜・日曜・祝日・年末年始除く）

<http://jp.fujitsu.com/coworco/>

DVD-RAMディスクについて

- DVD-RAMディスクは、「記録できるDVD」として、パソコンデータの大容量記録再生を目的に開発されたリムーバブルディスクです。
- DVD-RAMディスクには、以下のタイプがあります。
 - TYPE1：カートリッジからのディスクの取り出しができません。
 - TYPE2：片面のディスクで、カートリッジからディスクの取り出しができます。
 - TYPE4：両面のディスクで、カートリッジからディスクの取り出しができます。
 - カートリッジなし

- ・本機でご使用いただける DVD-RAM ディスクは、カートリッジなしのタイプです。TYPE2 または TYPE4 の DVD-RAM ディスクは、カートリッジからディスクを取り出してご使用ください。また TYPE1 はご使用できませんのでご注意ください。
本製品では読み込みのみ対応しています。

※重要

- ・省電力モードには対応しておりません。
- ・ディスクをお使いになるときは、次の点に注意してください。
 - ・ケースから取り出すときやパソコンにセットするときなど、ディスクは両面とも触れないようにしてください。
 - ・ディスクは両面とも指紋やほこり、傷などをつけないでください。
 - ・ディスクは両面ともラベルを貼ったり、ボールペンや鉛筆などで字を書いたりしないでください。
 - ・曲げたり、重いものを載せたりしないでください。
 - ・中心の穴を大きくしないでください。
 - ・汚れたり、水滴がついたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側に向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
 - ・シリコンクロスは使用しないでください。
 - ・ヘアードライヤーなどで乾燥させたり自然乾燥させないでください。
 - ・ベンジン、シンナー、レコードスプレー、静電気防止剤などで拭かないでください。
 - ・コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
 - ・高温や低温の場所に保管しないでください。
 - ・湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。
 - ・使わないときは、ケースに入れて保管してください。
- ・円形以外（星型やカード型などの変形）のディスクはお使いにならないでください。正常に読み出しや書き込みが行えなかったり、故障の原因となる場合があります。
- ・傷またはヒビの入ったディスクをお使いになると、ドライブ内部で破損する場合があります。
- ・ゆがんだディスク、割れたディスク、ヒビの入ったディスクはお使いにならないでください。故障の原因となることがあります。これらのディスクをお使いになり故障した場合は、保証の対象外になります。
- ・市販の CD-ROM クリーニングディスクを使ってクリーニングを行うと、レンズにゴミなどが付着することがあります。CD-ROM クリーニングディスクはお使いにならないでください。
- ・規格外の厚さの DVD 媒体はお使いにならないでください。DVD 規格では媒体の厚さを 1.14mm ~ 1.5mm と規定しています。記録面が薄い媒体など、一部でもこの範囲外の厚さになっている媒体をお使いになると故障する場合があります。規格外の DVD 媒体をお使いになり故障した場合は保証の対象外となります。
- ・コピーコントロール CD については、現状の音楽 CD の規格に準拠していない特殊なディスクのため、本パソコンでの再生および動作保証はできません。コピーコントロール CD のご使用中に不具合が生じた場合は、各コピーコントロール CD の発売元にお問い合わせください。なお、正式な音楽 CD 規格に準拠した CD には、次のようなロゴが表示されています。

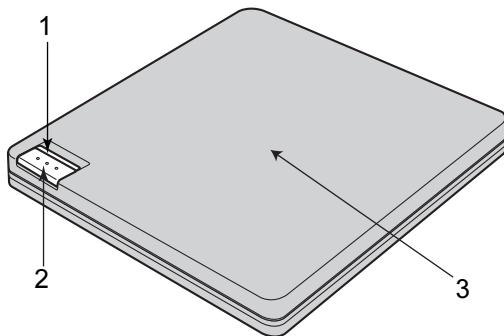


POINT

- ・不正コピー防止の仕様に準拠していない DVD ディスクや Video CD は、正常に再生できない場合があります。
- ・DVD-Audio はお使いになれません。

各部の名称と働き

表面



1 インジケーター

- ・緑色点灯：本製品の電源が入っている状態です。
- ・オレンジ色点灯：記録・再生している状態です。
SmoothLink 機能時は一時的に緑色点灯に変化します。

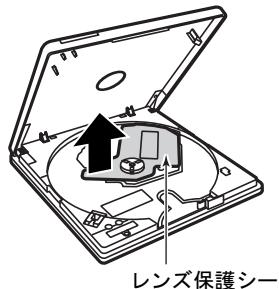
2 オープン

ディスクに記録中はロックされています。

3 ディスクカバー

※ 重要

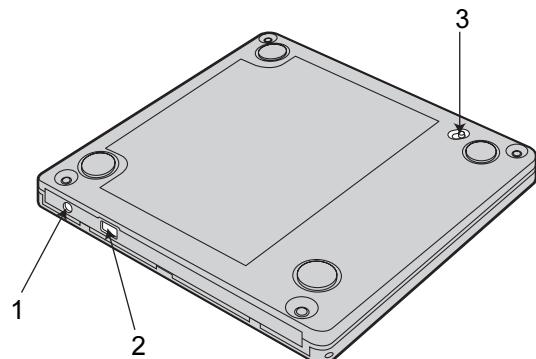
- ・ディスクカバーを開くには「ディスクをセットする／取り出す」(→P.48)をご覧ください。
- ・ご使用になる前に必ず本製品のレンズ保護シートを取り外してください。



POINT

- ・オープンボタンを押したり、記録が終了した場合などに、ディスクカバーのロックが解除されます。続けてご使用になる場合は、ディスクカバーを完全に開いてからディスクカバーを閉じてください。

裏面



- 1 DC 入力端子**
- 2 USB コネクタ**
- 3 強制オープンレバー**

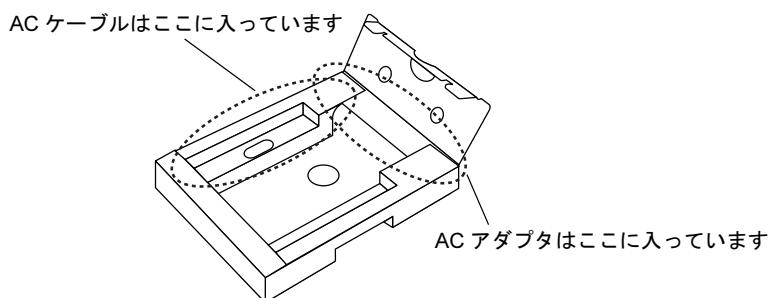
ポータブル CD/DVD ドライブの取り付け／取り外し

本体とポータブル CD/DVD ドライブの接続

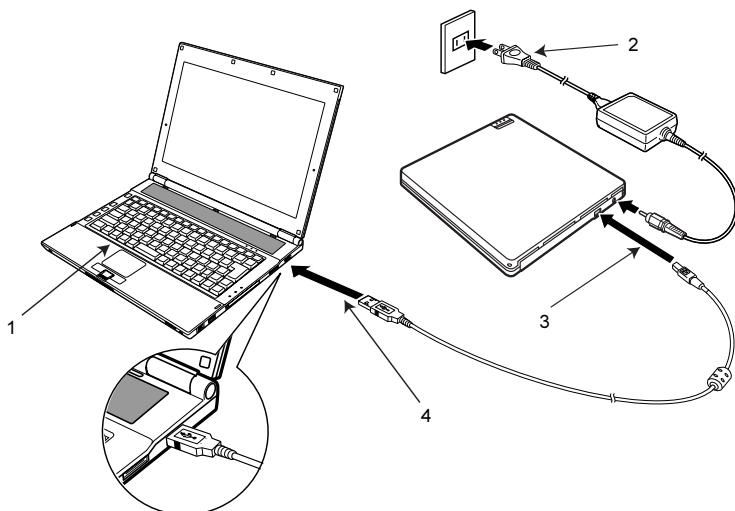
接続は確実に行ってください。

※ 重要

- 添付の USB ケーブル以外は使用しないでください（本製品やパソコン本体を損傷するおそれがあります）。
- ポータブル CD/DVD ドライブは、AC アダプタ（ポータブル CD/DVD ドライブ用）と AC ケーブル（ポータブル CD/DVD ドライブ用）を接続しないと使うことができません。ポータブル CD/DVD ドライブには、ポータブル CD/DVD ドライブ用の AC アダプタと AC ケーブルを必ず接続してください。AC アダプタと AC ケーブルは、ポータブル CD/DVD ドライブの箱の次の場所に入っています。



- ポータブル CD/DVD ドライブの箱に入っている取扱説明書はお使いになれません（掲載されている情報の一部が本パソコンの仕様と異なっています）。
- ポータブル CD/DVD ドライブの箱に入っている CD はお使いになれません。本パソコンにインストール済みのソフトウェアを使用するか、本パソコンに添付されている「リカバリ & ユーティリティディスク／アプリケーションディスク1」をお使いください。
- 長時間使用しないときは、節電のため AC アダプタを電源コンセントから抜いておいてください。AC アダプタを接続した状態でも、約 1 W の電力を消費しています（AC100V 時）。
- AC アダプタを電源コンセントに接続する場合は、本製品近くの容易に抜き差しできる電源コンセントをお使いください。
- 本製品は、パソコン本体の USB コネクタに直接接続してください。USB ハブ経由での接続は動作保証いたしかねます。



- 1 パソコン本体を起動します。
 - 2 本製品にACアダプタを接続します。
 - 3 付属のUSBケーブルのコネクタ（小さい方）を、本製品のUSBコネクタに差し込みます。
 - 4 片方のUSBケーブルのコネクタ（大きい方）をパソコンのUSBコネクタに差し込みます。
- 本製品の電源が自動的に入り、インジケータが緑色に点灯します。

POINT

- ・本製品の電源は、パソコンの電源に連動して自動的にオン／オフされます。ただし、パソコン本体によっては、パソコン本体の電源を切っても、本製品の電源が切れない場合があります。
- ・USBケーブルを抜き差しすることで、本製品の電源は自動的にオン／オフされます。

USBケーブルの取り外し

重要

- ・USBケーブルを取り外す前に、書き込みソフトでの記録やデータ・音楽の再生などの作業を終了し、あらかじめ本製品からディスクを取り出してください。

- 1 通知領域（タスクトレイ）の「取り外し」アイコンをクリックします。
メッセージが表示されます。
- 2 表示されたメッセージをクリックします（表示されるメッセージは状況により異なります）。
「USB大容量記憶装置デバイス - ドライブ (E:) を安全に取り外します」
- 3 「'USB大容量記憶装置デバイス'は安全に取り外すことができます。」と表示されるのを確認して、「閉じる」ボタンまたは「OK」をクリックします。
- 4 USBケーブルを抜きます。

POINT

- ・インジケーターがオレンジ色に点灯中は、USBケーブルやACアダプタを抜かないでください。また、スタンバイ／休止状態に移行させないでください。
データ破壊のおそれやパソコンが正常に操作できなくなることがあります。パソコンの操作が正常にできなくなった場合には、Windowsを再起動してください。
- ・本製品にディスクが入っている状態ではUSBケーブルを抜かないでください。
- ・「DLA」をご使用の場合には、「マイコンピュータ」のドライブを右クリックし、「取り出し」を選択してからUSBケーブルを抜いてください。

ディスクをセットする／取り出す

本製品は電動オープン機構になっているため、電源が入っていないときはオープンボタンを押してもディスクカバーは開きません。

※ 重要

- ・ディスクはデータの読み出しなどの際、高速で回転するため、使用時に振動や風切音がすることがあります。

POINT

- ・ディスクカバーは、ディスクのセット／取り出しの場合以外は閉めておいてください。ほこりが入り、故障の原因となります。
- ・レンズに手を触れないでください。故障の原因となります。

ディスクのセット

1 本製品をパソコンに接続します。

本製品の電源は、パソコン本体の電源に連動して自動的にオン／オフされます。

POINT

- ・パソコン本体の電源の入れ方については、パソコン本体に添付のマニュアルをご覧ください。

2 オープンボタンを押します。

ディスクカバーが少し開きます。

3 ディスクカバーを持ち上げて開きます。

4 ディスクをセットします。

ディスクの中心付近をディスクが固定されるまで指で押さえてはめ込みます。



※ 重要

- ・ディスクをきちんとはめ込まないと、ディスクがドライブ内部で外れて、ドライブ内部およびディスクを破損する原因となることがあります。

5 ディスクカバーを閉じます。

POINT

- ・オープンボタンを押したり、記録が終了した場合などに、ディスクカバーのロックが解除されます。そのまま続けてご使用いただく場合は、ディスクカバーを一度完全に開いてからディスクカバーを閉じてください。
- ・本製品で使用できるDVD-RAMディスクは、カートリッジなしのタイプです。TYPE2またはTYPE4のDVD-RAMディスクは、カートリッジからディスクを取り出してご使用ください。

2

ディスクの取り出し

重要

- ・ディスクの取り出し操作をする前に、本製品のインジケータがオレンジ色に点灯していないことを確認してください。

POINT

- ・データ書き込み中（インジケータがオレンジ色に点灯中）は、ディスクカバーがロックされているため、書き込みが終了するまでディスクカバーを開けることはできません。
- ・「DLA」をご使用の場合には、次の方法で取り出してください。
 1. 「マイコンピュータ」のドライブアイコンを右クリックします。
 2. 表示されたメニューから「取り出し」を選択します。

1 本製品をパソコンに接続します。

本製品の電源は、パソコン本体の電源に連動して自動的にオン／オフされます。

2 オープンボタンを押します。

ディスクカバーが少し開きます。

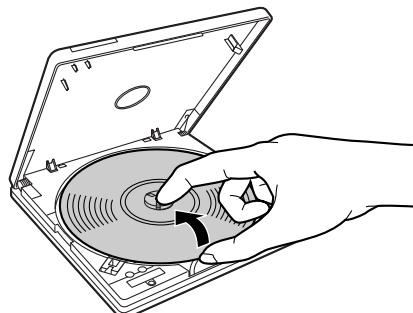
3 ディスクカバーを持ち上げて開きます。

4 ディスクを取り出します。

中央部分を押さえながら、端の方からつまみあげるようにして、取り出します。

POINT

- ・本製品にディスクが入っている場合は、使用中のソフトウェアからディスクの「取り出し」を選択してもディスクカバーを開くことができます。



ディスクが取り出せないときは

データ書き込み中の故障や停電などでオープンボタンを押してもディスクカバーが開かない場合は、ディスクカバーロックを強制的に解除し、ディスクカバーを開けることができます。

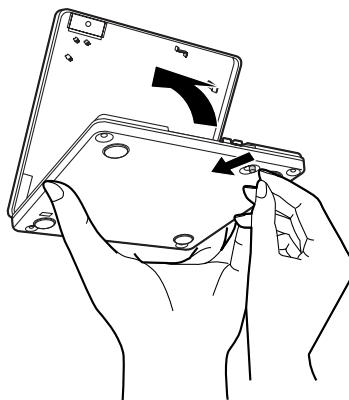
1 本製品裏側の強制オープンレバーをスライドさせます。

ディスクカバーが少し開きます。

2 ディスクカバーを持ち上げて開きます。

※重要

- ・ディスクの回転が止まらないときは、ACアダプタをコンセントから抜いて、完全に回転を止めてください。
回転中にディスクカバーを開けるとディスクが外れて飛び出し、ディスクや本製品を破損したり、けがの原因となる可能性があります。



7 ドッキングステーションについて

※重要

- ・ドッキングステーションをお使いになる場合は、必ずドッキングステーションの DC-IN コネクタに AC アダプタを接続してください。なお、内蔵バッテリパック (S) をお使いの場合、バッテリ運用時にはドッキングステーションのスーパーマルチドライブはお使いになれません。
- ・ドッキングステーションをお使いになる場合は、本パソコンの電源、およびドッキングステーションに接続している周辺機器の電源を切った状態で、取り付け、取り外しを行ってください。
- ・ドッキングステーション接続時には、パソコン本体右側面の CRT/LAN 変換コネクタはお使いになれません。

使用できるディスク

ドッキングステーションには、スーパーマルチドライブが搭載されております。スーパーマルチドライブでは次のディスクが使用できます。
なお、DVD-RAM/R/RW、DVD-R DL、DVD+R/RW および DVD+R DL は、「PC データ用」をお使いになることをお勧めします。

		読み込み	書き込み	書き換え
CD-ROM		○	×	×
音楽 CD		○	×	×
ビデオ CD		○	×	×
CD-R		○	○ ^{注1}	×
CD-RW		○	○ ^{注1注2}	○ ^{注1注2}
DVD-ROM		○	×	×
DVD-Video		○	×	×
DVD-R (for Authoring) (3.95GB / 4.7GB)		○	○ ^{注1}	×
DVD-R (for General) (4.7GB)		○	○ ^{注1}	×
DVD-R DL (8.5GB)		×	×	×

		読み込み	書き込み	書き換え
DVD-RW		○	○ ^{注1注2}	○ ^{注1注2}
DVD+R (4.7GB)		○	○ ^{注1}	×
DVD+R DL (8.5GB)		○	○ ^{注1}	×
DVD+RW (4.7GB)		○	○ ^{注1注2}	○ ^{注1注2}
DVD-RAM ^{注3} (4.7GB / 9.4GB)		○	○	○
DVD-RAM2 ^{注4}		×	×	×

注1 :CD-R や CD-RW、DVD-R、DVD-RW、DVD+R、DVD+R DL、DVD+RW へのデータの追記は「Roxio DigitalMedia」で行います。

なお、データの追記を行うためには、「Roxio DigitalMedia」を使ってディスクにデータの書き込みを行う際に、ディスクを追記可能の状態にしておく必要があります。詳しくは、「Roxio DigitalMedia」のヘルプをご覧ください。

注2 :CD-RW、DVD-RW、DVD+RW に書き込んだデータを削除するには、ディスクに書き込まれているデータをすべて消去する必要があります。

注3 :DVD-RAM は、カートリッジなしタイプまたはカートリッジからディスクが取り出せるタイプをご購入ください。
カートリッジに入れた状態で使用するタイプ (Type1) は使用できません。また、無理に取り出して使わないでください。

・2.6GB および 5.2GB のディスクは、使用できません。

注4 :DVD-RAM2 は、5 倍速までの従来規格の DVD-RAM と異なり、6、8、12、16 倍速に対応した DVD-RAM です。

■推奨ディスク

ドッキングステーションのスーパーマルチドライブで書き込み、書き換えを行う場合は、次のディスクをお使いになることをお勧めします。

CD-R

太陽誘電 : CDR-74WPY、CDR-80WTY

CD-RW

富士通サプライ品 : CD-RW74/0241410

三菱化学メディア : SW74QU1、SW74EU1、SW80QU1、SW80EU1

DVD-RAM

日立マクセル : DRM47C.1P (4.7GB、カートリッジ無)

DRMC47C.1P (4.7GB、カートリッジ有、取り出し可)

DRMC94C.1P (9.4GB、カートリッジ有、取り出し可)

DVD-R

太陽誘電 : DVD-R47WPY、DR-47TY、DR-47WTY

DVD-R DL

三菱化学メディア : DHR85YP1、DHR85YP5

DVD-RW

日本ビクター : VD-RW47B、VD-W47F、VD-W47H

DVD+R

三菱化学メディア : DTR47HM5

DVD+R DL

三菱化学メディア : DTR85N1

DVD+RW

三菱化学メディア : DTW47U1

富士通サプライ品は、富士通コワーコ株式会社の取り扱い品です。お問い合わせ先については、『取扱説明書』をご覧ください。

上記以外の記録型ディスクをお使いの場合は、書き込み、書き換え速度が低下したり正常に書き込み、書き換えができない場合があります。

 **POINT**

次のことにご注意ください。

- ・本パソコンで作成した CD-R/RW は、お使いになる CD プレーヤーによっては再生できない場合があります。
- ・本パソコンで作成した DVD-RAM、DVD-R/RW、DVD-R DL、DVD+R/RW、および DVD+R DL は、お使いになる DVD プレーヤーによっては再生できない場合があります。
- ・また、再生に対応した DVD プレーヤーをお使いの場合でも、ディスクの記録状態によっては再生できない場合があります。

取り扱い上の注意

ディスクご使用時の注意事項

- ・ディスクは両面ともラベルを貼ったり、ボールペンや鉛筆などで字を書いたりしないでください。
- ・データ面をさわったり、傷をつけたりしないでください。
- ・曲げたり、重いものを載せたりしないでください。
- ・汚れたり、水滴がついたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側に向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
- ・コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- ・高温や低温の場所に保管しないでください。
- ・湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。
- ・パソコン本体のハードディスク／CD アクセスランプが点灯中は、振動や衝撃を与えないでください。
- ・CD 自動挿入機能（オートラン）が有効に設定されていると、正しく書き込みができないライティングソフトウェアがあります。ソフトウェアの指示に従って CD 自動挿入機能を設定してください。
- ・ディスクに書き込み中は、パソコン本体の電源を切ったり、再起動したり、CD/DVD 取り出しボタンを押したりしないでください。また、【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】キーを押す操作もしないでください。
- ・書き込み中にディスクのディスク面に傷を検出した場合、書き込みを中断することがあります。
- ・ディスクへの書き込みを行うときは、自動的にスタンバイまたは休止状態にならないように、省電力の設定を変更してください。

- ・ディスクへの書き込みには、多くの電力を使用します。パソコン本体にACアダプタを取り付けてお使いください。
- ・ディスクへの書き込み中は、他のソフトウェアを起動しないでください。他のソフトウェアを起動している場合は、そのソフトウェアを終了させてください。

DVD-Video ご使用時の注意事項

- ・次のDVD-Video がお使いになります。
 - DVD-Video に記録されているリージョン（地域）コードに「2」が含まれているか、「ALL」と書かれているディスク。
- ・ディスクの種類によっては、専用の再生ソフトが添付されている場合があります。ディスクに添付の再生ソフトをインストールした場合、「WinDVD」での再生は保証いたしません。また、ディスクに添付されている再生ソフトについても、弊社では保証いたしません。
- ・リージョン（地域）コードについて
 - リージョン（地域）コードの変更は4回までです。
リージョン（地域）コードを4回変更すると、最後に設定したリージョン（地域）コードに固定され、その他のリージョン（地域）コードのDVD-Videoは再生できなくなります。固定されたリージョン（地域）コードを変更する方法はありませんのでご注意ください。
 - 前回再生したDVD-Videoと、リージョン（地域）コードが異なるDVD-Videoを再生しようとすると、リージョン（地域）コード変更を確認するメッセージ画面が表示されます。このメッセージ画面で「OK」をクリックすると、リージョン（地域）コードの設定が変更されます。
 - ご購入時のリージョン（地域）コードは「2」です。
- ・DVDのディスクの種類によっては、著作権保護のため、コピー保護がかかる場合があります。「WinDVD」では、著作権保護として、デスクランブル機能および相互認証（Authentication）機能が用意されています。著作権保護のされたデータなどをコピーし、再生しても、相互認証エラー（Authentication Error）となり、再生できません（This DVD can't be played in this Region.と表示されます）。

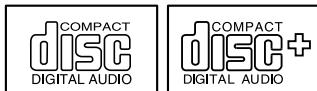
DVDディスク再生時の注意事項

- ・再生するDVD-Videoによっては、コマ落ちをする場合があります。
- ・WinDVDの設定を変更した直後は、DVD-Videoの再生が不安定になる場合があります。
- ・キャプション表示とサブタイトル表示を、同時に表示することはできません。
- ・MPEG1のデータによっては再生できないものがあります。
- ・市販されているウイルス対策ソフトと「WinDVD」を同時に起動することはできません。自動検索の機能を持つウイルス対策ソフトに関しては、「WinDVD」を起動する前に、一時的に起動しないようにしてください。なお、本パソコンに添付のアンチウイルスソフトは問題ありません。
- ・DVD-Videoの再生中に他のソフトウェアを起動すると、コマ落ち／音飛びする場合があります。コマ落ち／音飛びを防ぐために、起動しているソフトウェアはすべて終了してください。
なお、定期的に自動起動して、ウイルスチェック、ディスクメンテナンス、データベース更新およびデータ送受信処理などを行うソフトウェアについても、その頻度により音や映像の再生に影響が出ますので、必要に応じて終了してください。
- ・DVDディスクおよびビデオCDによっては、再生される映像データが表示エリア全体に表示されないものがあります。この場合は、表示の一部が黒くなります。

- マウスカーソルのデザインによっては、DVD 再生画面の上に移動したときにマウスカーソルが点滅することがあります。このような時は、「マウスのプロパティ」ウィンドウの「ポインタ」タブで、「デザイン」の設定を「なし」に変更してください。
- 縦横比が 16:9 で録画されている DVD-Video をフルスクリーン表示をさせた場合、ズーム機能が使用できないことがあります。

ドライブの注意事項

- 本パソコンは、円形のディスクのみお使いになれます。円形以外の異形ディスクは、お使いにならないでください。故障の原因となることがあります。異形ディスクをお使いになり故障した場合は、保証の対象外となります。
- 「ディスク使用時の注意事項」が守られていないディスク、ゆがんだディスク、割れたディスク、ヒビの入ったディスクはお使いにならないでください。故障の原因となることがあります。これらのディスクをお使いになり故障した場合は、保証の対象外となります。
- DVD 規格では媒体の厚さを 1.14mm ~ 1.5mm と規定しています。
記録面が薄い媒体など、一部でもこの範囲外の厚さになっている媒体をお使いになると故障する場合があります。
規格外の DVD 媒体をお使いになり故障した場合は保証の対象外となります。
- 市販の CD-ROM クリーニングディスクを使ってクリーニングを行うとレンズにゴミなどが付着することがあります。CD-ROM クリーニングディスクはお使いにならないでください。
- コピーコントロール CD は、現状の音楽 CD の規格に準拠していない特殊なディスクのため、本パソコンでの再生および動作保証はできません。コピーコントロール CD のご使用中に不具合が生じた場合は、各コピーコントロール CD の発売元にお問い合わせください。なお、正式な音楽 CD 規格に準拠した CD には、次のようなロゴが表示されています。



- 本パソコンでは、次図のマークがついた CD をお使いになれます。マークのない CD はお使いにならないでください。故障の原因となることがあります。
また、マークの種類によっては、ソフトウェアが必要になる場合があります。

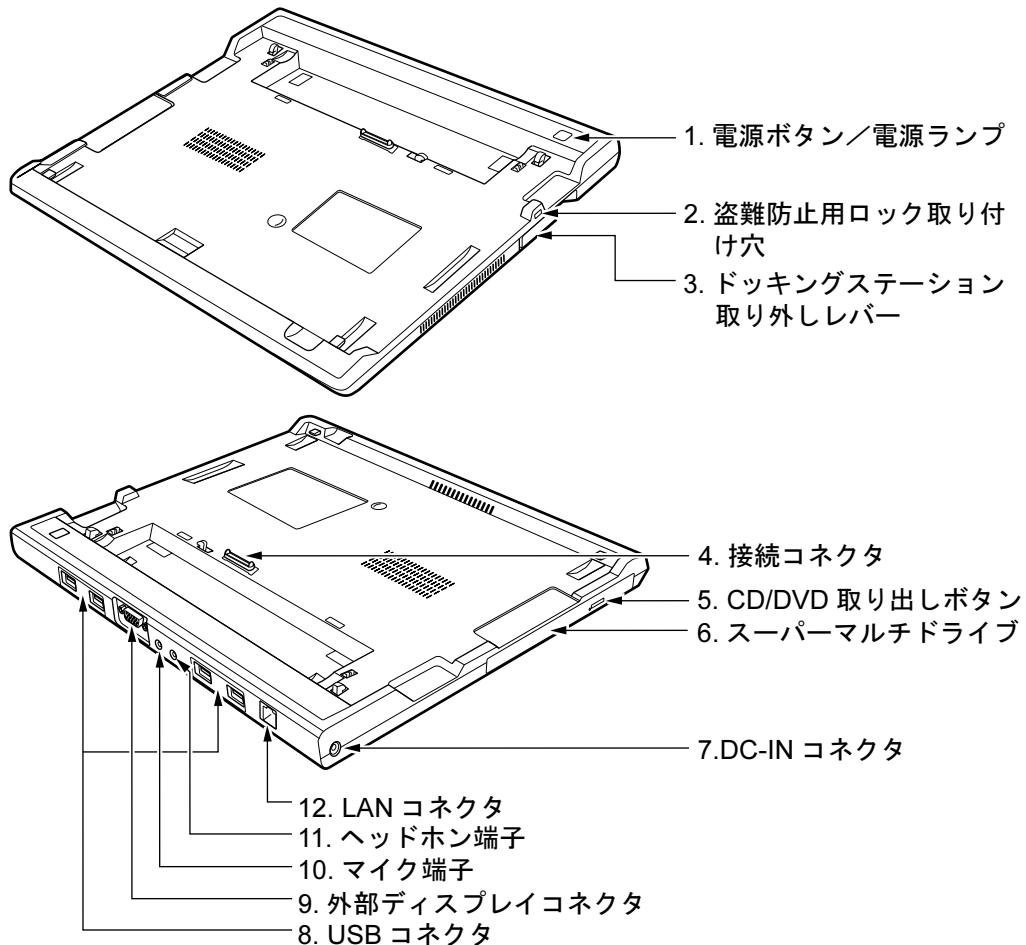


POINT

- スーパーマルチドライブをお使いの場合は、次の点にご注意ください。
 - 不正コピー防止の仕様に準拠していない DVD ディスクやビデオ CD は、正常に再生できない場合があります。
 - 本パソコンでは DVD-Audio など「使用できるディスク」(→ P.51) に記載されていないディスクの再生および動作保証はできません。
 - 「WinDVD」では DVD-Video および DVD-VR/+VR フォーマットのデータのみ再生できます。その他の形式でフォーマットされたデータの再生および動作保証はできません。

各部の名称と働き

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。



重要

- 各コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。
- ドッキングステーション接続時には、パソコン本体右側面のCRT/LAN 変換コネクタはお使いになれません。

1 電源ボタン／電源ランプ (⌖)

パソコン本体の電源を入れたり、スタンバイ（中断）／（リジューム）回復させるためのボタンです。

パソコンの電源が入っているときは、中央の電源ランプが点灯します。また、このほかに次の状態を表します。

- 点滅

スタンバイ状態を表します。

- 消灯

電源が切れている状態、または休止状態を表します。

2 盗難防止用ロック取り付け穴

市販の盗難防止用ケーブルを接続することができます。

3 ドッキングステーション取り外しレバー

ドッキングステーションをパソコン本体から取り外す場合に使用します。

4 接続コネクタ

パソコン本体のドッキングステーション接続コネクタに接続します。

5 CD/DVD 取り出しボタン

スーパーマルチドライブにディスクをセットしたり、取り出すときに押します。

6 スーパーマルチドライブ

CD-ROM/R/RW、またはDVD-ROM/RW/RAMの情報を読み出したりできます。

7 DC-IN コネクタ (—)

添付のACアダプタを接続するためのコネクタです。

8 USB コネクタ (•□□)

FDDユニット(USB)やUSB接続に対応したプリンタなど、USB規格対応の機器を接続するためのコネクタです。

USB2.0に準拠しているため、USB1.1およびUSB2.0に対応した機器が接続できます。

POINT

- ハブなどを経由してUSB2.0に対応した機器を接続した場合、ハブの性能によって接続した機器の性能が低下することがあります。

9 外部ディスプレイコネクタ (□)

アナログディスプレイなど、外部ディスプレイを接続するためのコネクタです。

「ハードウェア」—「外部ディスプレイについて」(→P.74)

10 マイク端子 (♪)

市販のマイクを接続し、音声(モノラル)を録音するための端子です(外径3.5mmのミニプラグに対応)。

ただし、市販されているマイクの一部の機種(ダイナミックマイクなど)には、使用できないものがあります。ご購入前に確認してください。

重要

- マイク端子には、マイク以外のコネクタを接続しないでください。故障の原因となることがあります。

11 ヘッドホン端子 (□)

市販のヘッドホンを接続するための端子です(外径3.5mmのミニプラグに対応)。

ただし、形状によっては取り付けられないものがあります。ご購入前に確認してください。

⚠ 注意



- ・ ヘッドホンやイヤホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないでください。
耳を刺激するような大きな音量で聞くと、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。
- ・ 電源を入れたり切ったりする前には音量を最小にしておいてください。また、ヘッドホンやイヤホンをしたまま、電源を入れたり切ったりしないでください。
突然大きな音や刺激音が出て、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

12 LAN コネクタ (昌昌)

LAN ケーブルを接続するためのコネクタです。

「機能」—「LAN について」(→ P.95)

ドッキングステーションを取り付ける

⚠ 注意



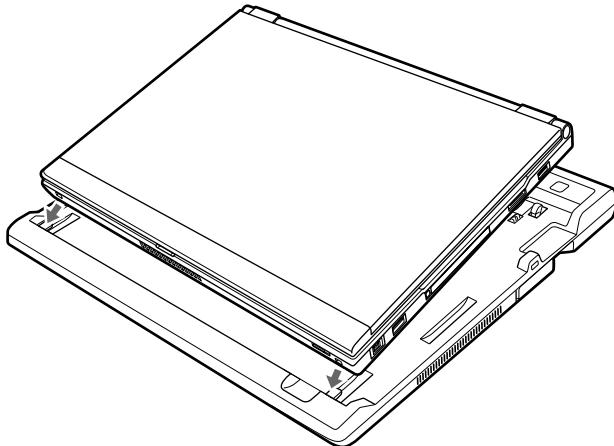
- ・ パソコン本体にドッキングステーションを取り付ける場合は、指をはさまないように注意してください。
けがの原因となることがあります。

☞ 重要

- ・ ドッキングステーション接続時には、必ずパソコン本体左側面の DC-IN コネクタから AC アダプタを、パソコン本体右側面の CRT/LAN 変換コネクタから CRT/LAN 変換ケーブルを取り外してください。破損するおそれがあります。

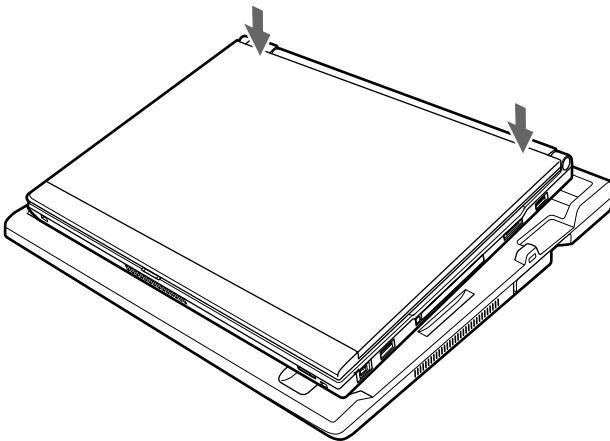
- 1 本パソコンの電源を切ります。ドッキングステーションに周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を切ります。
- 2 パソコン本体下面のドッキングステーション接続コネクタのカバーを外します。

3 ドッキングステーション手前内側のツメをパソコン本体前面のツメ穴に合わせます。



4 パソコン本体下面にドッキングステーションを取り付けます。

パソコン本体上面の奥側を軽く押さえて、ドッキングステーションにしっかりと取り付けます。



※重要

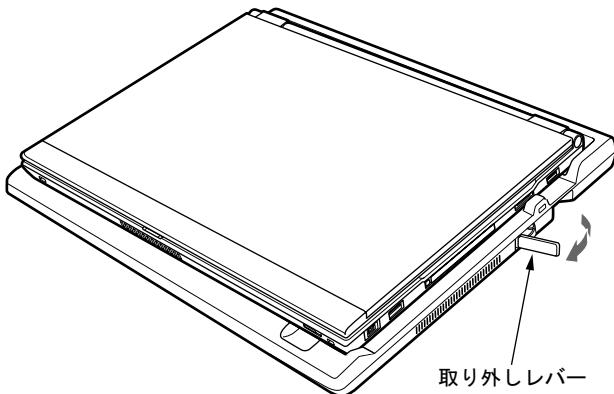
- ドッキングステーションを取り付ける場合、パソコン本体上面の奥側を軽く押さえてください。強く押さえると液晶ディスプレイが割れるおそれがありますので、注意してください。
- ドッキングステーションに周辺機器を取り付け／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
- 本パソコンを持ち運ぶ場合は、ドッキングステーションを必ず取り外してください。ドッキングステーションを接続した状態で本パソコンを持ち運ぶと、パソコン本体およびドッキングステーションのコネクタが破損するおそれがあります。

ドッキングステーションを取り外す

1 本パソコンの電源を切ります。ドッキングステーションに周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を切ります。

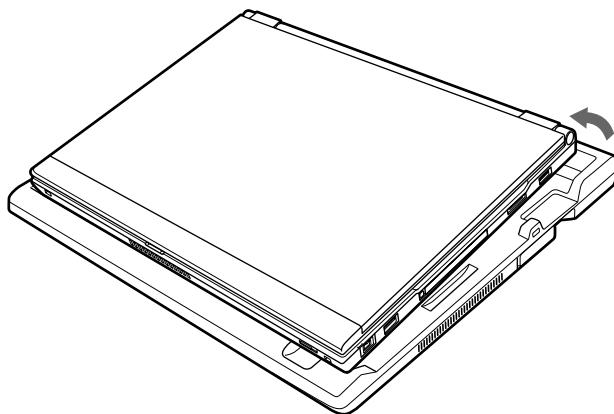
2 ドッキングステーションのロックを外します。

ドッキングステーションの取り外しレバーを起こして、ロックを外します。カチッとなるまで、取り外しレバーを起こしてください。



3 ドッキングステーションを取り外します。

パソコン本体を持ち上げて、ドッキングステーションを取り外します。



4 パソコン本体下面のドッキングステーション接続コネクタのカバーを取り付けます。

POINT

・本パソコンの電源が入っているときにドッキングステーションを取り外す場合は、次の手順で行ってください。

1. ドッキングステーションに接続している周辺機器の電源を切ります。

2. 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックし、表示された「USB 大容量記憶装置デバイスードライブ (E:) を安全に取り外します」などをクリックします。
3. 充分に時間がたってハードディスク／CD アクセスランプが点灯または点滅していないことを確認したら、ドッキングステーションを取り外します。

なお、本パソコンの動作状態やインストールされてるソフトウェアなどによっては、「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンが表示されなかったり、「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックしてもエラーが表示されたりすることがあります。

また、ドッキングステーションを取り外した後に本パソコンの動作が不安定になることがあります。

そのような場合は、手順 1～4 にしたがって、本パソコンの電源を切ってからドッキングステーションを取り外してください。

DVD-RAMへの書き込み／書き換えについて

ドッキングステーションのスーパーマルチドライブで DVD-RAM を作成する場合には、あらかじめ DVD-RAM ディスクをフォーマット（初期化）する必要があります。

9.4GB の両面タイプの DVD-RAM ディスクについては、片面ごとにフォーマットしてください。

DVD-RAM のフォーマット形式

DVD-RAM ディスクのフォーマットには、次のものがあります。

■ FAT 形式

Windows の標準フォーマットで、ハードディスクなどでも使用されています。

- ・FAT32

Windows の標準フォーマットです。

■ UDF (Universal Disk Format) 形式

DVD の統一標準フォーマットです。UDF 形式でフォーマットした DVD-RAM メディアでは、エラーチェックツールや最適化（デフラグ）ツールは実行できません。

- ・UDF1.5

DVD-RAM ディスクの標準フォーマットです。

- ・UDF2.0（「DVD-RAM ドライバーソフト」のみ選択可能）

DVD フォーラム策定の「ビデオレコーディングフォーマット規格」準拠のフォーマットです。

ソフトウェアについて

ドッキングステーションのスーパーマルチドライブで DVD-RAM に書き込み、書き換える場合は、DVD-RAM ドライバをインストールする必要があります。インストールする場合は「アプリケーションディスク 2」を用意してください。

1 Windows に「コンピュータの管理者」アカウントでログオンします。

2 「アプリケーションディスク 2」をセットします。

「FM かんたんインストール」ウィンドウが表示された場合は終了させてください。

3 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

「ファイル名を指定して実行」 ウィンドウが表示されます。

4 「名前」に半角英数で次のように入力し、「OK」をクリックします。

e:\dvdmulti\setup.exe

5 DVD-RAM ドライブをセットアップするための案内が表示されます。このあとは、案内に従って操作してください。

DVD-RAM ディスクに書き込むときの準備

DVD-RAM ディスクに書き込む前に、ドライブの設定を変更し、DVD-RAM ディスクをフォーマットしてください。

- 初めて DVD-RAM ディスクに書き込む場合は、次の手順でドライブの設定を変更してください。
 - 「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」の順にクリックします。
 - DVD-RAM を割り当てるドライブを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
 - 「書き込み」タブで「このドライブで CD 書き込みを有効にする」のチェックを外します。
 - 「OK」をクリックします。
- DVD-RAM ディスクをフォーマットする場合は、お使いになる目的にあわせて、フォーマット形式を選んでください。

ディスクをセットする／取り出す

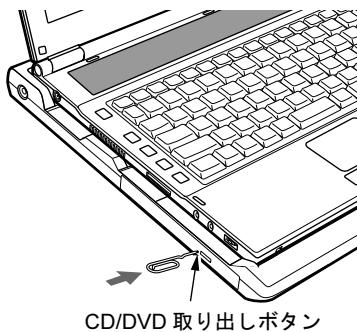
重要

- ディスクに頻繁にアクセスする場合などは、AC アダプタを取り付けることをお勧めします。バッテリのみで運用すると、バッテリの寿命が短くなる場合があります。
- ディスクをセットする場合は、トレー中央の突起にディスクの穴を合わせ、パチンと音がするようにしっかりとめ込んでください。きちんとめ込まないと、ディスクがドライブ内部で外れて、トレイやドライブ内部、およびディスクを破損する原因となることがあります。
- セットすると自動で始まるディスクを使用しているときにパソコン本体をスタンバイさせると、レジューム時にディスクが二重に起動してしまい、誤動作の原因となります。二重に起動してしまった場合は、ディスクのソフトウェアを一度すべて終了し、ディスクをセットし直してください。
- ディスクはデータの読み出しなどの際、高速回転するため、使用時に振動や風切音がすることがあります。これは故障ではありません。

POINT

- ドッキングステーションのスーパーマルチドライブは、電子ロックのため、パソコン本体が動作状態の場合のみディスクのセット／取り出しが可能です。
- シールを貼ったディスクなど、重心の偏った媒体を使用すると、ユニットに振動が発生し、充分な性能が出ない場合があります。
- トレーを最後まで押し込めない場合は、カシャッという音がするまでトレーを引き出し、再度押し込んでください。
- パソコン本体の電源が切れた状態では、トレーが閉まらないことがあります。この場合は、再度電源を入れて、トレーを閉めてください。

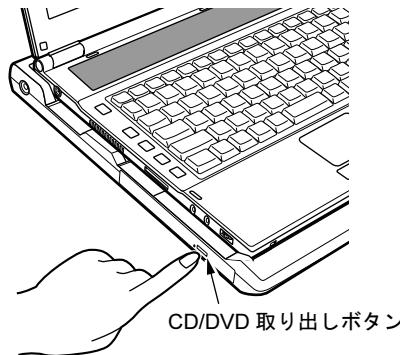
- ・何らかの原因で、CD/DVD 取り出しボタンを押してもトレーが出ない場合は、「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックし、「マイコンピュータ」ウィンドウの「CD アイコン」を右クリックして「取り出し」をクリックしてください。
- それでも出ない場合は、CD/DVD 取り出しボタンの横の穴にクリップの先などを差し込んで、トレーを引き出してください。



セットする

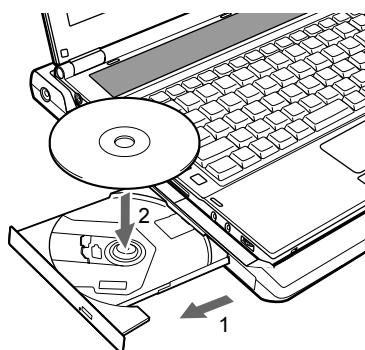
1 CD/DVD 取り出しボタンを押します。

トレーが少し飛び出します。

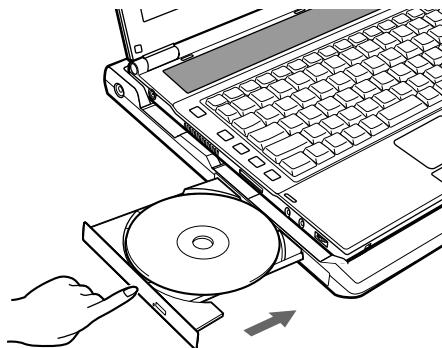


2 トレーを静かに引き出し (1)、ディスクをセットします (2)。

ディスクのラベル面を上にして、トレー中央の突起にディスクの穴を合わせ、パチンと音がするまでしっかりとはめ込んでください。きちんとはめ込まないと、再生できなかつたり、ディスクが取り出せなくなったりすることがあります。



3 トレーを静かに押し込みます。



POINT

- ・ディスクをセットしてから使用可能となるまでしばらく時間がかかります。また、マルチセッションディスクの場合、通常のディスクをお使いになるときと比べ、セットしてから使用可能となるまで、多少時間がかかることがあります。

取り出す

1 ディスクを利用しているソフトウェアを終了し、CD/DVD取り出しボタンを押します。

トレーが少し飛び出します。

2 トレーを手で支えながらディスクを取り出します。

トレー中央の突起を押さえながら、ディスクがパソコン本体にぶつからないように、ディスクのふちを持ち上げてください。

3 トレーを静かに押し込みます。

8 PC カードについて

2

取り扱い上の注意

故障を防ぐため、PC カードをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- ・ 温度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。
- ・ 強い衝撃を与えないでください。
- ・ 重い物を載せないでください。
- ・ コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。
- ・ 保管する場合は、必ずケースに入れてください。

POINT

- ・ 本パソコンでは LAN カードが使えない場合があります。
- ・ 本パソコンでは、3.3V または 5V を使用する PC カードのみサポートしています。12V を使用する PC カードはサポートしていません。

PC カードをセットする

△ 注意



- ・ PC カードをセットするときは、PC カードスロットに指を入れないでください。けがの原因となることがあります。

○ 重要

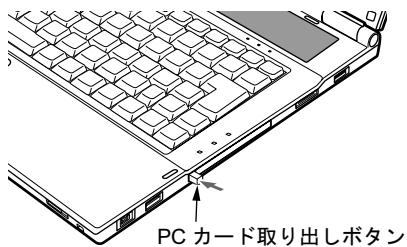
- ・ PC カードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまつた静電気により破壊される場合があります。PC カードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

POINT

- ・ PC カードによっては、セットするときに電源を切る必要のあるものがあります。お使いになる PC カードのマニュアルで確認してください。
- ・ PC カードによっては、ドライバのインストールが必要なものがあります。お使いになる PC カードのマニュアルをご覧になり、必要に応じてドライバをインストールしてください。

1 PC カード取り出しボタンを押します。

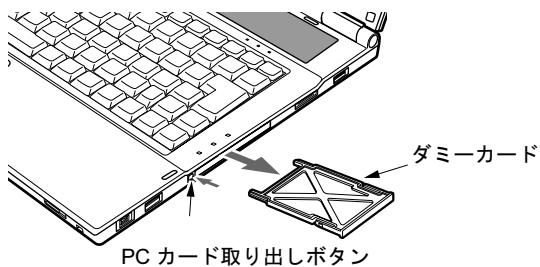
PC カード取り出しボタンを軽く 1 回押すと、ボタンが少し飛び出します。



PC カード取り出しボタン

2 PC カードスロットからダミーカードを取り出します。

3 飛び出した PC カード取り出しボタンを押し、ダミーカードを取り出します。



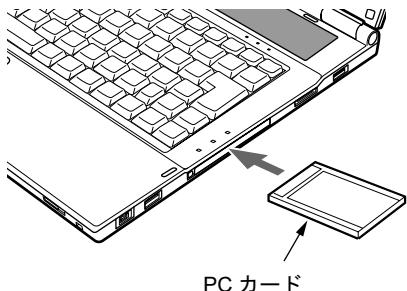
PC カード取り出しボタン

POINT

- 取り出したダミーカードは、なくさないように保管してください。

4 パソコン本体左側面の PC カードスロットに、PC カードをセットします。

PC カードの製品名を上にして PC カードスロットにしっかりと差し込みます。



PC カード

重要

- PC カード取り出しボタンが飛び出している場合は、必ず押し込んでください。PC カード取り出しボタンが飛び出した状態で PC カードをセットすると、ボタンが中に入らなくなります。また、ボタンが破損する原因となります。

- ・うまくセットできない場合には一度 PC カードを取り出し、上下が反対になっていないか、差し込む方向が間違っていないかを再度確認してください。
- ・また、お使いになる PC カードのマニュアルもご覧ください。
- ・コードやケーブルを接続して使う PC カードをお使いの場合、PC カードとコードやケーブルを接続しているコネクタ部分に物をのせたり、ぶつけたりしないでください。破損の原因となります。
- ・PC カードの種類によっては、PC カードスロットから PC カードが飛び出した状態でセットされるものがあります。PC カードの飛び出した部分をぶつけたりしないでください。破損の原因となります。

POINT

- ・PC カードによっては、「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンが表示されないものもあります。アイコンが表示されない場合には、お使いになる PC カードのマニュアルをご覧ください。

PC カードを取り出す

△ 注意



- ・PC カードの使用終了直後は、PC カードが高温になっていることがあります。PC カードを取り出すときは、手順 3 の後、しばらく待ってから取り出してください。火傷の原因となることがあります。
- ・PC カードを取り出すときは、PC カードスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

手 重要

- ・PC カードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまつた静電気により破壊される場合があります。PC カードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

POINT

- ・コードやケーブルを接続して使う PC カードを取り出す場合、PC カードのコードやケーブルを引っ張らないでください。破損の原因となります。
- ・PC カードを取り出す場合は、次の手順で行ってください。手順どおり行わないと、故障の原因となります。
- ・PC カードによっては、取り出すときに電源を切る必要のあるものがあります。PC カードのマニュアルで確認してください。

1 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックします。

POINT

- ・通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをダブルクリックして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウで、「停止」をクリックして PC カードを取り出さないでください。パソコン本体の動作が不安定になる場合があります。
- ・PC カードによっては、「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンが表示されないものもあります。アイコンが表示されない場合には、PC カードのマニュアルをご覧ください。

2 「[PC カード] を安全に取り外します」をクリックします。

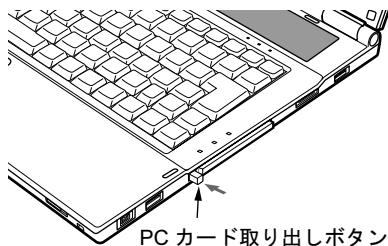
POINT

- ・「[PC カード]」には、お使いの PC カードの名称が表示されます。
- ・「デバイス' 汎用ボリューム' を今停止できません。後でデバイスの停止をもう一度実行してください。」というメッセージが表示された場合は、「OK」をクリックし、PC カードにアクセスしていないことを確認した後、もう一度手順 1 からやり直してください。

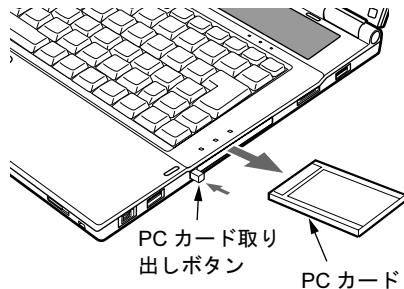
3 「ハードウェアの取り外し」というメッセージが表示されたことを確認します。

4 PC カード取り出しボタンを押します。

PC カード取り出しボタンを軽く 1 回押すと、ボタンが少し飛び出します。

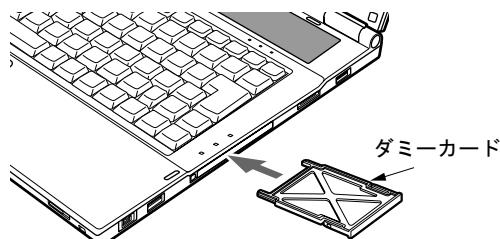


5 飛び出した PC カード取り出しボタンを押し、PC カードを取り出します。



6 ダミーカードをセットします。

ダミーカードを PC カードスロットにしっかりと差し込みます。



※ 重要

- ・PC カード取り出しボタンが飛び出している場合は、必ず押し込んでください。
PC カード取り出しボタンが飛び出した状態でお使いになると、ボタンが破損する原因となります。

9 SDメモリーカードについて

取り扱い上の注意

故障を防ぐため、SDメモリーカードをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- ・温度の高い場所や直射日光のある場所には置かないでください。
- ・強い衝撃を与えないでください。
- ・重い物を載せないでください。
- ・コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。
- ・保管する場合は、必ず専用のケースに入れてください。

POINT

- ・すべてのSDメモリーカードの動作を保証するものではありません。
- ・mini SDカードをお使いの場合は、アダプタが必要になります。必ずmini SDカードアダプタにセットしてからお使いください。そのまま挿入すると、mini SDカードが取り出せなくなることがあります。
- ・著作権保護機能には対応していません。
- ・マルチメディアカード(MMC)、およびセキュアマルチメディアカードには対応していません。
- ・SDIOカードには対応していません。
- ・SDメモリーカードや、記録されているデータの取り扱いについては、SDメモリーカードや周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- ・SDメモリーカードをデジタルカメラなどで使っている場合、Windows上でフォーマットしないでください。フォーマットすると、デジタルカメラなどでSDメモリーカードが使えなくなります。
- ・フォーマットしてしまった場合は、デジタルカメラなどで再度フォーマットしてからお使いください。
- ・フォーマットの方法については、お使いの機器のマニュアルをご覧ください。

SDメモリーカードをセットする

⚠ 注意



- ・SDメモリカードをセットまたは取り出すときは、SDメモリーカードスロットに指を入れないでください。
- ・けがの原因となることがあります。

※ 重要

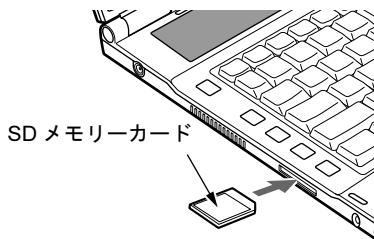
- ・SDメモリーカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体に留まった静電気により破壊される場合があります。SDメモリーカードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

POINT

- ・SDメモリーカードによっては、「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンが表示されないものもあります。アイコンが表示されない場合には、SDメモリーカードのマニュアルをご覧ください。

1 パソコン本体左側面の SD メモリーカードスロットに、SD メモリーカードをセットします。

SD メモリーカードの製品名を上にして SD メモリーカードスロットにしっかりと差し込みます。



2

※ 重要

- 書き込み禁止の状態の SD メモリーカードにファイルの書き込みや削除を行った場合、書き込みエラーメッセージ、または削除エラーメッセージの表示に時間がかかったり、SD メモリーカードの内容の一部が正しく表示されない場合があります。その場合は、書き込み禁止の状態を解除し、もう一度セットし直してください。

POINT

- 「Windows が実行する動作を選んでください」と表示されることがあります。「キャンセル」をクリックしてください。

SD メモリーカードを取り出す

⚠ 注意



- SD メモリーカードをセットまたは取り出すときは、SD メモリーカードスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

※ 重要

- SD メモリーカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体に留まった静電気により破壊される場合があります。SD メモリーカードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

1 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックします。

POINT

- 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをダブルクリックして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウで、「停止」をタップして SD メモリーカードを取り出さないでください。パソコン本体の動作が不安定になる場合があります。
- SD メモリーカードによっては、「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンが表示されないものもあります。アイコンが表示されない場合には、SD メモリーカードのマニュアルをご覧ください。

2 「[SD メモリーカード] を安全に取り外します」をクリックします。

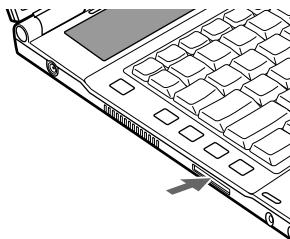
POINT

- ・「[SD メモリーカード]」には、お使いの SD メモリーカードの名称が表示されます。
- ・「デバイス' 汎用ボリューム' を今停止できません。後でデバイスの停止をもう一度実行してください。」というメッセージが表示された場合は、「OK」をクリックし、SD メモリーカードにアクセスしていないことを確認した後、もう一度手順 1 からやり直してください。

3 「ハードウェアの取り外し」というメッセージが表示されたことを確認します。

4 SD メモリーカードを一度押します。

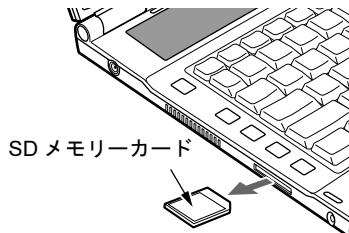
SD メモリーカードを一度押すと、少し飛び出します。



重要

- ・SD メモリーカードスロットから SD メモリーカードを取り出す場合は、SD メモリーカードを強く押さないでください。指を離したとき SD メモリーカードが飛び出し、紛失したり、衝撃で破損したりする恐れがあります。
また、SD メモリーカードを引き抜くときは、ひねったり斜めに引いたりして、SD メモリーカードに無理な力がかからないようにしてください。
- ・SD メモリーカードを取り出す場合は、SD メモリーカードスロットを人に向けたり、顔を近づけたりしないでください。SD メモリーカードが飛び出すと、けがの原因となることがあります。

5 SD メモリーカードを取り出します。



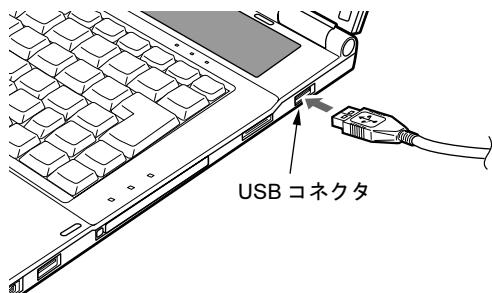
10 プリンタについて

重要

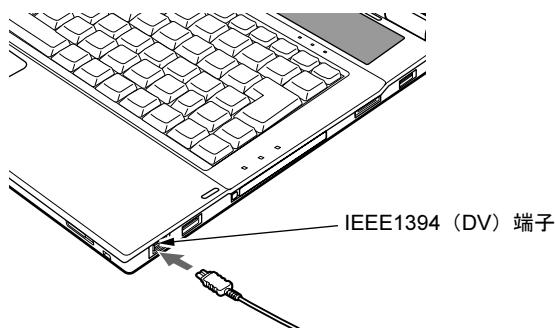
- ・プリンタの接続にはプリンタケーブルが必要です。プリンタケーブルは、プリンタに添付されていないことがあります。
- また、添付されているものも、コネクタの形状により接続できない場合もあります。そのような場合は、接続できるプリンタケーブルを別にお買い求めください。
- ・プリンタの接続方法は、プリンタによって異なります。プリンタのマニュアルをご覧ください。

接続について

USB コネクタの場合



IEEE1394 (DV) 端子の場合



11 外部ディスプレイについて

接続について

本パソコンは、プロジェクタやアナログディスプレイなどの外部ディスプレイを接続することができます。

ここでは、CRT/LAN 変換ケーブルの外部ディスプレイコネクタに、アナログディスプレイを接続する場合について説明します。

⚠ 警告



- 外部ディスプレイの接続／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。
感電の原因となります。

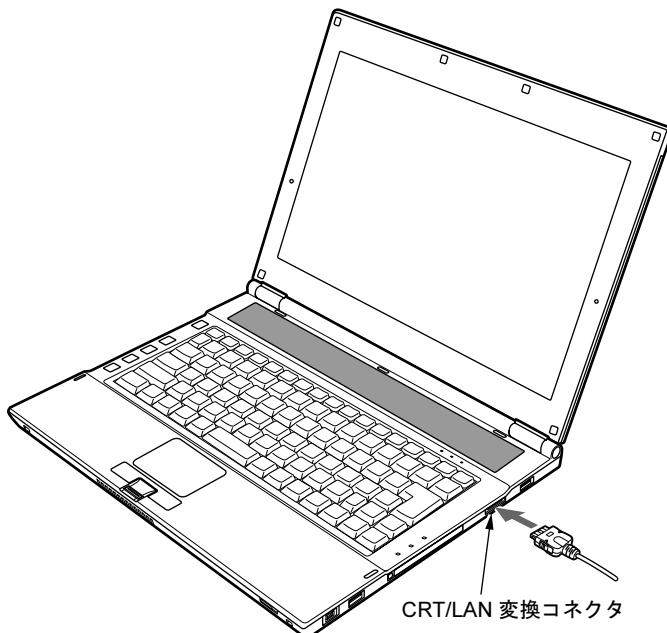
⚠ 注意



- ケーブルは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、パソコン本体および外部ディスプレイが故障する原因となります。

1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します（→『取扱説明書』）。

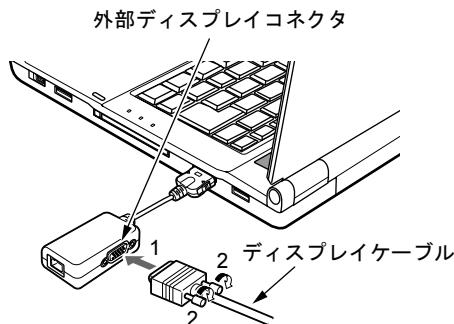
2 パソコン本体右側面の **CRT/LAN 変換コネクタ** に **CRT/LAN 変換ケーブル** を接続します。



3 **CRT/LAN変換ケーブルの外部ディスプレイコネクタ**に、**ディスプレイケーブル**を接続します。

コネクタは正面から見ると台形になっています。

コネクタの形を互いに合わせてしっかりと差し込み（1）、ディスプレイケーブルの左右のネジで固定します（2）。



POINT

- 外部ディスプレイは、ドッキングステーションの外部ディスプレイコネクタに接続することもできます。

4 アナログディスプレイにディスプレイケーブルを接続します。

接続方法は、アナログディスプレイのマニュアルをご覧ください。

5 アナログディスプレイの電源ケーブルを接続して、電源を入れます。

6 パソコン本体にACアダプタを取り付け、電源を入れます。

POINT

- 外部ディスプレイを接続後パソコン本体の電源を入れると、次のようになります。
- パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイで同時に表示される
- 「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示される
この場合は、画面の指示に従って外部ディスプレイのドライバをインストールしてください。
- 外部ディスプレイなど磁界を発生する機器とFDDユニットは離して使用してください。

7 画面の表示を切り替えます。

Windows の「画面のプロパティ」ウィンドウで切り替えることができます。また、【Fn】+【F10】キーを押すと、液晶ディスプレイ→外部ディスプレイ→同時表示→液晶ディスプレイ…の順で表示を切り替えることもできます。詳しくは、「機能」－「表示装置の切り替え」(→ P.85) をご覧ください。

12 ハードウェアのお手入れ

パソコン本体のお手入れ

2

⚠ 警告



- ・感電やけがの原因となるので、お手入れの前に、次の事項を必ず行ってください。
- ・パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
- ・プリンタなど、周辺機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。

パソコン本体の汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りの際は、パソコン本体に水が入らないよう充分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

液晶ディスプレイのお手入れ

液晶ディスプレイの汚れは、乾いた柔らかい布かメガネ拭きで軽く拭き取ってください。

⚠ 重要

- ・液晶ディスプレイの表面を固いものでこすったり、強く押しつけたりしないでください。液晶ディスプレイが破損するおそれがあります。
- ・液晶部分を拭くときは、必ずから拭きしてください。
水や中性洗剤を使うと、液晶部分を傷めるおそれがあります。
- ・化学ぞうきんや市販のクリーナーを使うと、成分によっては、画面の表面のコーティングを傷めるおそれがあります。次のものは、使わないでください。
 - ・アルカリ性成分を含んだもの
 - ・界面活性剤を含んだもの
 - ・アルコール成分を含んだもの
 - ・シンナーやベンジンなどの揮発性の強いもの
 - ・研磨剤を含むもの

キーボードのお手入れ

キーボードの汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りの際は、キーボード内部に水が入らないよう充分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

キーボードのキーとキーの間のホコリなどを取る場合は、圧縮空気などを使ってゴミを吹き飛ばしてください。なお、掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。

3

第3章

機能

本パソコンでお使いになれる機能について説明しています。

1	ディスプレイ関連	80
2	音量の設定	92
3	通信	95
4	ドライブ関連	103
5	省電力	104
6	HDD プロテクション	112
7	静音ユーティリティ	115

1 ディスプレイ関連

液晶ディスプレイの明るさ設定

液晶ディスプレイの明るさは、8段階に調節できます。暗くすると、消費電力が小さくなります。

※ 重要

- ・外部ディスプレイの明るさについては、外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

明るさを設定する

本パソコンは、ACアダプタを使っていているときと、バッテリで使ってているときの液晶ディスプレイの明るさをそれぞれ設定できます。

ご購入時には、ACアダプタで使ってているときに明るくなり、バッテリで使っているときには暗くなるように設定されています。液晶ディスプレイの明るさは、キーボードを使って変更できます。また、OS、ドライバや「IndicatorUtility」(→P.138)によって、それぞれの電源の状態で保存されます。お使いの環境に合わせて、明るさを変更してください。

明るさを変更する

キーボードを使用して、液晶ディスプレイの明るさを調節することができます。

【Fn】+【F6】キーを押すと暗く、【Fn】+【F7】キーを押すと明るくなります。

調節中は、画面下部に明るさを示すインジケータが表示されます。

POINT

・次のような場合は、キーボードで明るさを変えられないことがあります。しばらくしてから変更してください。

- ・本パソコンを再起動した直後
- ・スタンバイまたは休止状態からレジュームした直後
- ・ACアダプタを取り付け、取り外した直後

インテル®ディスプレイ省電テクノロジ

本パソコンには、インテル®ディスプレイ省電テクノロジが搭載されています。インテル®ディスプレイ省電テクノロジを有効にすると、バッテリ運用時、液晶ディスプレイの消費電力を節約することができます。

しかし、画面の明暗の変化に合わせて、液晶ディスプレイの明るさやコントラストを変更させるため、画面がちらついて見えたり、画質が変化しているように見えたりする場合があります。

このような場合は、次の手順で設定を無効にしたり、変更したりすることで、これらの現象を抑えることができます。

POINT

- ・インテル®ディスプレイ省電テクノロジは、本パソコンをバッテリで使うときに液晶ディスプレイにのみ働く機能です。
- ACアダプタで使うときや、外部ディスプレイに表示しているときは働きません。このようなときも、液晶ディスプレイの画面がちらついて見えたりする場合には、本機能以外の原因が考えられます。
- ・インテル®ディスプレイ省電テクノロジが働いている状態で、液晶ディスプレイの明るさを変更しても、明るさの変化が少なくなる場合があります。

- 1 デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 2 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。
- 3 「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」タブをクリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。
「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」が表示されます。
- 4 左の一覧から「ディスプレイデバイス」をクリックします。
- 5 「シングルディスプレイ」の「ノートブック」をクリックして、チェックを付けます。
- 6 左の一覧から「ディスプレイ設定」をクリックします。
- 7 「電源設定」をクリックします。
「電源設定」ウィンドウが表示されます。
- 8 「インテル(R)ディスプレイ省電テクノロジ」の設定を変更します。
 - 有効にする場合
「インテル(R)ディスプレイ省電テクノロジ」にチェックを付け、その下のつまみを左右にドラッグして、消費電力を調整します。
「画質最高」側にすると画面表示のクオリティが優先され、「バッテリー寿命最長」側にすると消費電力の節約が優先されます
 - 無効にする場合
「インテル(R)ディスプレイ省電テクノロジ」のチェックを外します。
- 9 設定が完了したら、「適用」をクリックします。
- 10 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

全画面表示と通常表示の切り替え

液晶ディスプレイを標準または規定の解像度よりも低い解像度に設定したときに、画面がディスプレイ中央に小さく表示または全画面表示されるようにするには、次の手順で設定を変更してください。

注意事項

- ・コマンドプロンプトの全画面表示は、プライマリのみに表示されます。

「画面のプロパティ」ウィンドウを使用する場合

- 1 デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 2 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。
- 3 「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」タブをクリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。
「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」が表示されます。
- 4 左の一覧から「ディスプレイデバイス」をクリックします。
- 5 次の操作を行います。
 - 液晶ディスプレイ表示の場合
「シングルディスプレイ」の「ノートブック」をクリックして、チェックを付けます。
 - 外部ディスプレイ表示の場合
「シングルディスプレイ」の「PC モニタ」をクリックして、チェックを付けます。
 - 同時表示の場合
「マルチディスプレイ」の「Intel(R) デュアル・ディスプレイ・クローン」をクリックして、チェックを付けます。
 - マルチモニタ表示の場合
「マルチディスプレイ」の「拡張デスクトップ」をクリックして、チェックを付けます。

POINT

- ・同時表示、またはマルチモニタ表示の場合、プライマリとセカンダリの設定は次のようにしてください。
 - ・プライマリ：ノートブック
 - ・セカンダリ：PC モニタ

- 6 左の一覧から「ディスプレイ設定」をクリックします。

液晶ディスプレイ表示、外部ディスプレイ表示の場合は、手順 8 に進んでください。

7 「ノートブック」または「PC モニタ」から全画面表示と通常表示を切り替えるディスプレイをクリックします。

8 「ディスプレイの拡張」で、お使いになる設定を選択します。

■全画面表示（枠なし）

デスクトップが画面全体に拡張されます。

■デスクトップの中央

デスクトップが通常表示になります。

■アスペクト比を保持

デスクトップがアスペクト比（縦横比）を維持したまま最大拡張されます。

 **POINT**

・「デスクトップの中央」は、液晶ディスプレイの場合のみ選択できます。

9 「適用」をクリックします。

 **POINT**

・「デスクトップの変更を確認」ウィンドウが表示されたら、「OK」をクリックします。

10 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

 **POINT**

・デスクトップの解像度をご購入時の解像度よりも小さい値に設定した場合、2種類の画面拡張設定が選択できます。

・画面全体に拡張

画面全体が縦長に表示されます。

・アスペクト比を維持したまま拡張

縦長にはなりませんが、画面の上下に黒いスペースができます。

キーボードを使用する場合

液晶ディスプレイ表示または外部ディスプレイ表示のときは、キーボードの【Fn】キーを押しながら【F5】キーを押しても、全画面表示と通常表示を切り替えることができます。

テレビ表示や同時表示、マルチモニタ表示のときは、キーボードで全画面表示と通常表示を切り替えることはできません。

なお、【Fn】+【F5】キーを使って切り替えたときは、パソコンの電源を切ると画面の設定は保存されません。設定を保存するときは、「画面のプロパティ」ウィンドウで切り替えてください（→P.82）。

ディスプレイの表示について

外部ディスプレイを接続して複数のディスプレイに同時に表示させることができます。表示可能なディスプレイの組み合わせは次のようになります。

■1台のディスプレイで表示する場合

- 液晶ディスプレイ
- アナログディスプレイ
- デジタルディスプレイ

■2台のディスプレイで表示する場合

- 液晶ディスプレイ + アナログディスプレイ
- 液晶ディスプレイ + デジタルディスプレイ
- アナログディスプレイ + デジタルディスプレイ

解像度と色数について

本パソコンでは、Windows の「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで次の解像度、色数を選択／変更できます。色数は「中」が6万5千色、「最高」が1677万色です。

POINT

- 外部ディスプレイの接続方法については、「ハードウェア」－「外部ディスプレイについて」(→P.74)をご覧ください。

解像度と色数

解像度	色数		
	液晶ディスプレイ	液晶ディスプレイ + 外部ディスプレイ ^{注1注2}	外部ディスプレイ ^{注1注2}
800 × 600	中 (16 ビット) 最高 (32 ビット) ^{注5}	中 (16 ビット)	中 (16 ビット)
1024 × 768		最高 (32 ビット) ^{注5}	最高 (32 ビット) ^{注5}
1280 × 768		—	—
1280 × 800 ^{注3}		—	—
1280 × 1024 ^{注3注4}		—	—
1400 × 1050 ^{注3注4}		中 (16 ビット)	中 (16 ビット)
1600 × 1200 ^{注3注4}		最高 (32 ビット) ^{注5}	最高 (32 ビット) ^{注5}

注1：各解像度はお使いの外部モニターがサポートしている場合にご使用になれます。モニターがサポートしていない解像度は使用出来ません。

注2：プラグアンドプレイ対応の外部ディスプレイを使用の場合、最大解像度は外部ディスプレイからの情報により決定されます。

注3：この解像度が表示されない場合は、「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「詳細設定」をクリックし、表示されたウィンドウの「モニタ」タブで「このモニタでは表示できないモードを隠す」のチェックを外してください。

注4：1280 × 1024 以上の解像度に設定した場合、仮想デスクトップになります。仮想デスクトップでは、液晶ディスプレイサイズの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます。

注5：液晶ディスプレイは擬似的に色を表示するディザリング機能を利用しています。

注意事項

- ・通常は 640×480 の解像度は選択できませんが、一部のゲームやソフトウェアでは使用されることもあります。
- ・液晶ディスプレイの解像度以上に解像度を設定する場合、あらかじめ次のように設定してください。なお、画面は仮想デスクトップに表示されます。
 1. デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
 2. 「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「詳細設定」をクリックします。
 3. 「モニタ」タブで「このモニタでは表示できないモードを隠す」のチェックが外れていることを確認します。

POINT

- ・「このモニタでは表示できないモードを隠す」の項目が選択できない場合は、この設定は必要ありません。
- ・外部ディスプレイとして CRT ディスプレイを接続した場合は、「画面のプロパティ」ウィンドウでリフレッシュレートを 85Hz 以上に設定できるように見えますが、実際の CRT ディスプレイの走査周波数は各機種の「外部ディスプレイの走査周波数について」(→ P.91) の表以外の周波数を使用することはできません。
- ・解像度を切り替えるときに、一時的に表示画面が乱れることがあります。故障ではありません。
- ・画面の解像度や色数、リフレッシュレートを変更する場合は、起動中のソフトウェアや常駐しているプログラムを終了させてから設定してください。また、変更後は必ず本パソコンを再起動してください。

3

表示装置の切り替え

表示装置の切り替え方法は次のとおりです。なお、表示装置をあらかじめ取り付けてから切り替えてください。表示装置の取り付け方は、「ハードウェア」－「外部ディスプレイについて」(→ P.74) をご覧ください。

POINT

- ・外部ディスプレイコネクタに接続した場合、「Fujitsu Display Manager」を起動して、表示するディスプレイを切り替えることもできます。使用方法については、インストール後、「Fujitsu Display Manager」のヘルプをご覧ください。「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Fujitsu Display Manager」→「ヘルプ」の順にクリックして表示します。

注意事項

- ・表示装置の切り替えの設定は次のようになります。
 - Windows が起動するまでの間は、BIOS セットアップの設定が有効です。
 - Windows 起動中は「画面のプロパティ」ウィンドウの設定が有効（Windows を再起動後も有効）です。
 - Windows が起動すると、表示されるディスプレイは、前回 Windows で使用していた状態に戻ります。ただし、外部ディスプレイが接続されていない場合は、液晶ディスプレイに表示されます。
 - 外部ディスプレイを接続して、初めて電源を入れたときは、同時表示の状態に切り替わる場合があります。

- ・解像度の切り替え時などに、一時的に表示画面が乱れることがあります、故障ではありません。
- ・外部ディスプレイまたは液晶プロジェクタによっては、液晶ディスプレイ + 外部ディスプレイの同時表示時に、画面が正しく表示されないことがあります。
- ・外部ディスプレイで液晶ディスプレイ以上の高解像度を利用するには、それらの解像度を表示可能な外部ディスプレイが必要です。
- ・液晶プロジェクタを本パソコンの液晶ディスプレイと同時表示で使用する場合、VESA で標準化された DDC の規格を満たしていて、かつ本パソコンの液晶ディスプレイと同じ解像度を表示可能な液晶プロジェクタが必要です。本規格を正しく満たしているかどうかに関しては、それぞれの液晶プロジェクタのメーカーにご確認ください。これはプラグアンドプレイを実現するために外部ディスプレイの情報をパソコン本体に伝送できるようにするための規格であり、これを満たしていない液晶プロジェクタには表示することはできません。
- ・BIOS セットアップの画面は、液晶ディスプレイのみに表示されることがあります。外部ディスプレイにも BIOS セットアップの画面を表示させる場合には、BIOS セットアップの「詳細」 - 「ディスプレイ設定」を「外部ディスプレイ」に設定してください。詳しくは、「BIOS」 - 「メニュー詳細」 (→ P.162) をご覧ください。
- ・外部ディスプレイを接続した状態で、コマンドプロンプトをウィンドウ表示から全画面表示に切り替えると、表示デバイスが切り替わることがあります。
また、コマンドプロンプトを終了したときやウィンドウ表示に切り替えたときに、表示デバイスが切り替わることがあります。この現象はドライバおよび Windows での制限（仕様）です。あらかじめご了承ください。
- ・液晶ディスプレイ + 外部ディスプレイの同時表示を選択した場合、外部ディスプレイ画面は液晶ディスプレイ画面と同一の解像度になります。
- ・ビデオ CD や DVD-VIDEO などの動画再生中に、表示するディスプレイを切り替えないでください。いったん動画を再生しているソフトウェアを終了してから、表示するディスプレイを切り替えてください。
- ・画面の解像度や発色数、リフレッシュレートを変更する場合は、起動中のソフトウェアや常駐しているプログラムを終了させてから設定してください。また、変更後は必ず本パソコンを再起動してください。
- ・コマンドプロンプトを全画面表示にしてお使いの場合は、【Fn】 + 【F10】キーでの表示装置の切り替えができません。この場合は、一度ウィンドウ表示にしてから表示装置を切り替えてください。
- ・動画の再生中は、表示装置を変更することができません。一度、動画を再生しているソフトウェアを終了させてから、表示装置を変更してください。

「画面のプロパティ」 ウィンドウを使用する場合

- 1 デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。**
- 2 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。**

3 「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」タブをクリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。
 「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」が表示されます。

4 左の一覧から「ディスプレイデバイス」をクリックします。

5 次の操作を行います。

■ 1台のディスプレイに表示する場合

「シングルディスプレイ」の一覧から、表示するディスプレイをクリックして、チェックを付けます。

■ 同時表示の場合

「マルチディスプレイ」の「Intel(R) デュアル・ディスプレイ・クローン」をクリックして、チェックを付けます。

 **POINT**

- ・ 同時表示の場合、プライマリとセカンダリの設定は次のようにしてください。
- ・ 液晶ディスプレイと外部ディスプレイの場合
 - ・ プライマリ : ノートブック
 - ・ セカンダリ : PC モニタ
- ・ 液晶ディスプレイとテレビの場合
 - ・ プライマリ : ノートブック
 - ・ セカンダリ : テレビ
- ・ 外部ディスプレイとテレビの場合（同時表示のみ）
 - ・ プライマリ : PC モニタ
 - ・ セカンダリ : テレビ
- ・ 「プライマリデバイス」、「セカンダリデバイス」の解像度やリフレッシュレートなどの詳細な設定は、左の一覧の「ディスプレイ設定」をクリックして表示される設定項目から変更することができます。

6 「適用」をクリックします。

ディスプレイが切り替わります。

7 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

 **POINT**

- ・ 外部ディスプレイによって対応している解像度や走査周波数が異なるため、外部ディスプレイ表示に切り替えたときに何も表示されない、または正常に表示されないことがあります。その場合は次の操作を行うようにしてください。
- ・ 何も表示されない場合

何も操作しないでお待ちください。15 秒ぐらい待つと、表示先が液晶ディスプレイに戻ります。表示先が液晶ディスプレイに戻らないときは、【Fn】キーを押しながら【F10】キーを押して、表示先を切り替えてください。
- ・ 正常に表示されない場合

外部ディスプレイのマニュアルで外部ディスプレイが対応しているリフレッシュレートを確認し、次の方法で設定を変更してください。

 1. デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
 2. 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。
 3. 「モニタ」タブをクリックします。
 4. 「モニタの設定」のリフレッシュレートを外部ディスプレイでサポートする走査周波数に設定します。

5. 「OK」をクリックします。
- 別の外部ディスプレイに変更する場合は、変更前と変更後の両方の外部ディスプレイがサポートする解像度、リフレッシュレートにあらかじめ変更し、パソコンの電源を切った後、別の外部ディスプレイを接続してください。外部ディスプレイのサポートする解像度、リフレッシュレートが異なる場合は、外部ディスプレイを変更したときに、画面が表示できなくなる場合があります。

キーボードを使用する場合

表示装置を切り替えるには、【Fn】 + 【F10】キーを押します。表示装置は次の順に切り替わります。このとき【F10】キーを、間隔を空けて押してください。

液晶ディスプレイ → 外部ディスプレイ → 液晶ディスプレイ + 外部ディスプレイ（同時表示）→ 液晶ディスプレイ…

POINT

- キーを押しても表示装置が切り替わらない場合は、「画面のプロパティ」ウィンドウで切り替えてください。
- コマンドプロンプトを全画面表示にしている場合は、【Fn】 + 【F10】キーを使用して表示デバイスを切り換えることができません。一度、ウィンドウ表示に切り換えてから表示デバイスを切り替えてください。

マルチモニタ機能

本パソコンには、2台のディスプレイで1つのデスクトップを表示できる「マルチモニタ機能」があります。パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイで、1つのデスクトップを表示できます。ここではプライマリアダプタ（メイン画面）として液晶ディスプレイを、セカンダリアダプタ（サブ画面）として外部ディスプレイを使用する場合の手順を説明します。

重要

- マルチモニタ機能を使いになる前に、必ず外部ディスプレイを接続してください。
- マルチモニタ機能を使いになる前に、使用中のソフトウェアを終了してください。
- マルチモニタ機能を使いになるときは液晶ディスプレイを「プライマリ」、外部ディスプレイを「セカンドリ」に設定してください。
- マルチモニタ機能の注意
 - 2台のディスプレイにまたがるウィンドウがある場合は、プライマリアダプタとセカンダリアダプタの設定を変更しないでください。
 - セカンダリアダプタのみに表示されているソフトウェアを起動中に、セカンダリアダプタの使用を終了しないでください。ソフトウェアおよびWindowsの動作が不安定になり、データが保存されないことがあります。
 - 次の事項はプライマリアダプタのみで表示されます。
 - 液晶ディスプレイの全画面表示
 - コマンドプロンプトのフルスクリーン表示
 - 一部のスクリーンセーバー
 - 動画再生画面のフルスクリーン表示
 - アクセラレータ機能を使用しての動画再生画面
- 色数についての注意
 - プライマリアダプタとセカンダリアダプタで、別々の色数を設定しないでください。
 - 「中」または「最高」に設定してください。

POINT

- ・マルチモニタ使用時は、キーボードによるディスプレイの切り替えは無効となります。

マルチモニタの設定

- 1 デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 2 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。
- 3 「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」タブをクリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。
「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」が表示されます。
- 4 左の一覧から「ディスプレイデバイス」をクリックします。
- 5 「マルチディスプレイ」の「拡張デスクトップ」をクリックして、チェックを付けます。

POINT

- ・マルチモニタ表示の場合、プライマリとセカンダリの設定は次のようにしてください。
 - ・プライマリ：ノートブック
 - ・セカンダリ：PC モニタ
- ・「プライマリデバイス」、「セカンダリデバイス」の解像度やリフレッシュレートなどの詳細な設定は、左の一覧の「ディスプレイ設定」をクリックして表示される設定項目から変更することができます。

- 6 「適用」をクリックします。

POINT

- ・「デスクトップの変更を確認」ウィンドウが表示されたら、「OK」をクリックします。

- 7 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

アダプタの表示位置を変更する

ここでは使用する 2 つのアダプタの表示位置を変更する場合の手順について説明します。

- 1 デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「設定」タブをクリックします。
- 3 モニタアイコンを、表示する位置にドラッグします。

4 「OK」をクリックします。

表示できる色数と解像度

次の表の解像度以外を選択した場合、画面が正しく表示されないことがあります。

色数	プライマリの解像度	セカンダリの解像度 ^{注1注2}					
		800 × 600	1024 × 768	1280 × 768	1280 × 1024	1400 × 1050	1600 × 1200
中 (16 ビット) 最高 (32 ビット) ^{注3}	800 × 600	○	○	○	○	○	○
	1024 × 768	○	○	○	○	○	○
	1280 × 768 ^{注4}	○	○	○	○	○	○
	1280 × 800 ^{注4}	○	○	○	○	○	○
	1280 × 1024 ^{注4注5}	○	○	○	○	○	○
	1400 × 1050 ^{注4注5}	○	○	○	○	○	○
	1600 × 1200 ^{注4注5}	○	○	○	○	○	○

注 1：プラグアンドプレイ対応の外部ディスプレイを使用の場合、最大解像度は外部ディスプレイからの情報により決定されます。

注 2：各解像度はお使いの外部モニターがサポートしている場合にご使用になれます。モニターがサポートしていない解像度は使用することが出来ません。

注 3：液晶ディスプレイは擬似的に色を表示するディザリング機能を利用しています。

注 4：この解像度が表示されない場合は、「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「詳細設定」をクリックし、表示されたウィンドウの「モニタ」タブで「このモニタでは表示できないモードを隠す」のチェックを外してください。

注 5：1280 × 1024 以上の解像度に設定した場合、仮想デスクトップになります。仮想デスクトップでは、液晶ディスプレイサイズの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます

注意事項

■共通の注意事項

- ・ プラグアンドプレイ対応の表示装置を使用の場合、最大解像度は液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイのどちらかの最大解像度に設定されます。
- ・ プラグアンドプレイ非対応の表示装置を使用の場合、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの最大解像度は外部ディスプレイの最大解像度になります。
- ・ マルチモニタ機能使用時には、DVD-VIDEO を再生しないでください。
- ・ マルチモニタ機能使用時に本パソコンを再起動した場合、使用している外部ディスプレイによっては、画面が正常に表示されないことがあります。このような場合には、リフレッシュレートを 85Hz 以下に設定してください。
- ・ マルチモニタ機能使用時には、【Fn】 + 【F10】キーを使用して、表示装置を切り替えることはできません。

外部ディスプレイの走査周波数について

ディスプレイドライバにより次の走査周波数を選択することができます。

選択できる走査周波数は、外部ディスプレイ表示のみの場合も同時表示の場合も同じです。

ただし、外部ディスプレイによっては、選択しても表示できない走査周波数があります。そのときは、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示に切り替えて、選択し直してください。

解像度	水平走査周波数 (kHz)	垂直走査周波数 (Hz)
800 × 600	37.9	60
	48.1	72
	46.9	75
	53.7	85
1024 × 768	48.4	60
	56.5	70
	60	75
	68.7	85
1280 × 768	47.8	60
	60.3	75
	68.5	85
1280 × 1024	64	60
	80	75
	91.1	85
1400 × 1050	65.3	60
	82.3	75
	85	85
1600 × 1200	75	60
	93.8	75
	106.3	85

POINT

- お使いになる外部ディスプレイによっては、外部ディスプレイ表示に切り替えた場合、画面が正常に表示されないことがあります。その場合は、外部ディスプレイのマニュアルでサポートする走査周波数を確認し、「リフレッシュレート」の設定値を変更してから外部ディスプレイ表示に切り替えてください。「リフレッシュレート」とは、1秒間に画面を書き換える回数を周波数（単位はHz）で表したもので、垂直同期周波数ともいいます。リフレッシュレートの値が高いほど、画面のちらつきが感じられなくなります（お使いの外部ディスプレイによって値の上限は決まっています）。
- リフレッシュレートの変更は、次のように設定してください。
 - デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 - 「設定」タブをクリックし、ディスプレイリストからリフレッシュレートを変更するモニタアイコンを選択します。（マルチモニタ機能の使用時はプライマリに設定したモニタのリフレッシュレートを変更したい場合は「1」を、セカンダリに設定したモニタのリフレッシュレートを変更したい場合は「2」を選択します。）
 - 「詳細設定」をクリックします。お使いのディスプレイドライバのウィンドウが表示されます。
 - 「モニタ」タブをクリックします。
 - 「画面のリフレッシュレート」から、設定したいリフレッシュレートを選択します。
 - 「適用」をクリックします。
 - 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

2 音量の設定

スピーカーやヘッドホンの音量は、音量ボリューム、キーボード、または画面の音量つまみで調節します。

また、音声入出力時のバランスや音量の設定は、音量を設定するウィンドウで行います。

重要

- スピーカーが故障する原因となる場合がありますので、音量はスピーカーから聞こえる音がひずまない範囲に設定や調整をしてください。

音量ボリュームまたはキーボードで調節する

音量ボリュームで調節する

本体側面の音量ボリュームで音量を調節できます。手前側にたおすと小さく、奥側にたおすと大きくなります。また、音量ボリュームを押すとミュート（消音）になります。

POINT

- 音量ボリュームで音を大きくしても音が聞こえない場合は、スピーカーの状態を確認してください。スピーカーがONでも音が聞こえない場合は、音量を調節する画面でミュート（消音）に設定していないか確認してください（→P.93）。

キーボードで調節する

キーボードで音量を調節するには、【Fn】+【F8】キーまたは【F9】キーを押します。

【Fn】+【F8】キーを押すと音量が小さく、【Fn】+【F9】キーを押すと音量が大きくなります。音量の調節中、画面下部に音量を示すインジケータが表示されます。

音量を消したい場合は、【Fn】+【F3】キーを押します。

「Mute」と表示され、画面右下の通知領域のアイコンが変わります。

もう一度【Fn】+【F3】キーを押すと、画面下部に現在の音量を示すインジケータが表示され、音が出るようになります。

画面上の音量つまみで設定する

1 画面右下の通知領域にある「音量」アイコンをクリックします。

音量を調節する画面が表示されます。

POINT

- ・通知領域に「音量」アイコンが表示されない場合は、次の手順を実行してください。
 1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
 2. 「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」をクリックします。
 3. 「サウンドとオーディオデバイス」をクリックします。
「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」が表示されます。
 4. 「音量」タブをクリックします。
 5. 「デバイスの音量」の「タスクバーに音量アイコンを配置する」のチェックを付けます。
 6. 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

2 音量つまみを上下にドラッグして、適当な音量に調節します。

「ミュート」をチェックすると音が消え、画面右下の通知領域の表示も変わります。

POINT

- ・音量つまみを表示しているとき、キーボードで音量を調節すると、音量つまみも動きます。

3 デスクトップの何もないところをクリックします。

音量を調節する画面が消えます。

消えなかった場合は、いったん音量つまみをクリックしてから、デスクトップの何もないところをクリックしてください。

再生時／録音時の音量設定について

再生時の音量設定方法

1 画面右下の通知領域にある「音量」アイコンをダブルクリックします。

音量を設定するウィンドウが表示されます。

2 バランスや音量などを調節します。

録音時の音量設定方法

1 画面右下の通知領域にある「音量」アイコンをダブルクリックします。

音量を設定するウィンドウが表示されます。

2 「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。

「プロパティ」ウィンドウが表示されます。

3 「音量の調整」の「録音」をクリックし、「OK」をクリックします。

4 バランスや音量などを調節します。

POINT

・バランスや音量を設定してもマイク端子に接続したマイクの録音時の音量が小さい、または大きい場合は、音量を設定するウィンドウでマイク音量を設定してください。

1. 「オプション」メニュー→「トーン調整」の順にクリックします。

2. 「マイク」の「トーン」をクリックします。

3. 「そのほかの調整」で「マイクブースト」のチェックを確認してください。

音量を大きくしたい場合はチェックを付けます。

音量を小さくしたい場合はチェックを外します。

各機種の設定

ご購入時の音量設定は、次のようになっています。

POINT

・各項目で表示される名称や順番はお使いの状況により異なる場合があります。

・再生時の音量設定

ー：ご購入時の設定はミュートではありません

項目	ご購入時の表示状態	ご購入時の設定	設定する音量
ボリューム コントロール	表示	ー	内蔵スピーカー、ヘッドホン端子の再生音量 (ヘッドホン設定時)
WAVE	表示	ー	Wave 音源の再生音量
SW シンセサイザ	表示	ー	本パソコン内蔵のソフトウェア MIDI の再生音量
CD プレーヤー	表示	ー	音楽 CD の再生音量
PC Beep ^{注1}	表示	ー	BEEP 音の再生音量

・録音時の音量設定

ご購入時、「録音コントロール」ウィンドウの「選択」は「マイク」に設定されています。

項目	ご購入時の表示の状態	設定する音量
マイク	表示	マイクの録音音量

注1：スタンバイや休止状態に移行するときのビープ音は設定できません。BIOS セットアップの設定が有効となります。

音量を変更する場合は、BIOS セットアップの「詳細」→「各種設定」→「音量設定」で設定してください。詳しくは、「BIOS」→「BIOS セットアップの操作のしかた」(→ P.157) をご覧ください。

なお、PC Beep の音量は4段階の調節のみになります

3 通信

重要

- 通信機能をお使いになる場合は、ウイルスや不正アクセスからパソコンを守るため、セキュリティ対策を実行してください（→ P.117）。

LANについて

3

LAN（有線 LAN）をお使いになる場合に必要なものなどを説明します。

ここでは、ブロードバンドインターネットにパソコンを接続する例を説明します。

必要なものを用意する

このパソコンの他に、次のものが必要です。

- ・ブロードバンドモデム
ADSL モデム、ケーブルモデムなど、インターネットの回線や、プロバイダにより異なります。
- ・ルーター
異なるネットワーク間の中継点に設置して、ネットワークの中を流れるデータをきちんと目的の場所（パソコンやプリンタなど）に届けるための機器。一般的には、LAN と外部のネットワーク（インターネット）を結ぶために使われます。複数台のパソコンを接続する場合は必要です。ブロードバンドモデムに内蔵されている場合もあります。なお、1000BASE-T の通信を行うためには、1000BASE-T に対応したものを使用してください。
- ・ハブ
ネットワーク上でケーブルを中継するための機器。複数台のパソコンを接続する場合に必要です。ルーターに内蔵されている場合もあります。1000BASE-T の通信を行うためには、1000BASE-T に対応したものを使用してください。
- ・LAN ケーブル（ストレートタイプ）
お使いになるネットワークのスピードに合ったものが必要です。接続するネットワーク機器のマニュアルをご覧になり、必要なものをご用意ください。1000BASE-T の通信を行うためには、エンハンストカテゴリ 5（カテゴリ 5E）以上の LAN ケーブルを使用してください。

LAN を使うための設定

LANをお使いになるためには、必要な機器を LAN ケーブルで接続し、ネットワークの設定を行います。インターネットに接続する場合は、プロバイダより提供されるマニュアルに従って、機器の設定をしてください。

LAN を接続する

本パソコンには、下記に対応した LAN が内蔵されています。

- ・10BASE-T（IEEE 802.3 準拠）
- ・100BASE-TX（IEEE 802.3u 準拠）

本パソコンには、通信環境を簡単に切り替えられるソフトウェア「Plugfree NETWORK」（→ P.141）が添付されています。あわせてご利用ください。

⚠ 警告



- ・雷が鳴り出したら、パソコン本体やケーブル類、およびそれらにつながる機器に触れないでください。また、雷が鳴り出しそうなときは、AC アダプタやケーブル類を取り外し、雷が止むまで取り付けないでください。
- 感電・火災の原因となります。またパソコンが故障するおそれがあります。

⚠ 注意



- ・ LAN コネクタに指などを入れないでください。
感電の原因となることがあります。



- ・ LAN ケーブルを接続する場合は、必ず LAN コネクタに接続してください。
接続するコネクタを間違うと故障の原因となることがあります。

1 パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します（→『取扱説明書』）。

2 CRT/LAN変換ケーブルとネットワークを、LANケーブルで接続します。

コネクタの形を互いに合わせ、まっすぐに差し込んでください。LAN コネクタについては、「各部名称」—「各部の名称と働き」（→ P.10）をご覧ください。

3 LAN ケーブルをネットワーク機器に接続します。

手順 2 で接続したケーブルのもう一方を、お使いになるネットワーク機器のコネクタに接続し、ネットワーク機器の電源を入れます。

4 パソコン本体に AC アダプタを取り付け、電源を入れます。

LAN を使用する場合は、消費電力が大きいので、AC アダプタのご使用をお勧めします。

※ 重要

- ・ネットワークをお使いになるときは、省電力機能が働かないように設定を変更することをお勧めします（→ P.104）。
- 省電力機能が働いてしまうと、他の装置からアクセスできなくなることがあります。また、お使いになるソフトウェアによっては、不具合が発生する場合があります。
- ・ネットワークに接続する場合は、AC アダプタを接続した上でのご使用をお勧めします。

POINT

- ・ LAN コネクタからプラグを取り外すときは、ツメを押さえながら引き抜いてください。ツメを押さえずに無理に引き抜くと破損の原因となります。
- ・ ドッキングステーション接続時には、必ず CRT/LAN 変換ケーブルを取り外してください。ドッキングステーション接続時は、CRT/LAN 変換ケーブルは使用できません。CRT/LAN 変換ケーブルを取り外さないと、破損の原因となります。

無線 LAN (IEEE 802.11a、IEEE 802.11g 準拠) について

無線 LAN を使うと、LAN ケーブルを使わずにネットワークに接続することができます。本パソコンに内蔵されている無線 LAN は、IEEE 802.11a (J52/W52/W53)、IEEE 802.11b および IEEE 802.11g に準拠しており、IEEE 802.11a (J52/W52/W53)、IEEE 802.11b および IEEE 802.11g に準拠した無線 LAN 機器と接続することができます。

無線 LAN については、『内蔵無線 LAN をお使いになる方へ』をご覧ください。設定する場合は、ネットワーク管理者に確認のうえ、実行してください。

また、本パソコンには、通信環境を簡単に切り替えられるソフトウェア「Plugfree NETWORK」(→ P.141) が添付されています。あわせてご利用ください。

通信を行うための注意

本パソコンの無線 LAN を使って通信するときの注意事項について説明します。

- ・本パソコンに内蔵されている IEEE 802.11a 準拠 (J52/W52/W53) の無線 LAN は、電波法の定めにより屋外では使用できません。本パソコンを屋外でご使用になる場合は、5GHz 帯の電波を停止してください。
- ・最大で 54Mbps 無線 LAN に対応しています。

表示の数値は、無線 LAN 規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。

- ・パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、IEEE 802.11a 準拠 (J52/W52/W53) (5GHz 帯) では見通し半径15m以内、IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠 (2.4GHz 帯) では見通し半径25m以内となります。ただし、無線 LAN の特性上、ご利用になる建物の構造や材質、障害物、ソフトウェア、設置状況、または電波状況等の使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もあります。
- ・本パソコンの使用中、特に無線 LAN で通信中はアンテナ部分に極力触れないでください。内蔵無線 LAN アンテナについては、「各部名称」—「各部の名称と働き」(→ P.10) をご覧ください。

また、本パソコンを設置する場合には、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所を避けてください。通信性能が低下することがあります。

- ・本パソコンに内蔵されている無線 LAN は、無線 LAN 製品の相互接続性を検証する「Wi-Fi Alliance」が定義する、無線 LAN 標準の「Wi-Fi®」に準拠しています。
- ・本パソコンに内蔵されている IEEE 802.11b、IEEE 802.11g 準拠の無線 LAN は、Bluetooth ワイヤレステクノロジーと同一周波数帯 (2.4GHz) を使用するため、パソコン本体の近辺で使用すると電波干渉が発生し、通信速度の低下や接続不能になる場合があります。このような場合には、無線 LAN または Bluetooth ワイヤレステクノロジーのいずれかの電波を、ユーティリティを使って停止するか、IEEE 802.11a (5GHz 帯) 規格の無線 LAN をお使いください。ただし、IEEE 802.11a 規格の無線 LAN の場合は、屋外ではお使いになれません。
- ・LAN 機能を使ってネットワークに接続中は、スタンバイや休止状態にしないことをお勧めします。お使いの環境によっては、ネットワークへの接続が正常に行われない場合があります。

なお、本パソコンを使用していない場合は、電源を切ってください。

- ・有線 LAN と無線 LAN で、TCP/IP の設定などが競合しないように注意してください。
- ・本パソコンをバッテリで運用中に無線 LAN を使用する場合は、バッテリ残量に注意してください。

Bluetooth ワイヤレステクノロジーについて

このパソコンに内蔵の Bluetooth ワイヤレステクノロジーを使用して、他の Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を接続することができます。

Bluetooth ワイヤレステクノロジーとは

Bluetooth ワイヤレステクノロジーとは、ヘッドセットや携帯電話などの周辺機器や他の Bluetooth ワイヤレステクノロジー内蔵のパソコンなどに、ケーブルを使わず電波で接続できる技術です。

Bluetooth ワイヤレステクノロジーをお使いになる上でのご注意

本パソコンの Bluetooth ワイヤレステクノロジーをお使いになる上で注意していただきたいことについて説明しています。

■ Bluetooth ワイヤレステクノロジーご使用時におけるセキュリティに関するご注意

Bluetooth ワイヤレステクノロジーでは、電波を利用して周辺機器や他のパソコンとの間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

- ・通信内容を盗み見られる
悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、ID やパスワード、その他の個人情報などの通信内容を盗み見る可能性があります。
- ・不正に使用される
悪意ある第三者が、無断で個人や会社内の周辺機器やパソコンへアクセスし、次の行為をされてしまう恐れがあります。
 - 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
 - 特定の人物になりますして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
 - 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
 - コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

このパソコンおよび一部の周辺機器や他のパソコンに内蔵されている Bluetooth ワイヤレステクノロジーは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っています。そのため、別途ご購入された Bluetooth ワイヤレステクノロジー内蔵の周辺機器や他のパソコンがセキュリティの仕組みを持っている場合、セキュリティに関する設定を正しく行うこととで、これらの問題が発生する可能性を少なくすることができます。しかし、Bluetooth ワイヤレステクノロジー内蔵の周辺機器や他のパソコンは、ご購入時の状態ではセキュリティに関する設定が施されていない場合があります。上記のようなセキュリティ問題が発生する可能性を少なくするためには、周辺機器や他のパソコンに添付されている取扱説明書に従い、これらの製品のセキュリティに関するすべての設定を必ず行ってください。

なお、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解のうえ、ご使用ください。

セキュリティの設定などについて、お客様ご自分で対処できない場合には、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」までお問い合わせください。

当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解したうえで、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお勧めします。

セキュリティ対策を施さず、あるいは、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生した場合、当社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

■ Bluetooth ワイヤレステクノロジーによる通信を行うためのご注意

- ・このパソコンに内蔵されている Bluetooth ワイヤレステクノロジーは、出力 Class2、Bluetooth 無線規格 2.0 + EDR に準拠したものです。
- ・最大通信速度は 2.1Mbps (Bluetooth 無線規格 2.0 + EDR の理論上の最大値) です。ただし、実際の通信速度はお使いの環境により異なります。
- ・パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、見通し半径 10m 以内 (出力 Class2 の最大値) です。ただし、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの特性上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、ソフトウェア、設置状況、電波状況等の使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。
- ・このパソコンの Bluetooth ワイヤレステクノロジー用アンテナは、パソコン本体の右側に内蔵されています。このパソコンの使用中、とくに Bluetooth ワイヤレステクノロジーの通信中はアンテナ部分に極力触れないでください。通信性能が低下する場合があります。また、このパソコンを設置する場合には、周囲が金属などの導体 (電気を通しやすいもの) でできている場所を避けてください。通信性能が低下し、設置環境によっては通信できなくなることがあります。
- ・パソコン本体は、他の電気機器から離して設置してください。パソコン本体と電源が入った電気機器を近づけていると、正常に通信できなかったり、電気機器の障害になったりすることがあります。正常に通信できない場合は、使用場所を変更してください。特に、電子レンジなどの強い高周波エネルギーを出す機器の使用時は、影響を受けやすく、正常に通信できないことがあります。
- ・放送局や無線機などが近く、正常に通信できないときは、パソコン本体の設置場所を変えてみてください。周囲の電波が強すぎると、正常に通信できないことがあります。
- ・Bluetooth ワイヤレステクノロジーは IEEE802.11b や IEEE802.11g 規格の無線 LAN と同じ周波数帯の電波を使用します。そのため、ご使用の状態によっては無線 LAN と Bluetooth ワイヤレステクノロジーの電波が干渉し、他のパソコンなどとの通信速度が低下したり、Bluetooth ワイヤレステクノロジーで接続したワイヤレスヘッドホンなどの音質が悪くなる場合があります。このような場合には、無線 LAN の電波を停止するか、IEEE802.11a 規格の無線 LAN をお使いください。
- ・無線 LAN については、『内蔵無線 LAN をお使いになる方へ』をご覧ください。
- ・このパソコンに USB アダプタ型や PC カード型などの他の Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を取り付けて、同時に使用しないでください。

■ 電波放射の環境への影響

- ・このパソコンは、他の高周波デバイス同様に、高周波エネルギーを放出していますが、このパソコンが放出するエネルギーのレベルは、例えば携帯電話のような無線デバイスが放出する電磁エネルギーよりはるかに低く抑えられています。

- ・このパソコンは、高周波安全基準および勧告のガイドライン内で動作するため、このパソコンの使用者に対し、安全性を確信しています。本基準および勧告は、科学界の統一見解を反映しており、研究班の審議および広範な研究文献を継続的に調査し解釈する科学者たちの委員会を根本としています。
- ・ある状況や環境において、このパソコンの使用は、建物の所有者や団体の責任ある代表者により制限されることがあります。例えば、他のデバイスやサービスに対し干渉の危険がある環境での使用などが該当します。
- ・特定の団体や環境（例えば空港）で無線デバイスの使用に適用される方針が明確に分からぬ場合は、機器の電源を入れる前にこのパソコンの使用許可について問い合わせをしてください。

電波放射の人体への影響

- ・このパソコンから放射される出力パワーは、例えば携帯電話が放射する電波のレベルよりはるかに低くなっています。それでも、このパソコンは、通常の動作中に人間の接触に対し電位が最小限にとどめられるように使用されなくてはなりません。使用中はこのパソコンのアンテナ部分に極力触れないでください。

■干渉に関する注意事項

- ・このパソコンは、高周波エネルギーを発生させ、使用し、また放射します。
 - ・このマニュアルに従わずに設定したり使用したりすると、無線通信に有害な干渉を生じることがあります。
- このパソコンがラジオ、テレビの受信機に有害な干渉を与える原因となっている場合は（このパソコンの電源を入／切することで原因となっているかが判別できます）、次の方法で干渉を取り除くようにしてください。
- このパソコンと受信機の距離を離す
 - 受信機を接続しているコンセントと別系統回路のコンセントにこのパソコンを接続する
 - 経験のあるラジオ／テレビ技術者に相談する
 - ・このパソコンの不正な改造は行わないでください。
 - ・このパソコンの不正な改造により発生した、ラジオやテレビへの干渉についての責任を負いません。

必要なものを用意する

- ・Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器とそのマニュアル
- Bluetooth ワイヤレステクノロジーを利用してこのパソコンと接続する機器です。Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器には次のようなものがあります。お使いになる目的に応じてご用意ください（キーボード、マウス、プリンタ、ヘッドセット、携帯電話など）。
- お使いになる Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器によって設定方法が異なる場合があります。必ず Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアルもご覧ください。

重要

Bluetooth パスキー (PIN コード) について

このパソコンと Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器の接続（ペアリング）設定をするときには、機器によっては「Bluetooth パスキー (PIN コード)」が必要になる場合があります。「Bluetooth パスキー (PIN コード)」については、後述の「Bluetooth ユーティリティユーザーズガイド」および Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアルをご覧ください。

プロファイルについて

Bluetooth ワイヤレステクノロジーには「プロファイル」という仕様があり、同じプロファイルを持つ Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器同士を接続し、そのプロファイルの機能を使用することができます。このパソコンには、このパソコンがサポートしているプロファイルに対応した Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を使用することができます。このパソコンがサポートしているプロファイルについては後述の「Bluetooth ユーティリティユーザーズガイド」をご覧ください。

Bluetooth 無線規格について

このパソコンに内蔵されている Bluetooth ワイヤレステクノロジーは、出力 Class2、Bluetooth 無線規格 2.0+EDR に準拠したもので、Bluetooth 無線規格 2.0 + EDR およびそれ以前の規格に準拠した機器と接続が可能です。

なお、すべての Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器に接続可能なことを保証するものではありません。

Bluetooth ワイヤレステクノロジーを使うための設定をする

このパソコンと Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を接続するためには、「Bluetooth ユーティリティ」を使用します。

「Bluetooth ユーティリティ」の使用方法については、「Bluetooth ユーティリティユーザーズガイド」をご覧ください。

「Bluetooth ユーティリティユーザーズガイド」は次の手順で起動します。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Bluetooth」→「ユーザーズガイド」の順にクリックします。

「Bluetooth ユーティリティユーザーズガイド」が起動します。

Bluetooth ワイヤレステクノロジーの電波を停止する／発信する

このパソコンに内蔵されている Bluetooth ワイヤレステクノロジーの電波を発信する／停止する方法について説明します。

病院や飛行機内、その他電子機器使用の規制がある場所では、あらかじめ Bluetooth ワイヤレステクノロジーの電波を停止してください。

■ワイヤレススイッチで電波を停止／発信する方法

ワイヤレススイッチを使うと Bluetooth ワイヤレステクノロジーの電波と、無線 LAN の電波を同時に停止／発信することができます。

1 パソコン本体のワイヤレススイッチをスライドします。

左にスライドした位置 (OFF) : Bluetooth ワイヤレステクノロジーと無線 LAN の電波を、
両方とも停止します。

右にスライドした位置 (ON) : Bluetooth ワイヤレステクノロジーと無線 LAN の電波を、
同時に発信します。

■ユーティリティで電波を停止／発信する方法

パソコン本体のワイヤレススイッチが ON になっている状態で、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの電波だけを停止／発信します。

POINT

パソコン本体のワイヤレススイッチが「OFF」のときには、このユーティリティは使用できません。

1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」順にクリックします。
「コントロールパネル」が表示されます。
2. 「コントロールパネルのその他のオプション」をクリックします。
3. 「Fujitsu Radio Control」をクリックします。
4. 「Bluetooth ステータス」のボタンをクリックします。

「無効にする」：ステータス表示が「OFF」に変わり、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの電波が停止します。

「有効にする」：ステータス表示が「ON」に変わり、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの電波を発信します。

4 ドライブ関連

ドライブ構成

HDD 容量 30GB の場合

ドライブ	容量	備考
C	約 15GB	NTFS
D	約 15GB	NTFS
E	接続したドライブ	ドライブ接続時

HDD 容量 60GB の場合

ドライブ	容量	備考
C	約 30GB	NTFS
D	約 30GB	NTFS
E	接続したドライブ	ドライブ接続時

HDD 容量 80GB の場合

ドライブ	容量	備考
C	約 30GB	NTFS
D	約 50GB	NTFS
E	接続したドライブ	ドライブ接続時

POINT

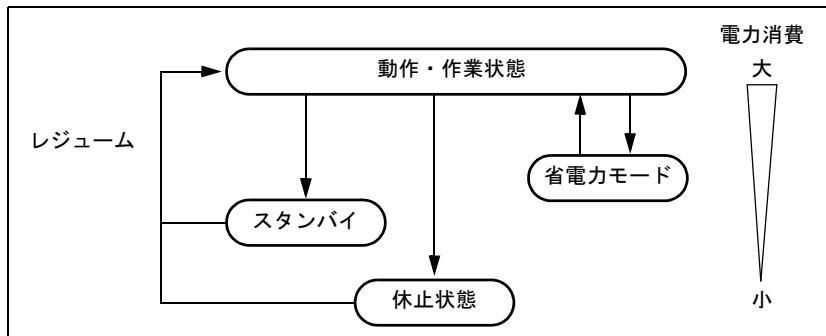
- ・ファイルシステムを NTFS から FAT32 に変換することはできません。

5 省電力

ご購入時には、一定時間パソコン本体を操作しないと自動的にディスプレイの表示を消したり、スタンバイするよう設定されています。

スタンバイ／休止状態／省電力モード

スタンバイ、休止状態または省電力モードを使用すると、Windows を終了しないで節電できます。



・スタンバイ

メモリ内のプログラムやデータを、システム RAM (メモリ) に保持してパソコンの動作を中断させます。スタンバイ中は、電源ランプが点滅します。休止状態よりも短い時間で、中断やリジュームを行うことができます。スタンバイ中は、わずかに電力を消費していて、電源は、AC アダプタを接続している場合は AC 電源から、接続していない場合はバッテリから供給されます。

・休止状態

メモリ内のプログラムやデータを、ハードディスクに書き込んで保存し、パソコン本体の電源を切れます。そのため、スタンバイよりも中断／リジュームにかかる時間が長くなります。

・省電力モード

Windows が起動しているときに、「省電力ユーティリティ」を使った省電力モードにすることができます。省電力モードは、スタンバイや休止状態とは異なり、パソコン本体の動作を中断させません。そのため、パソコンの消費電力はスタンバイや休止状態ほどは節約できません。

注意事項

共通の注意事項

- ネットワークをお使いになるときは、省電力機能が働かないように設定を変更することをお勧めします (→ P.106)。省電力機能が働いてしまうと、他の装置からアクセスできなくなることがあります。
- パソコンをお使いの状況によっては、スタンバイや休止状態、リジュームに時間がかかる場合があります。

- ・スタンバイまたは休止状態にした後、すぐにレジュームしないでください。必ず、10秒以上たってからレジュームするようにしてください。
- ・接続している周辺機器のドライバが正しくインストールされていない場合、スタンバイや休止状態にならないことがあります。
- ・レジューム時に、画面に一瞬ノイズが発生する場合があります。
- ・次の場合は、スタンバイや休止状態にしないでください。
 - Windows の起動処理中または終了処理中
 - パソコンが何か処理をしている最中（プリンタ出力中など）、および処理完了直後
 - ハードディスク、またはフロッピーディスクにアクセス中
 - オートラン CD-ROM（セットすると自動で始まる CD-ROM）を使用中
 - ビデオ CD や DVD-VIDEO などを再生中
 - 音楽 CD やゲームソフトなどのサウンドを再生中
 - CD や DVD に書き込みまたは書き換え中
 - ドライバのインストールが必要な周辺機器を接続しているが、対象のドライバのインストールが終了していないとき
 - ネットワーク環境で TCP/IP プロトコル以外のプロトコルを使用している場合
- ・周辺機器の取り付け／取り外しをする前に、パソコン本体の電源を切ってください。省電力に移行した状態では行わないでください。また、周辺機器によっては、パソコン本体の電源を切らなくても接続できるものもあります。
- 「ハードウェア」（→ P.23）、または周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。
- ・本パソコンは、低レベルのスタンバイ（ACPI S1）をサポートしていません。お使いになる周辺機器が低レベルのスタンバイのみサポートしている場合は、本パソコンをスタンバイや休止状態にしないでください。
- ・別売の LAN カードをお使いになる場合は、AC アダプタを接続し、「電源オプションのプロパティ」ウィンドウで「電源設定」タブの各項目を「なし」に設定してください。
- ・CD や DVD を読み込み中にスタンバイや休止状態に移行すると、レジューム時にエラーメッセージが表示される場合があります。この場合は、【Enter】キーを押してください。
- ・ネットワーク環境で LAN 着信によるレジューム（Wakeup on LAN）を設定すると、ホストコンピュータまたは他のコンピュータからのアクセスにより、スタンバイまたは休止状態のコンピュータがレジュームする可能性があります。次の手順でタイマ値を設定することをお勧めします。
 1. 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
 2. 「電源オプションのプロパティ」ウィンドウを表示します（→ P.106）。
 3. 「電源設定」タブの「システムスタンバイ」を「20 分後」以上に設定します。

POINT

- ・設定値が 20 分より短いと、本パソコンがレジュームしてしまうことがあります。20 分以上の値に設定してください。

スタンバイ時の注意事項

- ・バッテリを使っているときのスタンバイ可能な時間は、新品のバッテリを満充電した状態では、約 1 日です。
- ・スタンバイ時にはシステム RAM（メモリ）でのデータ保持のために電力を消費します。バッテリ運用の場合は、バッテリ残量に留意してください。スタンバイ中にバッテリが切れると、作業中のデータがすべて失われてしまいます。長時間お使いにならない場合は、データを保存してから Windows を終了させ、パソコン本体の電源を切ってください。

- お使いになる PC カードによっては、バッテリ運用時のスタンバイ可能な時間が短くなる場合があります。

休止状態の注意事項

- PC カードやプリンタなどの周辺機器を接続した状態で休止状態にすると、レジューム時に周辺機器の情報が初期化されるため、中断する前の作業状態に戻らないことがあります。
- ハードディスクに必要な空き容量がない場合、休止状態は使用できません。

省電力モードの注意事項

- 省電力モードにすると次の機能が使用できなくなります。
省電力モードにする前にそれぞれの機能の使用を中止してください。
 - CD/DVD ドライブ (ユニット)
 - PC カードスロット
 - SD メモリーカードスロット
 - IEEE1394 (DV) 端子
 - 有線 LAN
- 省電力モードにすると CD/DVD ドライブ (ユニット) の電源が切れる設定にしている場合は、省電力モード時には CD/DVD 取り出しボタンをおしても CD/DVD ドライブ (ユニット) のトレイは開きません。
CD/DVD の取り出しは通常モードで行ってください。
- 省電力モードにすると PC カードが無効になる設定にしている場合は、省電力モードから通常モードに切り替えるときに、必ず PC カードスロットから PC カードを抜いてください。
PC カードを使う場合、省電力モードから通常モードに戻してから再度セットしてください。

省電力の設定

「電源オプションのプロパティ」 ウィンドウの表示

本パソコンの電源を管理することができます。

- 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」の順にクリックします。
- 「電源オプション」をクリックします。
「電源オプションのプロパティ」 ウィンドウが表示されます。

設定を変更する

お使いの状況に合わせて、各タブで設定を変更し、「適用」をクリックしてください。

重要

・ネットワークをお使いになるときは、次の設定を行い、省電力機能が働かないようにすることをお勧めします。

省電力機能が働いてしまうと、他の装置からアクセスできなくなることがあります。

「電源設定」タブの「システムスタンバイ」、「システム休止状態」を「なし」にします。また、「詳細設定」タブの「ポータブルコンピュータを閉じたとき」を「何もしない」にします。

■「電源設定」タブ

本パソコンの電源を入れた状態で一定時間使用しなかった場合に、節電機能が働くまでの時間を設定できます。「電源設定」から「バッテリの最大利用」または「ポータブル／ラップトップ」を選択し、各項目を次のように変更してください。

「システムスタンバイ」：スタンバイするまでの時間を設定できます。

「システム休止状態」：休止状態にするまでの時間を設定できます。この項目は「休止状態」タブで「休止状態を有効にする」をチェックした場合のみ表示されます。

出荷時の設定は、「バッテリの最大利用」です。出荷時設定のままでのご使用をお勧めします。

■「アラーム」タブ

バッテリの残量が少なくなったときにWindowsが出す警告に関する設定をします。

音で知らせる場合は、「アラームの動作」をクリックし、「通知方法」の「音で知らせる」にチェックを付けます。

POINT

・「電源レベルが次に達したらバッテリ切れアラームで知らせる」のチェックを外すと、バッテリが切れた時点で電源が切断されます。この場合は、作成中のデータが失われたり、パソコン本体の動作が不安定になることがあります。

■「詳細設定」タブ

電源ボタンを押したときや液晶ディスプレイを閉じたときの、パソコン本体の動作状態を設定します（ご購入時は、スタンバイになるように設定されています）。

「電源ボタン」の各項目を次のように変更してください。

- ・「ポータブルコンピュータを閉じたとき」
：液晶ディスプレイを閉じたときの動作を設定できます。
- ・「コンピュータの電源ボタンを押したとき」
：電源ボタンを押したときの動作を設定できます。

重要

・「ポータブルコンピュータを閉じたとき」の設定で移行したい状態に「何もしない」を選択した場合、本パソコンの動作中に液晶ディスプレイを閉じないでください。放熱が妨げられ、本パソコンが故障する原因となります。

■「休止状態」タブ

本パソコンを終了する前にメモリの内容をすべてハードディスクに保存するかを設定します。

「休止状態」タブの「休止状態を有効にする」をチェックする（ご購入時にはチェックされています）と、「詳細設定」タブの「電源ボタン」の各項目で「休止状態」が選択できるようになります。

スタンバイまたは休止状態にする

各項目での動作は「電源オプションのプロパティ」ウィンドウでの設定によります。スタンバイ／休止状態にするには、次の方法があります。

「コンピュータの電源を切る」ウィンドウを使う

1 「スタート」ボタン→「終了オプション」の順にクリックします。

「コンピュータの電源を切る」ウィンドウが表示されます。

2 「スタンバイ」または「休止状態」を選択します。

しばらくするとスタンバイまたは休止状態になります。

電源ボタンを使う

「電源オプションのプロパティ」ウィンドウの「詳細設定」タブでの設定により、電源ボタンを押したときにスタンバイまたは休止状態になります。詳しくは、「省電力の設定」（→P.106）をご覧ください。

1 状態表示LEDのハードディスク／CDアクセスランプが点灯していないことを確認し、電源ボタンを押します。

しばらくするとスタンバイまたは休止状態になります。

POINT

- 電源ボタンは4秒以上押さないでください。電源ボタンを4秒以上押すと、本パソコンの電源が切れ、作成中のデータが失われることがあります。

液晶ディスプレイを閉じる

「電源オプションのプロパティ」ウィンドウでの設定により、スタンバイ／休止状態のどちらかに移行します。

※ 重要

- 液晶ディスプレイは静かに閉じてください。
閉じるときに液晶ディスプレイに強い力が加わると、液晶ディスプレイが故障する原因となることがあります。

- 1 状態表示LEDのハードディスク／CDアクセスランプが点灯していないことを確認し、液晶ディスプレイを閉じます。**
しばらくするとスタンバイまたは休止状態になります。

POINT

- ・「電源オプションのプロパティ」ウィンドウの「詳細設定」タブで「ポータブルコンピュータを閉じたとき」の項目を「何もしない」に設定すると、液晶ディスプレイを閉じたときにスタンバイや休止状態にしないように設定できます。ただし、「何もしない」に設定した場合は、液晶ディスプレイを閉じないでください。放熱が妨げられ、故障の原因となります。
- ・省電力状態になったことを示すピピッという音を確認してください(ボリュームを小さくしていると聞こえません)。また、ハードディスクの音が止まつたことを確認してください。スタンバイや休止状態にならないまま液晶ディスプレイを閉じると、放熱が妨げられ、故障の原因になります。
- ・液晶ディスプレイを閉じてもスタンバイや休止状態にならない場合、液晶ディスプレイを開いて電源ボタンを押し、スタンバイや休止状態になったことを確認してから液晶ディスプレイを閉じてください。
- ・ソフトウェアの動作中には、液晶ディスプレイを閉じてもスタンバイや休止状態にならない場合があります。ソフトウェアの動作が止まった後で、液晶ディスプレイを閉じてください。

3

スタンバイまたは休止状態からの復帰

復帰には、次の方法があります。

電源ボタンを使う

液晶ディスプレイが開いているときに使用します。

スタンバイから復帰する場合は電源ランプが点滅していることを確認してください。

- 1 電源ボタンを押します。**
しばらくすると、中断する前の画面が表示されます。

液晶ディスプレイを開く

液晶ディスプレイが閉じているときに使用します。

LAN着信による復帰 (Wakeup on LAN)

他のコンピュータから本パソコンにコンピュータ検索が行われた場合などに、自動的に復帰させることができます。無線 LAN をお使いの場合、Wakeup on LAN 機能はお使いになれます。

なお、「LAN着信による復帰」の設定をしているときは、スタンバイまたは休止状態中に液晶ディスプレイを閉じないでください。復帰後に放熱が妨げられ、故障の原因となります。

ネットワーク環境下で Wakeup on LAN 機能を使用する場合は、次のように設定してください。

- 1** 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
- 2** 「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を右クリックして「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。
- 4** 「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。
- 5** 次のデバイスを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
 - ・ Marvell Yukon 88E8055 PCI-E Gigabit Ethernet Controller
- 6** 「電源の管理」タブをクリックします。
- 7** 次の2つの項目をチェックし、「OK」をクリックします。
 - ・ 電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする
 - ・ このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする

省電力モードの設定

概要

Windows が起動しているときに「省電力ユーティリティ」を起動すると、省電力モードになり消費電力を節約することができます。

省電力モードでは、次の機能により消費電力が節約されます。

- ・ CD/DVD ドライブ (ユニット) の電源を切り、使用できなくなる (ドッキングステーション内蔵スーパーマルチドライブの場合)
- ・ PC カードスロットおよび SD メモリーカードスロットを使用できなくなる
- ・ IEEE1394 (DV) 端子を使用できなくなる
- ・ 有線 LAN を使用できなくなる
- ・ 画面の明るさを暗くする
- ・ 「電源オプションのプロパティ」にある「ハードディスクの電源を切る」の時間を調整する

省電力モードの設定

ワンタッチボタンの C ボタンを押すと、「省電力モード」 \longleftrightarrow 「通常モード」 \longleftrightarrow と順に切り替わります。

POINT

通知領域の「省電力ユーティリティ」アイコンを右クリックし、表示されるメニューからも切り替えることができます。

1. 画面右下の通知領域にある「省電力ユーティリティ」アイコンを右クリックし、表示されるメニューから「モードの切り替え」をクリックします。
モードの切り替えを示すウィンドウが表示されます。
2. 「OK」をクリックします。
「省電力モード」 \longleftrightarrow 「通常モード」が切り替わります。

3

省電力モードの設定を変更する

省電力モードの設定を変更することができます。お使いの状況に合わせて、設定を変更し、「OK」をクリックしてください。

POINT

- ・「スタート」ボタン \rightarrow 「すべてのプログラム」 \rightarrow 「省電力ユーティリティ」 \rightarrow 「設定画面 - 省電力ユーティリティ」の順にクリックしても設定画面を表示できます。
- ・設定内容については、「省電力ユーティリティ」のヘルプをご覧ください。「省電力ユーティリティ」のヘルプは、「スタート」ボタン \rightarrow 「すべてのプログラム」 \rightarrow 「省電力ユーティリティ」 \rightarrow 「ヘルプ」の順にクリックして表示します。

1 「スタート」ボタン \rightarrow 「コントロールパネル」の順にクリックします。

「コントロールパネル」 ウィンドウが表示されます。

2 「パフォーマンスとメンテナンス」をクリックします。

3 「電源オプション」をクリックします。

「電源オプションのプロパティ」が表示されます。

4 「省電力ユーティリティ」タブをクリックします。

5 「設定を変更」をクリックします。

「省電力ユーティリティ設定画面 - [省電力ユーティリティ]」が表示されます。

6 HDD プロテクション

このパソコンには、パソコン本体に落下の兆候などによる加速度が加わったことを感知して、自動的にハードディスクドライブ（HDD）内のデータを守る機能（HDD プロテクション）が搭載されています。

HDD プロテクションは、「Shock Sensor Utility」というユーティリティで設定を変更することができます。

HDD プロテクションの特長

ハードディスクドライブの中では、磁気ヘッドがハードディスク上のデータを読み書きしています。落下などによりパソコンに強い衝撃が加わると、磁気ヘッドやハードディスクがダメージを受け、大切なデータを一瞬で失う危険性があります。

HDD プロテクションはこのパソコンに搭載されている、3D 加速度センサーにより、落下の兆候などによる加速度を感知し、磁気ヘッドをハードディスクから自動的に退避して、磁気ヘッドやハードディスクの損傷を防ぎます。

3D 加速度センサーが加速度を感じている間は、画面右下の通知領域にある「Shock Sensor Utility」のアイコンが  から  に変わり、「衝撃を検出したため、ハードディスクヘッドを一時的に退避しました。」というメッセージが表示されます。

※ 重要

HDD プロテクションの有効範囲について

すべての状況に対してハードディスクの破損防止やデータ保護を保障するものではありません

「Shock Sensor Utility」について

HDD プロテクションは、「Shock Sensor Utility」というユーティリティで設定を変更することができます。

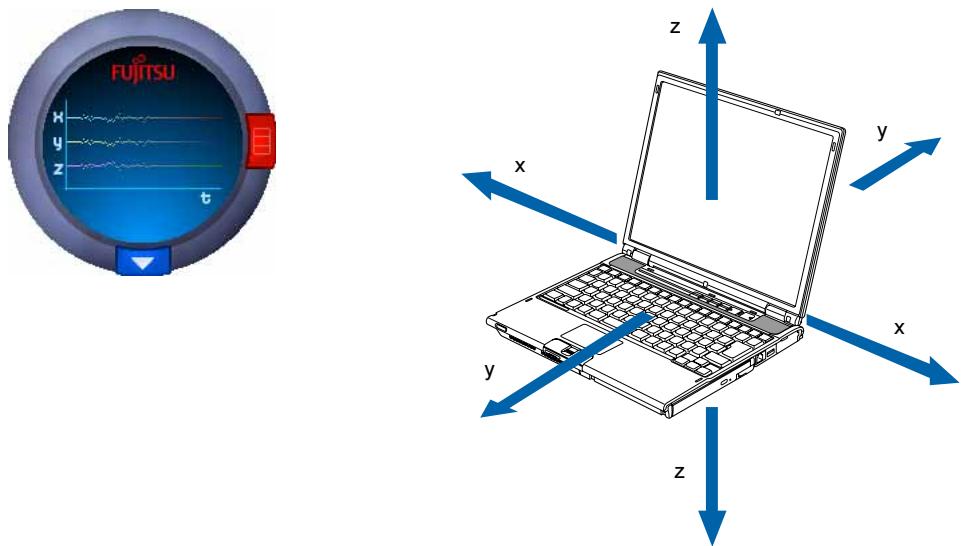
「Shock Sensor Utility」メイン画面の表示

「Shock Sensor Utility」は、次の手順で表示させることができます。

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Shock Sensor Utility」→「設定」の順にクリックします。

「Shock Sensor Utility」のメイン画面が表示されます。

HDD プロテクションは、3D 加速度センサーがこのパソコンに加わる落下の兆候などの加速度を 3 次元（前後・左右・上下）で感知することにより働きます。「Shock Sensor Utility」のメイン画面には、3D 加速度センサーが感知した加速度が表示されます。



x : 3D 加速度センサーが感知した「左右」の加速度を表示します。

y : 3D 加速度センサーが感知した「前後」の加速度を表示します。

z : 3D 加速度センサーが感知した「上下」の加速度を表示します。

「Shock Sensor Utility」の設定

「Shock Sensor Utility」では、HDD プロテクションを働かせるための、3D 加速度センサーの感度を調節することができます。

「Shock Sensor Utility」の詳しい設定方法については、「Shock Sensor Utility」の「ヘルプ」をご覧ください。

1 「Shock Sensor Utility」のメイン画面にある赤いボタンをクリックします。

「Shock Sensor Utility」の設定画面が表示されます。

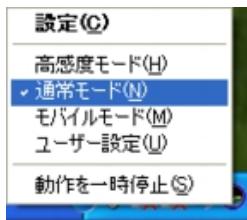


2 「ヘルプ」をクリックします。



3D 加速度センサーの感度の切り替え

3D 加速度センサーの感度は、画面右下の通知領域にあるアイコンを右クリックして表示されるメニューから簡単に変更することができます。安全性を高めたい場合には「高感度モード」、電車の中など振動の多い場所でご使用の場合には「モバイルモード」というように、状況に合わせた設定が可能です。



このパソコンの冷却用ファンが回転する際に発する音をなるべく抑えたい場合は、「静音ユーティリティ」をご利用ください。

「静音ユーティリティ」について

「静音ユーティリティ」は、CPUのパフォーマンスを抑えることで、冷却用ファンが回転し始めるまでの時間を遅らせることができるソフトウェアです。

「静音ユーティリティ」の使い方

「静音ユーティリティ」の使い方は次のとおりです。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「静音ユーティリティ」→「静音ユーティリティ」の順にクリックします。

「静音ユーティリティ」 ウィンドウが表示されます。

2 「静音ユーティリティ」 ウィンドウの「モード」を選びます。

次の3つのモードがあります。ご利用のシーンに合わせてモードを選んでください。

- ・通常 : CPUのパフォーマンスを優先します。
- ・静音モード（レベル1）: CPUのパフォーマンスを抑えることで、冷却用ファンが回転し始めるまでの時間を遅らせます。
- ・静音モード（レベル2）: レベル1よりCPUのパフォーマンスを抑えることで、冷却用ファンが回転し始めるまでの時間を、さらに遅らせます。

POINT

- ・「静音モード（レベル1またはレベル2）」を選んだ場合、高いCPUパフォーマンスを必要とするソフトウェアが正しく動作しない場合があります。
- ・動画の再生、動きのあるゲームなど
この場合は、「通常」をご利用ください。
- ・本設定は、BIOSセットアップの「詳細」→「各種設定」→「FAN/CPUコントロール」でも変更可能ですが、詳しくは、「BIOS」→「BIOSセットアップの操作のしかた」（→P.157）をご覧ください。なお、「終了」メニューの「標準設定値を読み込む」（→P.167）を実行すると設定が「通常」に戻ります。

3 「OK」をクリックします。

モードを変更した場合は表示されるメッセージに従ってください。パソコンが再起動され選ばれたモードに設定されます。

Memo

4

第4章

セキュリティ

本パソコンで使用できるセキュリティ機能について紹介します。他人による不正使用や情報の漏えいなどを防ぐために、日ごろからセキュリティ対策を心がけてください。

1 セキュリティについて	118
2 ネットワーク接続時のセキュリティ	120
3 不正使用からのセキュリティ	127
4 パソコン本体廃棄時のセキュリティ	129

1 セキュリティについて

パソコンの使用増加に伴って、コンピュータウイルスによるシステム破壊、情報の漏えい、不正使用、盗難などの危険も増えてきています。これらの危険から大切な情報を守るために、本パソコンではさまざまなセキュリティ機能が用意されています。

ここでは、どんな危険があるか、またトラブルに備えてやっておくことについて、説明しています。

※ 重要

- 当社ではセキュリティ機能を使用されたこと、または使用できなかったことによって生じるいかなる損害に關しても、一切の責任を負いかねます。
- セキュリティ対策は、本パソコンを使用している方が責任をもって行ってください。
- セキュリティは一度行えば安心できるものではありません。パソコンを使用している方が日ごろから関心をもって、最善のセキュリティ環境にしておくことが必要です。

コンピュータウイルス

パソコンにトラブルを引き起こすことを目的として作られたプログラムです。インターネットや電子メールなどを通じてパソコンに感染することにより、パソコンのシステムやデータの破壊、情報の漏えいといった被害を与えます。

情報の漏えい

ネットワークなどを通じてパソコンに不正に侵入され、重要なデータを流出されたり破壊されたりすることがあります。また、特殊なソフトウェアを使用することにより、廃棄したパソコンから不正に情報が抜き出されることもあります。

POINT

- 記録メディアを廃棄する場合も、セキュリティに気を付けてください。CD、DVDなどはディスクの読み取り部に傷をつけたり、USBメモリなどはデータを完全に消去したりすることをお勧めします。

不正使用

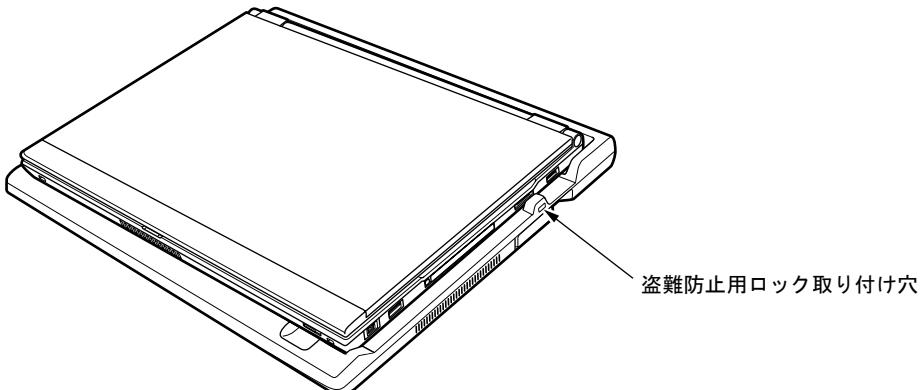
使用する権限のないパソコンを使用することです。パスワードを設定するなどの対策で防ぐこともできますが、容易に想像できるパスワードを使用したりすると、不正に使用される危険性が高くなります。

盗難

パソコンが盗難され、保存しているデータが不正に使用されてしまうことがあります。パソコンを鍵のかかる場所に設置または保管するなど、必要に応じて対策ください。

POINT

- ドッキングステーションには、盗難防止用ロック取り付け穴があります。
市販の盗難防止用ケーブルを取り付けることで、パソコン本体の盗難の危険性が減少します。



2 ネットワーク接続時のセキュリティ

インターネットや電子メールなどの普及に伴い、コンピュータウイルスへの感染やパソコン内の情報が漏えいする危険性が高まっています。

ここでは、ネットワークに接続しているパソコンを守るためのセキュリティ機能について紹介します。

コンピュータウイルス対策

重要

・コンピュータウイルスに感染したことにより本パソコンの修理が必要になった場合、保証期間内であっても有償修理になることがあります。ウイルスの感染を防ぐために、セキュリティ対策ソフトを使用したり、「Windows Update」を実行したり対策を取ってください。

コンピュータウイルスは、インターネットや電子メールなどを通じてパソコンに感染し、データを破壊したりパソコンを起動できなくしたりします。また、ウイルスに感染したパソコンを使用することにより、メールソフトに登録されているアドレスや保持しているデータに記録されているアドレス宛てに勝手にウイルスが配信され、ウイルスを広めてしまうこともあります。

また、インターネットに接続しない場合も、データによる感染を防ぐため、セキュリティ対策ソフトの初期設定をすることをお勧めします。

このパソコンに用意されているセキュリティ対策ソフト

このパソコンには、様々な機能を備えた総合的なセキュリティ対策ソフトが用意されています。

次の2つのソフトウェアのうち、どちらか1つを選んで初期設定をしてください。

- ・「Norton Internet Security」(→P.121)
- ・「ウイルスバスター」(→P.122)

■「Norton Internet Security」

「Norton Internet Security」をインストールする

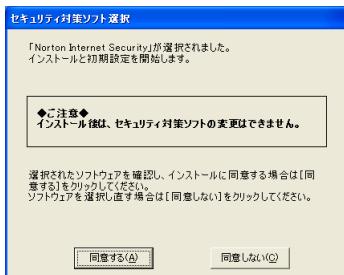
1 デスクトップにある  (セキュリティ対策ソフト選択) をクリックします。

2 「Norton Internet Security」のボタンをクリックします。



3 画面の内容をよく確認し、インストールを開始するには、「同意する」をクリックします。

「同意する」をクリックした後は、セキュリティ対策ソフトを変更することはできませんので、ご注意ください。



4 「Norton Internet Security」の画面が表示されるまで、そのまましばらくお待ちください。

5 「Norton Internet Security」の画面が表示されたら、初期設定を行います。

この後は、「次へ」「完了」「同意します」などをクリックして操作を進めてください。

定義ファイルのアップデート期限

初期設定が完了してから 90 日間は、定義ファイルのアップデートが利用できます。90 日に近づいたり、90 日を過ぎたりすると、更新サービスの申し込みをお勧めする画面が表示されます。その後も使い続けるには、更新サービス（有料）の申し込みが必要です。

お問い合わせ先

「Norton Internet Security」については、株式会社シマンテックにお問い合わせください。

■「ウイルスバスター」

POINT

- 「ウイルスバスター」のユーザー登録には、メールアドレスが必要です。「ウイルスバスター」を使い始めると、重要なお知らせがEメールで届きます。

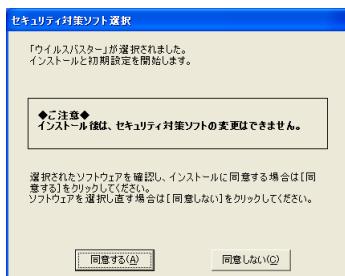
「ウイルスバスター」をインストールする

- 1 デスクトップにある  (セキュリティ対策ソフト選択) をクリックします。
- 2 「ウイルスバスター」のボタンをクリックします。



- 3 画面の内容をよく確認し、インストールを開始するには、「同意する」をクリックします。

「同意する」をクリックした後は、セキュリティ対策ソフトを変更することはできませんので、ご注意ください。



- 4 この後は、画面の指示に従ってインストールします。

「次へ」「はい」「同意する」「インストール」「完了」などをクリックして、操作を進めてください。

「ウイルスバスター」の設定

「ウイルスバスター」の「パーソナルファイアウォール」機能を使うときは、インターネットの接続形態に合わせた設定が必要です。次の手順に従って、設定してください。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「トレンドマイクロ ウイルスバスター 2006」→「プログラムを起動」の順にクリックします。

概要説明の「動画マニュアル」を開始するか確認する画面が表示されます。

2 「キャンセル」をクリックします。

「ウイルスバスター」のトップ画面が表示されます。

3 「アップデート / その他の設定」にある「オプション設定」をクリックします。

4 「パスワード」の「設定変更時にパスワードを確認する」をクリックし、チェックマークをつけます。

「パスワードの新規登録」の画面が表示されます。

5 6文字以上のパスワードを半角文字で入力し、「OK」をクリックします。

入力したパスワードは、忘れないようにしてください。

6 「適用」をクリックします。

7 「不正侵入対策 / ネットワーク管理」にある「パーソナルファイアウォール」をクリックします。

8 「現在のプロファイル」で、インターネットの接続形態に合わせたプロファイルを選択します。

例えば、ADSL や光ファイバーなどを利用している場合は、をクリックして「家庭内ネットワーク 2」を選択します。

9 「適用」をクリックします。

パターンファイルのアップデート期限

ユーザー登録が完了してから 90 日間は、パターンファイルのアップデートが利用できます。その後も使い続けるには、更新手続き（有料）が必要です。

お問い合わせ先

「ウイルスバスター」については、トレンドマイクロ株式会社にお問い合わせください。

■コンピュータウイルスの被害届け

コンピュータウイルスを発見した場合は、被害届けを提出してください。

コンピュータウイルスの届け出制度は、「コンピュータウイルス対策基準」(平成12年12月28日付通商産業省告示第952号)の規定に基づいています。コンピュータウイルスを発見した場合、コンピュータウイルス被害の拡大と再発を防ぐために必要な情報を、独立行政法人情報処理推進機構(IPA)セキュリティセンターに届け出ることとされています(<http://www.ipa.go.jp/security/>)。

Windows やソフトウェアのアップデート

お使いの Windows やソフトウェアに脆弱性(セキュリティホール)と呼ばれる弱点が発見されることがあります。これらの脆弱性が悪用されると、コンピュータウイルスなどの悪意あるプログラムが作られる可能性があります。脆弱性をそのまま放置しておくと、お使いのパソコンに悪意あるプログラムが侵入する危険性があります。

その対策として、システムやソフトウェアを提供している各社が修正プログラムを無料で配布しています。新しい修正プログラムが発表されたときには、内容を確認の上、お使いのパソコンに適用してください。

Windows では、「Windows Update」で Windows やソフトウェアなどを最新の状態に更新できます。最新の状態にすることにより、ウイルスが侵入したり、不正アクセスされたりするセキュリティホールをなくすための対策もされます。

Office 製品についても、マイクロソフト社のホームページから、「Office のアップデート」を実行することにより、最新の状態に更新できます。

Windows Update

POINT

- ・「Windows Update」を実行するためには、インターネットに接続できる環境が必要になります。ネットワーク管理者に確認し、あらかじめ必要な設定をしてから、実行してください。
- ・インターネットに接続しただけで感染するウイルスなどもあります。ご購入時の設定は「Windows ファイアウォール」が有効になっています。「Windows ファイアウォール」は、有効にして使用することをお勧めします。
- ・「Windows Update」はシステム管理者の指示に従って行ってください。システム管理者は、次の点にご注意ください。
 - ・「優先度の高い更新プログラム」については、適用されることをお勧めします。
 - ・ハードウェア用の更新プログラムは適用しないでください。ただし、お客様が追加されたデバイスについてはお客様の判断で適用してください。
 - ・自動更新機能を使うと、「Windows Update」を自動的に行うように設定することができます。設定方法については、Windows のヘルプをご覧ください。ご購入時の設定では、インターネットに接続しているときに、「優先度の高い更新プログラム」を自動更新するように設定されています。必要に応じて設定を変更してください。
- ・「Windows Update」は、マイクロソフト社が提供するサポート機能です。「Windows Update」で提供されるプログラムについては、弊社がその内容や動作、および実施後のパソコンの動作を保証するものではありませんのでご了承ください。
- ・「Windows Update」のバージョンがアップされている場合は、「Windows Update」のホームページの案内に従って、実行してください。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Windows Update」の順にクリックします。

「Windows Update」の画面が表示されます。

POINT

- Windows や Office 製品などのマイクロソフト社が提供するソフトウェアの更新プログラムを1度に入手できる「Microsoft Update」を利用するこどもできます。「Microsoft Update」を利用するには、マイクロソフト社のホームページから専用のソフトウェアをインストールする必要があります。詳しくは、「Windows Update」のホームページにあるリンクをクリックし、「Microsoft Update」のホームページをご覧ください。

2 「カスタム」をクリックします。

パソコンの状態を診断し、更新情報を取得します。

更新情報のリストが表示されます。

3 内容を確認し、更新したくない項目がある場合はその項目のチェックを外します。

通常は、「優先度の高い更新プログラム」についてはすべての項目を更新することをお勧めします。

4 「更新プログラムの確認とインストール」をクリックします。

POINT

- インターネットへ情報を送信するにあたっての注意が表示されたら、「はい」をクリックします。

5 「更新プログラムのインストール」をクリックします。

この後は、表示される画面に従って操作してください。

アップデートナビ

このパソコンの出荷後、お客様にご購入いただくまでの間にも、弊社では改善に努めています。パソコンをよりお勧めの状態に整える「アップデートナビ」というサポート機能をご利用ください。「アップデートナビ」では、インターネットを経由して、弊社が推奨する最新情報を確認し、お使いのパソコンを、より安定して動作するお勧めの状態にします。

1 画面右下の通知領域にある (アップデートナビ) を右クリックします。

2 「富士通へ最新情報を確認」をクリックします。

3 「ご利用になる上でのご注意」の画面が表示されたら、内容をよくお読みになり、「承諾する」をクリックします。

「承諾しない」をクリックした場合、「アップデートナビ」はご利用いただけません。

4 更新項目を確認します。必要に応じて、概要、詳細をご覧ください。

更新したくない項目がある場合は、その項目の左にあるチェックを外します。通常は、すべての項目を更新することをお勧めします。

5 「更新開始」をクリックします。

更新情報が自動的にダウンロードされ、インストールされます。

通信データの暗号化

重要なデータをネットワーク経由でやり取りしている場合、ネットワーク上で情報が漏えいすることがあります。そのため、データを暗号化して送信することが増えてきています。Windows XP Professional には、データを暗号化するための機能が標準で搭載されています。暗号化機能の 1 つとして、「IPSec (Internet Protocol Security)」があります。

「IPSec」は、TCP/IP プロトコルで通信を行っている場合、ソフトウェアに依存することなくデータを暗号化することができます。

詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。

無線 LAN 使用時の通信データの暗号化

無線 LAN を使ってネットワークに接続すると、無線が届く範囲内にある他の無線 LAN 搭載機器から通信内容を他人に読み取られてしまう危険性があるので、データを暗号化することが必要です。

本パソコンには、無線 LAN のデータを暗号化するための機能が搭載されています。

詳しくは、『内蔵無線 LAN をお使いになる方へ』をご覧ください。

なお、無線 LAN アクセスポイント経由でネットワークに接続している場合は、無線 LAN アクセスポイントのマニュアルもご覧ください。

3 不正使用からのセキュリティ

パソコンを使用する権限のない人が不正にパソコンを使用して、データを破壊したり漏えいしたりする危険からパソコンを守ることが必要になってきています。ここでは、本パソコンで設定できるパスワードや機能などについて説明します。なお、複数のパスワードや機能を組み合わせることによって、パソコンの安全性も高まります。

重要

- ・パソコンの修理が必要な場合は、必ずパスワードなどを解除してください。セキュリティがかかった状態では、保証期間にかかわらず修理は有償となります。
- ・パスワードを何かに書き留めるときは、第三者に知られないように安全な場所に保管してください。また、数字だけでなく英数字や記号を入れたり、定期的に変更したりするなど、第三者に推測されないように工夫をしてください。

Windows のパスワード

Windows の起動時やリジューム時、スクリーンセーバーからの復帰時のパスワードを設定できます。複数のユーザーで 1 台のパソコンを使用する場合、使用するユーザーによってパスワードを変更できます。

パスワードの設定方法については、Windows のヘルプをご覧ください。

管理者権限とユーザー アカウント

Windows では、管理者権限を持ったユーザー アカウントを作成できます。管理者は、他のユーザー アカウントのセットアップや管理などを行うことができます。管理者がパソコンを使用するユーザーを管理することで、パソコンの安全性も高まります。

詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。

アクセス権と暗号化

Windows では、ファイルシステムとして NTFS を使用しています。NTFS では、次のようなことができます。

- ・フォルダやファイルへのアクセス権の設定
ユーザーまたはグループごとに権限を設定できるため、権限のないユーザーからのアクセスに対してファイルを保護することができます。
- ・フォルダやファイルの暗号化
不慮の事故でハードディスクを紛失しても、簡単にファイルの内容を判別できないように保護することができます。

アクセス権を設定したり暗号化することにより、権限のないユーザーから大切なデータを守ることができます。

詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。

BIOS のパスワード

パソコンの起動時やレジューム時のパスワードを設定できます。BIOS のパスワードには、管理者用のパスワードとユーザー用のパスワードがあります。ユーザー用パスワードで作業を行う場合、パソコンの設定が変更できなくなるなどの制限がつきます。

また、パソコンのハードディスク自体にパスワードを設定できます。ハードディスクにパスワードを設定しておくと、パスワードを知っている人以外はハードディスクに入っている情報が読み出せなくなります。

また、指紋センサー搭載モデルをお使いの場合、指紋センサー部に指をスライドさせることで BIOS パスワードの入力を行うこともできます。

詳しくは、「BIOS」－「BIOS のパスワード機能を使う」(→ P.169) をご覧ください。

指紋センサー

重要

- ・指紋センサーをひっかいたり、先のとがったもので押したり、濡らしたりしないでください。指紋センサーに傷がつき、故障の原因となることがあります。
- ・パソコン本体の使用中、指紋センサー表面が温かくなることがありますが、故障ではありません。
- ・指紋センサーが汚れた場合は、除電用金具に触れてから、乾いた柔らかい布でセンサー表面の汚れを軽く拭き取ってください。

パソコンの起動時、Windowsの起動時、ソフトウェアのログオン時に指紋認証によるセキュリティを設定できます。従来のパスワード認証に変わり、指紋による個人認証を行います。パソコンを使用する場合は、指紋センサー部で指をスライドします。パスワードを覚える必要がなく、個々の指紋を記憶できるので、簡単に安全に使用できます。

詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

4 パソコン本体廃棄時のセキュリティ

パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

最近、パソコンは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのパソコンに入っているハードディスクという記憶装置には、お客様の重要なデータが記録されています。したがって、パソコンを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。

ところが、このハードディスク内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。「データを消去する」という場合、一般に

- データを「ゴミ箱」に捨てる
- 「削除」操作を行う
- 「ゴミ箱を空にする」を使って消す
- ソフトウェアで初期化（フォーマット）する
- ハードディスクをご購入時の状態に戻す

などの作業をしますが、これらのことをして、ハードディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際にはデータが見えなくなっているだけという状態です。

つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSからデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているのです。したがって、データ回復のための特殊なソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読み取ることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、ハードディスク内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。

パソコンの廃棄・譲渡等を行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、お客様の責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、専用ソフトウェアやサービス（有料）を利用することをお勧めします。また、廃棄する場合は、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁気的に破壊することをお勧めします。

なお、ハードディスク上のソフトウェア（Windows、ソフトウェアなど）を削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があるため、充分な確認を行う必要があります。

本パソコンには、パソコンの廃棄・譲渡時のデータ流出というトラブルを回避する安全策の一つとして、専用ソフトウェア「ハードディスクデータ消去」が添付されています。「ハードディスクデータ消去」は、WindowsなどのOSによるファイル削除や初期化と違い、ハードディスクの全領域について、元あったデータに固定パターンを上書きするため、データが復元されにくくなります。

ただし、「ハードディスクデータ消去」で消去した場合でも、特殊な設備や特殊なソフトウェアの使用によりデータを復元される可能性はゼロではありませんので、あらかじめご了承ください。

「ハードディスクデータ消去」の使い方については、「ソフトウェア」－「ソフトウェア一覧」（→P.132）をご覧ください。

ハードディスクのデータ消去サービスについて

弊社では、法人・企業のお客様向けに、専門スタッフがお客様のもとへお伺いし、短時間でデータを消去する、「データ消去サービス」をご用意しております。

消去方法は、専用ソフトウェアによる「ソフト消去」と、消磁装置による「ハード消去」があります。

ソフト消去	専用ソフトウェアを使って、ハードディスクに対して 2 回上書き（ランダムデータ + 0 データ）する事により残存するデータを完全に消去します。DoD や NSA など海外の各種消去規格にも対応可能です。
ハード消去	消磁装置を使用してハードディスクを磁気的に破壊します。（最大磁力：13000 ガウス）

消去証明として富士通が消去証明書を発行し、消去済ナンバリングシールを対象ディスクに貼付して、納品物とします。

詳しくは、「データ消去サービス」(http://segroupt.fujitsu.com/fs/services/h_elimination/) をご覧ください。

お問い合わせ／お申し込み先メールアドレス：fbprj@support.fujitsu.com

5

第5章 ソフトウェア

ソフトウェアについて説明しています。

1 ソフトウェア一覧	132
------------------	-----

1 ソフトウェア一覧

- 一部のソフトウェアの使用方法については、ヘルプまたは「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。
 - 添付されているソフトウェアは「リカバリ & ユーティリティディスク / アプリケーションディスク 1」、「アプリケーションディスク 2」に格納されています。
- ◎：プレインストールされています。
- △：添付の「リカバリ&ユーティリティディスク／アプリケーションディスク 1」からインストールしてください。
- ▲：専用のディスクが添付されています。
- ：ハードディスクにあらかじめ導入されており、デスクトップのアイコンからの初回起動時に自動的にセットアップします。

名称		「Office Personal 2003」 あり	「Office Personal 2003」 なし
Norton Internet Security	… → P.134	■	■
ウイルスバスター	… → P.135	■	■
Adobe Reader	… → P.136	◎	◎
FMV ユーザー登録	… → P.137	◎	◎
FM かんたんインストール	… → P.137	△	△
FM かんたんバックアップ	… → P.138	◎	◎
FMV 診断	… → P.138	◎	◎
IndicatorUtility	… → P.138	◎	◎
MotionDV STUDIO	… → P.139	◎	△
MyMedia	… → P.140	◎	◎
OmniPass	… → P.141	◎	◎
Plugfree NETWORK	… → P.141	◎	△
PowerUtility- スケジュール機能	… → P.142	◎	△
PowerUtility- リモート管理機能	… → P.142	◎	△
Roxio Easy Media Creator	… → P.143	◎	◎
Shock Sensor Utility	… → P.143	◎	◎
WinDVD	… → P.144	◎	◎
Virtual CD	… → P.145	◎	△
アップデートナビ	… → P.145	◎	◎
省電力ユーティリティ	… → P.145	◎	◎
静音ユーティリティ	… → P.146	◎	◎
ハードディスクデータ消去	… → P.146	△	△
マイリカバリ	… → P.148	◎	◎
ワンタッチボタン設定	… → P.148	◎	◎
プロアトラス SV2 for FMV	… → P.149	▲	—
乗換案内 時刻表対応版	… → P.149	△	△
ATLUS 翻訳パーソナル 2006 LE	… → P.150	△	△
Office Personal 2003	… → P.152	◎ (▲)	—

※ 重要

ポータブル CD/DVD ドライブを選択した方へ

ポータブル CD/DVD ドライブの箱に入っている CD はお使いになられません。本パソコンにインストール済みのソフトウェアを使用するか、本パソコンに添付されているアプリケーションディスクをお使いください。

ドッキングステーションを選択した場合

名称		HDD 容量 60GB 以上	HDD 容量 30GB
DVDfunSTUDIO	… → P.151	▲※	—
DVD-MovieAlbum SE	… → P.152	▲※	—

※ :「アプリケーションディスク 2」からインストールしてください。

各ソフトウェアの紹介

POINT

- ・インストールには CD/DVD ドライブが必要です。
- ・「Windows が実行する動作を選んでください」と表示されたら、「キャンセル」をクリックしてください。

Norton Internet Security

■概要

パソコンをコンピュータウイルスから守るためのソフトウェアです。



■使い方

「Norton Internet Security」の画面で、「ヘルプとサポート」→「Norton Internet Security ヘルプ」の順にクリックします。

Norton Internet Security の初期設定方法については、「セキュリティ」－「このパソコンに用意されているセキュリティ対策ソフト」(→ P.120) をご覧ください。

ウイルスバスター

■概要

パソコンをコンピュータウイルスから守るためのソフトウェアです。



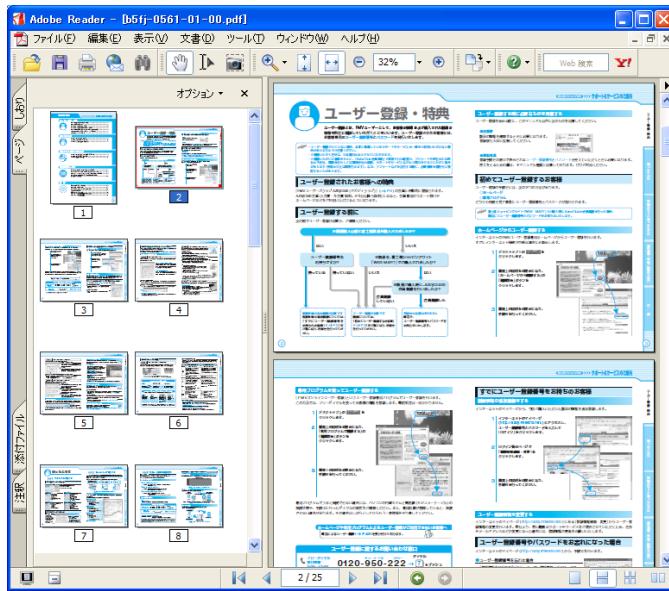
■使い方

「ウイルスバスター」の画面で、「この画面の説明」や「困ったときは」をクリックします。ウイルスバスターの初期設定方法については、「セキュリティ」—「このパソコンに用意されているセキュリティ対策ソフト」(→P.120)をご覧ください。

Adobe Reader

■ 概要

PDF (Portable Document Format) ファイルを表示、閲覧、印刷できます。



■ 使い方

「Adobe Reader」の画面で、「ヘルプ」メニュー→「Adobe Reader ヘルプ」の順にクリックします。

FMV ユーザー登録

■ 概要

FMV シリーズのパソコンのユーザー登録を行うソフトウェアです。



■ 使い方

ユーザー登録については、添付の冊子『サポート & サービスのご案内』をご覧ください。

FM かんたんインストール

■ 概要

添付の「リカバリ & ユーティリティディスク / アプリケーションディスク 1」に収録されているソフトウェアをパソコンにインストールしたり、パソコンから削除（アンインストール）したりできます。

必要なソフトウェアをクリックするだけで、簡単にインストールできます。

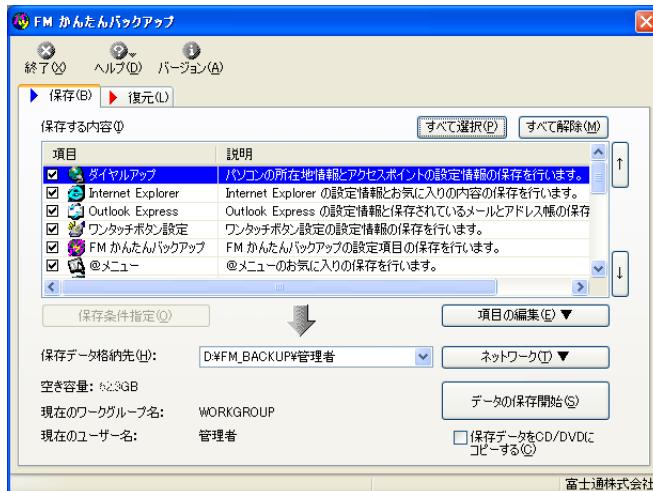
■ 使い方

「FM かんたんインストール」の画面で、「ヘルプ」をクリックします。

FM かんたんバックアップ

■概要

いざというときに備えて、大切なデータやインターネットに関する設定をバックアップ（保存）するためのソフトウェアです。バックアップをとってあれば、データやインターネットに関する設定を、簡単に元に戻すことができます。



■使い方

「FM かんたんバックアップ」の画面で、「ヘルプ」をクリックします。

FMV 診断

■概要

ハードウェアの故障箇所を的確に診断します。

■使い方

「トラブルシューティング」－「トラブル発生時の基本操作」－「診断／修正プログラムを使用する」－「FMV 診断」（→ P.188）をご覧ください。

IndicatorUtility

■概要

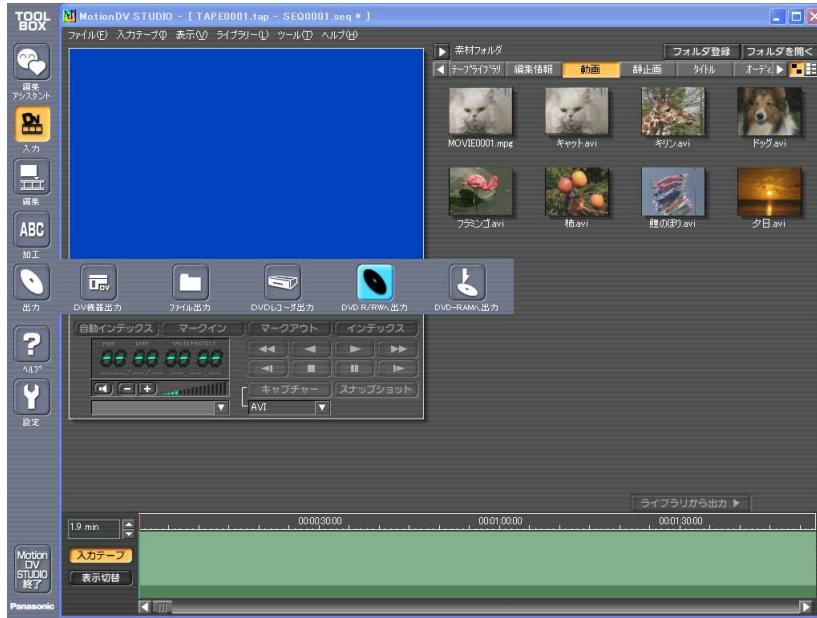
音声ボリューム、内蔵ポインティングデバイスの状態変更が行われた場合に、パソコンの画面上にインジケータを表示するユーティリティです。

この機能を利用すると、携帯時に画面の明るさを自動的に暗くすることにより、バッテリ節約に役立することができます。

MotionDV STUDIO

■ 概要

不要な場面を削除したり、タイトルやBGMを追加したりといった動画編集が簡単にできるソフトウェアです。パソコンとデジタルビデオ機器を接続して、映像をパソコンに取り込んで、編集することができます。



5

■ 使い方

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Panasonic」→「MotionDV STUDIO5.9J for FUJITSU」→「MotionDV STUDIO」の順にクリックして起動します。

使い方は、「MotionDV STUDIO」の画面で、「ヘルプ」メニュー→「ヘルプ」の順にクリックしてご覧ください。

MyMedia

■概要

このパソコンに保存した写真やビデオを見たり、音楽 CD や DVD-VIDEO の再生をしたりできるソフトウェアです。

ネットワーク上のパソコンに「MyMedia」がインストールされていれば、自分のパソコンの音楽、画像、動画のファイルを、ネットワーク上のパソコンに公開し、見てもらうことができます。



■使い方

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「MyMedia」→「MyMedia」の順にクリックして起動します。

使い方は、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「MyMedia」→「MyMedia マニュアル」の順にクリックしてご覧ください。

OmniPass

■概要

指紋認証を使うための設定を行います。新たなユーザーを登録したり、指紋認証でユーザーを切替えたり、ホームページのログオンに必要なID、パスワードなどを入力したりできます。



■使い方

操作方法については『取扱説明書』をご覧ください。

Plugfree NETWORK

■概要

通信環境判別／切り替えソフトウェアです。



■使い方

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Pulgfree NETWORK」→「Pulgfree NETWORK」の順にクリックして起動します。

使い方は、「Plugfree NETWORK」の画面で、「ヘルプ」をクリックしてご覧ください。

PowerUtility - スケジュール機能

■概要

タイマーでパソコンの電源のオフやソフトウェアの起動をするためのソフトウェアです。



■使い方

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「PowerUtility」→「スケジュール」→「PowerUtility- スケジュール機能」の順にクリックして起動します。

使い方は、「PowerUtility - スケジュール機能」の画面で、「ヘルプ」をクリックしてご覧ください。

PowerUtility - リモート管理機能

■概要

ネットワークでつながった別のパソコンをリモート管理するためのソフトウェアです。



■使い方

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「PowerUtility」→「リモート」→「PowerUtility- リモート管理機能」の順にクリックして起動します。

使い方は、「PowerUtility - リモート管理機能」の画面で、「ヘルプ」をクリックしてご覧ください。

Roxio Easy Media Creator

音楽 CD やデータ CD、DVD を簡単に作成できるソフトウェアです。



■使い方

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Roxio」→「Easy Media Creator」の順にクリックして起動します。

使い方は、「Easy Media Creator」の画面で、「ヘルプ」メニュー→「ヘルプ」の順にクリックしてご覧ください。

Shock Sensor Utility

HDD プロテクションの設定を変更するためのソフトウェアです。

■使い方

「機能」→「HDD プロテクション」(→ P.112) をご覧ください。

WinDVD

■ 概要

映画や音楽などのDVDを再生するソフトウェアです。パソコンで映画や音楽を楽しめます。



■ □使い方

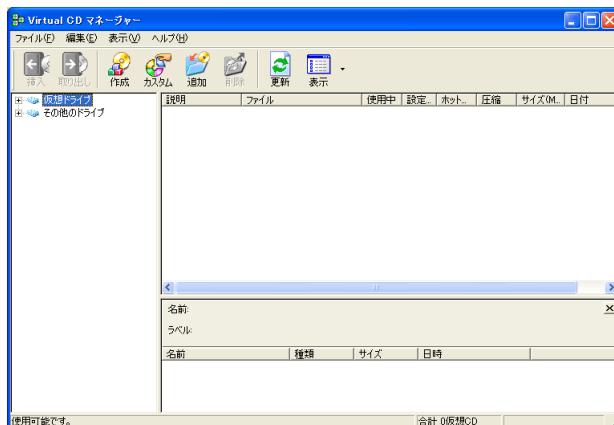
「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「InterVideo WinDVD」の順にクリックして起動します。

使い方は、「WinDVD」の画面で、「ヘルプ」をクリックしてご覧ください。

Virtual CD

■概要

CD/DVDのデータをハードディスクに圧縮して格納するソフトウェアです。本物のCD/DVDドライブから起動するように扱えます。



■使い方

「Virtual CD マネージャー」の画面で、「ヘルプ」メニュー→「目次」の順にクリックします。

アップデートナビ

5

■概要

インターネットを経由して、富士通が推奨する最新情報を確認し、お使いのパソコンが安定して動作するお勧めの状態にすることができます。画面に表示されるメッセージに従って操作すると、簡単にアップデート（更新）できます。

「アップデートナビ」が起動しているときは、画面右下の通知領域に  (アップデートナビ) が表示されます。

■使い方

「セキュリティ」－「ネットワーク接続時のセキュリティ」－「Windows やソフトウェアのアップデート」（→ P.124）をご覧ください。

省電力ユーティリティ

■概要

お使いの状況に合わせて、省電力モードの設定を変更することができるソフトウェアです。

■使い方

「機能」－「省電力モードの設定」（→ P.110）をご覧ください。

静音ユーティリティ

■概要

CPU のパフォーマンスを抑えて空冷用 FAN が回転し始めるまでの時間を調整することができるソフトウェアです。

■使い方

「機能」 – 「静音ユーティリティ」 (→ P.115) をご覧ください。

ハードディスクデータ消去

■概要

ハードディスク内のデータを消去します。詳しくは「セキュリティ」 – 「パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意」 (→ P.129) をご覧ください。

■注意事項

- ・本ツールでは、本パソコンに内蔵されているハードディスクのみを対象としています。このため、外付けのハードディスクのデータを消去することはできません。
- ・1回の操作でデータを消去できるハードディスクは1つです。複数のハードディスクを消去する場合は、システムを再起動してからハードディスクデータ消去を実行する必要があります。
- ・「リカバリディスク」を起動してから24時間経つと、本パソコンが自動的に再起動されます。そのため、「リカバリディスク」を起動してから長時間放置した場合は、再起動してからハードディスクデータ消去を実行してください。
- ・必要なデータはバックアップしてください。
- ・「ハードディスクデータ消去」を実行する場合は、ACアダプタを接続してください。
- ・周辺機器を取り付けている場合は、それらを一度取り外し、ご購入時の状態に戻してください。
- ・データ消去終了まで、数時間かかります。
- ・データ消去中に電源を切らないでください。ハードディスクが故障する可能性があります。
- ・データ消去中にリカバリディスクを取り出さないでください。処理が継続できなくなる場合があります。

■データ消去法

次のものを用意してください。

- ・リカバリ&ユーティリティディスク&アプリケーションディスク1

- 1** リカバリ&ユーティリティディスク&アプリケーションディスク1をセットします。
- 2** 本パソコンを再起動します。
- 3** 「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【Enter】キーを押します。
ポップアップメニューが表示されます。

- 4** 【↓】キーまたは【↑】キーを押し、「起動メニュー」を選択し、【Enter】キーを押します。

メニューが表示されます。

POINT

- メニューが表示されない場合は、【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押して本パソコンを再起動してください。

- 5** CD-ROM ドライブを選択し、【Enter】キーを押します。

「使用許諾」ウィンドウが表示されます。

- 6** 「使用許諾」をよく読み、「同意します」をクリックします。

「リカバリメニュー」ウィンドウが表示されます。

- 7** 「メニュー」から「ハードディスクデータ消去」を選択し、「実行」をクリックします。

「ハードディスクデータ消去」ウィンドウが表示されます。

- 8** 注意事項をよく読み、「同意します」をクリックし、「次へ」をクリックします。

「データを消去するハードディスクを1台選択してください。」と表示されます。

- 9** データを消去するハードディスクにチェックを付け、「次へ」をクリックします。

「データを消去する方式を選択してください。」と表示されます。

- 10** 消去する方法を選択し、「次へ」をクリックします。

「以下の説明をお読みになり、エラー発生時の処理を選択してください。」と表示されます。

- 11** エラー発生時の処理方法を選択し、「次へ」をクリックします。

「以下の条件で、データの消去を開始します。よろしいですか？」と表示されます。

- 12** 「開始」をクリックします。

「ハードディスクデータ消去を実行します。よろしいですか？」と表示されます。

- 13** 「OK」をクリックします。

しばらくすると、「電源ボタンを4秒以上押して、電源を切ってください。」と表示されます。

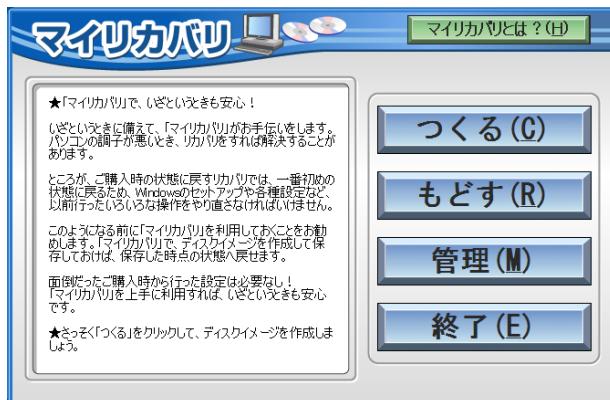
- 14** 電源ボタンを4秒以上押して、電源を切ります。

マイリカバリ

■概要

現在の C ドライブのディスクイメージを保存できます。

Windows などのシステムが不安定になった場合でも、今まで使っていた設定や環境にすぐに復元することができます。



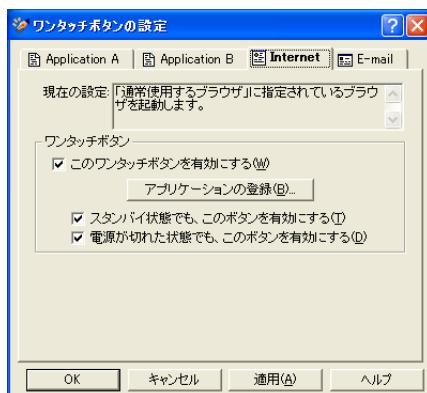
■使い方

操作方法については『取扱説明書』をご覧ください。

ワンタッチボタン設定

■概要

ワンタッチボタンを押してソフトウェアを起動させるためのユーティリティです。



■使い方

「スタート」ボタン → 「すべてのプログラム」 → 「ワンタッチボタン」 → 「1. ワンタッチボタンの設定」の順にクリックして起動します。

使い方は、「ワンタッチボタンの設定」の画面で「ヘルプ」をクリックしてご覧ください。

プロアトラス SV2 for FMV

■概要

地図の閲覧ができる電子地図です。住所、郵便番号、施設名などからの目的地の検索や、高速道路の料金の計算なども可能です。



■使い方

「プロアトラス SV2 for FUJITSU」の画面で、「ヘルプ」をクリックします。

乗換案内 時刻表対応版

■概要

出発地から目的地までの経路・運賃・時間を調べるソフトウェアです。日本全国の鉄道（JR、私鉄、地下鉄）や飛行機、都営バス、高速バス、空港連絡バスの時刻表を搭載しています。



■使い方

「乗換案内 時刻表対応版」の画面で、「ヘルプ」メニュー→「目次」をクリックします。

ATLUS 翻訳パーソナル 2006 LE

■概要

「Internet Explorer」と連携して、英語のホームページを日本語に翻訳して表示するソフトウェアです。日本語を英語に翻訳することもできます。また、「Outlook 2003」、「Outlook Express」などのメールソフトで受信したメールを手軽に翻訳できるメール翻訳、ヘルプや Web ページの一部などを翻訳できるクリップボード翻訳などもできます。



■使い方

「Internet Explorer」の画面で、「ATLAS ツールバー」の「ATLAS」→「ヘルプ」の順にクリックします。

POINT

- DVDfunSTUDIO は、カスタムメイドにおいて、HDD 容量が 60GB 以上でドッキングステーションを選択した場合に用意されています。
添付の「アプリケーションディスク 2」に格納されていますので、インストールしてお使いください。

■概要

ビデオカメラで撮影した素材や、テレビの録画などを基に、簡単にオリジナルの DVD-VIDEO を作成するソフトウェアです。DVD プレーヤーで再生したときのイメージを、パソコン上で確認することもできます。



■使い方

「DVDfunSTUDIO」の画面で、「ヘルプ」をクリックします。

DVD-MovieAlbum SE

POINT

- ・DVD-MovieAlbum SE は、カスタムメイドにおいて、HDD 容量が 60GB 以上でドッキングステーションを選択した場合に用意されています。
添付の「アプリケーションディスク 2」に格納されていますので、インストールしてお使いください。

■概要

DVD ビデオレコーダーで記録した画像を再生・編集したり、編集画像を DVD-RAM に記録することができる DVD-RAM ドライブ用ソフトウェアです。



■使い方

「DVD-MovieAlbumSE」の画面で、「ヘルプ」→「DVD-MovieAlbum のマニュアル」の順にクリックします。

Office Personal 2003

■概要

- ・Word 2003
文字の入力から編集、印刷、保存まで、簡単な操作で文書を作成できる日本語ワープロです。
- ・Excel 2003
ワークシートと呼ばれる集計用紙にデータを入力して表を作成し、集計、並べ替えなどを行うソフトウェアです。入力したデータを利用してグラフを作成することもできます。
- ・Outlook 2003
メールの送受信の他、予定表や連絡先、仕事など個人の情報をまとめて管理するソフトウェアです。

■使い方

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Microsoft Office」の順にクリックしていくと、表示されるそれぞれのソフトウェア名をクリックして起動します。
使い方は、それぞれの画面で、「ヘルプ」メニューからヘルプをクリックしてご覧ください。

アンインストール方法

注意事項

ソフトウェアをアンインストールする場合は、次の点に注意してください。

- ・ソフトウェアをすべて終了してからアンインストールを始める
- ・DLL ファイルは削除しない

アンインストール時に次のようなメッセージが表示されることがあります。

「この DLL は複数のソフトウェアで使用されている可能性があります。削除を行いますか」

この DLL ファイルを削除すると、他のソフトウェアが正常に動作しなくなることがあります。ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルで、特に指示がない場合は DLL ファイルは削除しないことをお勧めします。

アンインストール方法

一般的に、次の方法があります。

- ・アンインストール機能を使用する
- ソフトウェアにアンインストール機能が用意されている場合があります。
- ・「プログラムの追加と削除」機能を使用する
- 「コントロールパネル」ウィンドウの「プログラムの追加と削除」機能を使用して、ソフトウェアを削除できます。

アンインストール方法はソフトウェアによって異なります。詳細は各ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。

Memo

6

第6章 **BIOS**

BIOS セットアップというプログラムについて説明しています。
また、本パソコンのデータを守るためにパスワードを設定する
方法についても説明しています。

1 BIOS セットアップとは	156
2 BIOS セットアップの操作のしかた	157
3 メニュー詳細	162
4 BIOS のパスワード機能を使う	169
5 BIOS が表示するメッセージ一覧	174

1 BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、本パソコンの環境を設定するためのプログラムです。本パソコンご購入時は、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。通常の使用状態では、BIOS セットアップで環境を設定（変更）する必要はありません。

BIOS セットアップの設定は、次の場合などに行います。

- ・特定の人だけが本パソコンを使用できるように、パスワード（暗証番号）を設定するとき
- ・起動時の自己診断（POST）で BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されたとき

重要

- ・BIOS セットアップの設定項目の詳細については、BIOS セットアップ画面（→ P.158）の「項目ヘルプ」をご覧ください。

POINT

- ・BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM と呼ばれるメモリに記憶されます。この CMOS RAM は、バックアップ用バッテリによって記憶した内容を保存しています。BIOS セットアップを正しく設定しても、パソコン本体の起動時に「システム CMOS のチェックサムが正しくありません。標準設定値が設定されました。」というメッセージが表示される場合は、バックアップ用バッテリが消耗して、CMOS RAM に設定内容が保存されていないことが考えられますので、「富士通パーソナルエコーセンター」にご連絡ください。
- ・起動時の自己診断中は不用意に電源を切らないでください。
本パソコンは、自己診断中の異常終了の回数を数えており、3 回続いた場合は 4 回目の起動時に「前回の起動が正常に完了しませんでした。」というメッセージを表示します。
- ・起動時の自己診断（POST）
本パソコンの電源を入れたときや再起動したときに、ハードウェアの動作に異常がないかどうか、どのような周辺機器が接続されているかなどを自動的に調べます。これを「起動時の自己診断」（POST: Power On Self Test）といいます。

2 BIOS セットアップの操作のしかた

BIOS セットアップを起動する

BIOS セットアップでは、すべての操作をキーボードで行います。

- 1 作業を終了してデータを保存します。
- 2 状態表示 LED のハードディスク／CD アクセスランプが点灯していないことを確認し、本パソコンを再起動します。
- 3 「FUJITSU」ロゴが表示され、画面の下に「マウスをクリックするか、<Enter>を押してください。」と表示されたらすぐに、【Enter】キーを押します。

ポップアップメニューが表示されます。



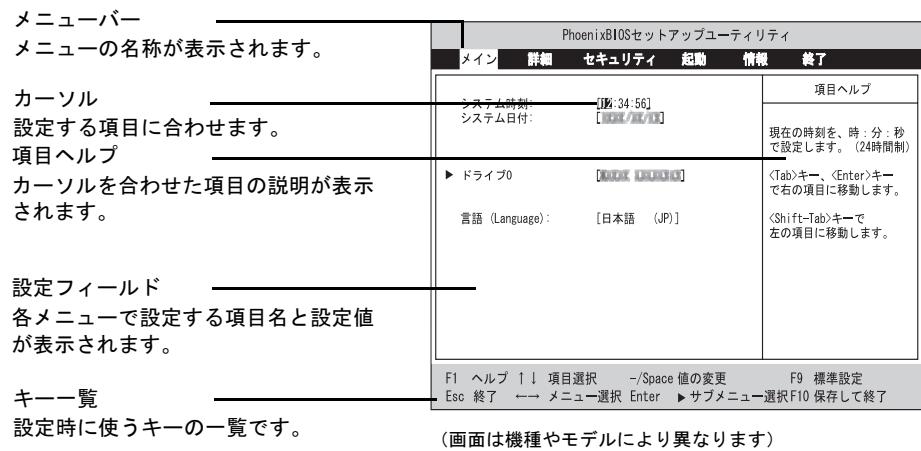
POINT

- BIOS セットアップの画面ではなく Windows が起動してしまった場合は、起動が完了するのを待って、もう一度手順 2 からやり直してください。

4 【↓】キーまたは【↑】キーを押して「BIOS セットアップ」を選択し、もう一度【Enter】キーを押します。

BIOS セットアップの操作のしかたが表示されます。

BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。



POINT

- 手順4で「起動メニュー」を選択すると、「起動メニュー」が表示され、起動するドライブを選択することができます。



- 手順4で「診断プログラム」を選択すると、「診断プログラム」が起動します。お問い合わせのときに、担当者の指示に従ってご使用ください。

設定を変更する

ここでは一般的な操作方法を説明します。

1 【←】キーまたは【→】キーでカーソルを移動し、設定したいメニューを選びます。

選択したメニュー画面が表示されます。

2 【↓】キーまたは【↑】キーでカーソルを移動し、設定したい項目を選びます。

3 【Space】キーまたは【-】キーを押して、選択している項目の設定値を変更します。

続けて他の設定項目を変更する場合は、手順1～3を繰り返してください。

4 設定を保存して終了します。

終了の手順については、「BIOS セットアップを終了する」(→ P.161) をご覧ください。

※ 重要

BIOS セットアップは正確に設定してください。

設定を間違えると、本パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなることがあります。

このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻して本パソコンを起動し直してください。

POINT

- ・設定内容を変更前の値に戻す方法は、「終了メニュー」(→ P.167) をご覧ください。
- ・設定内容をご購入時の設定値に戻す方法は、「ご購入時の設定に戻す」(→ 『取扱説明書』)をご覧ください。
- ・項目名に「▶」が付いている項目にはサブメニューがあります。
項目名にカーソルを移動して【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。元のメニュー画面に戻るときは【Esc】キーを押します。

各キーの役割

設定時に使用するキーの役割は、次のとおりです。

キー	役割
【↑】キー、【↓】キー	設定する項目にカーソルを移動します。
【←】キー、【→】キー	メニューを切り替えます。
【Pg Up】キー、 【Pg Dn】キー	【Fn】キーと一緒に押すことで、メニュー画面が複数ページにわたる場合は、前ページ、または次ページに移動します。
【Home】キー、【End】キー	【Fn】キーと一緒に押すことで、メニュー画面の最初の項目、または最後の項目にカーソルを移動します。
【Enter】キー	▶印が付いた項目のサブメニュー画面を表示します。また、「終了」メニューなどでは、各項目の処理を行います。 設定する項目で押すと、設定値が一覧で表示されます。
【F1】キー	一般ヘルプ画面を表示します。同じキーを再度押すか、【Esc】キーを押せば閉じます。
【Alt】+【H】キー	
【F5】キー	各項目の設定を1つ前の設定値に変更します。
【-】キー	
【F6】キー	各項目の設定を次の設定値に変更します。
【Space】キー	
【F9】キー	標準設定値を読み込みます。
【F10】キー	現在の設定値を保存して、BIOSセットアップを終了します。
【Esc】キー	「終了」メニューを表示します。また、サブメニュー画面でこれらのキーを押すと、1つ上のメニュー画面に戻ります。
【Alt】+【X】キー	

POINT

- ここでいう【-】キーは^{〔二〕}のことです。

BIOS セットアップを終了する

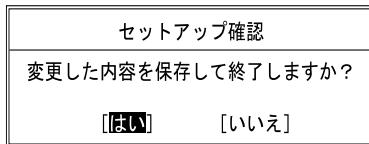
変更した設定を有効にするためには、設定内容を CMOS RAM に保存しておく必要があります。以下の操作を行い、設定内容を保存してから BIOS セットアップを終了してください。

1 【Esc】キーを押します。

「終了」メニューが表示されます。

2 【↑】キーまたは【↓】キーを押して「変更を保存して終了する」を選択し、【Enter】キーを押します。

次のメッセージが表示されます。



3 【←】キーまたは【→】キーで「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。

すべての設定値が保存された後、BIOS セットアップが終了し、本パソコンが再起動します。

POINT

- ・サブメニューを表示している場合は、「終了」メニューが表示されるまで、【Esc】キーを 2 ~ 3 回押してください。
- ・設定を変更しないで終了する場合は、「終了」メニューで「変更を保存せずに終了する」を選択して終了してください (→ P.167)。
- ・いったん設定内容を保存したあと、続けて他の項目を設定する場合は、「終了」メニューで「変更を保存する」を選択してください (→ P.167)。
 1. 「終了」メニューの「変更を保存する」を選択し、【Enter】キーを押します。
「変更した内容を保存しますか？」というメッセージが表示されます。
 2. 【←】キーまたは【→】キーで「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。

3 メニュー詳細

重要

- ・ BIOS セットアップの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

メインメニュー

「メイン」メニューでは、日時の設定と、ドライブやメモリの機能などの設定を行います。

■システム時刻

■システム日付

■ドライブ 0

POINT

- ・「終了」メニューの「標準設定値を読み込む」(→ P.167) を実行した直後は、「ドライブ 0」の項目の自動設定が行われていません。BIOS セットアップを再起動すると、各項目が自動設定されます。

- ・タイプ

POINT

- ・通常は「自動」に設定してください。

- LBA フォーマット
- ・合計セクタ
- ・最大容量
- ・マルチセクタ転送
- ・LBA モード制御
- ・転送モード
- ・Ultra DMA モード

POINT

- ・「シリンド数」、「ヘッド数」、「セクタ数」は、「タイプ」が「自動」で、8.4GB 以下のハードディスクと認識されている場合のみ表示されます。
- ・「合計セクタ」、「最大容量」は、「タイプ」が「自動」で、ハードディスクと認識されている場合のみ表示されます。
- ・「タイプ」以外の項目は、表示のみで設定できません。

■言語 (Language)

POINT

- ・設定と同時に画面表示が切り替わり、次に設定を変更するまで同じ言語で表示されます。

詳細メニュー

「詳細」メニューでは、周辺機器の設定などを行います。

■キーボード／マウス設定

- ・起動時の Numlock 設定

■ディスプレイ設定

POINT

- ・本パソコンの起動後は、キーボード操作や「画面のプロパティ」ウィンドウで画面表示を切り替えることができます。詳しくは、「機能」－「表示装置の切り替え」(→ P.85) をご覧ください。

- ・ディスプレイ
- ・全体表示

■その他の内蔵デバイス設定

- ・IDE コントローラ
- ・Bluetooth(R)
- ・内蔵 LAN デバイス
- ・無線 LAN デバイス

POINT

- ・お使いのモデルにより、「無線 LAN デバイス」、「Bluetooth(R)」は表示されません。

■CPU 設定

- ・SpeedStep (R) テクノロジ
 - バッテリ運用時
 - AC 運用時
- ・XD ビット機能
- ・Virtualization Technology

■USB 設定

- ・レガシー USB サポート
 - SCSI サブクラスサポート

POINT

- ・「SCSI サブクラスサポート」を使用して、パソコンが起動しなくなった場合は、USB デバイスを取り外して再起動してください。

■各種設定

- ・電源ボタン
- ・LAN によるウェイクアップ
 - 強制 LAN ブート
- ・音量設定
- ・UMA ビデオメモリサイズ
- ・ハードウェア省電力機能
- ・FAN/CPU コントロール

■イベントログ設定

- ・イベントログ領域の状態
- ・イベントログ内容の状態
- ・イベントログの表示

POINT

- ・イベントログメッセージで、「POST エラー : nnnnnnnnnn nnnnnnnnn」というメッセージが表示された場合は、「富士通パーソナルエコーセンター」にご連絡ください。それ以外のメッセージは、本パソコンの使用には特に問題のないメッセージです。
- ・イベントログ
 - システム起動
- ・イベントログの消去
- ・イベントログのマーク

セキュリティメニュー

「セキュリティ」メニューでは、本パソコンを特定の人だけが使用できるよう設定を行います。

■管理者用パスワード

■ユーザー用パスワード

■管理者用パスワード設定

POINT

- ・次の項目は、管理者用パスワードが設定されている場合に設定できます。
 - ・ユーザー用パスワード設定
 - ・ユーザー用パスワード文字数
 - ・起動時のパスワード
 - 自動ウェイクアップ時
 - ・リジューム時のキーボードロック
 - ・取外し可能なディスクからの起動
 - ・BIOS フラッシュメモリへの書き込み
 - ・ハードディスクセキュリティ
 - ・所有者情報

■ユーザー用パスワード設定

POINT

- 管理者用パスワードとユーザー用パスワードの両方が設定されている状態で、ユーザー用パスワードで BIOS セットアップに入ると、設定値がグレーで表示される項目があります。グレー表示される項目は、ユーザー用パスワードでは変更できません。

■ユーザー用パスワード文字数

POINT

- 本項目はユーザー用パスワードで BIOS セットアップに入った場合のみ有効です。管理者用のパスワードで BIOS セットアップに入った場合は、最低文字数より少ない文字をユーザー用パスワードとして設定することができます。

■起動時のパスワード

- 自動ウェイクアップ時

■レジューム時のキーボードロック

POINT

- USB 規格の周辺機器は「レジューム時のキーボードロック」によるセキュリティの対象外になります。そのため、USB マウスなどの USB 機器はパスワードを入力しなくても使用できます。

■取外し可能なディスクからの起動

■BIOS フラッシュメモリへの書き込み

■ハードディスクセキュリティ

重要

- 本パソコンでセキュリティを設定したハードディスクは、他のパソコンに接続しても使用できません。他のパソコンに接続して使用する場合は、本パソコンで設定したハードディスクセキュリティのパスワードの設定が必要になります。

- ドライブ 0 用パスワード
- ドライブ 0 用パスワード設定
- 起動時のパスワード入力

POINT

- ハードディスクパスワード設定後、パスワード入力を求めるウィンドウを表示させたくない場合には、「使用しない」に設定してください。

■所有者情報

POINT

- 管理者用パスワードが設定されていない場合は、「所有者情報」の各項目は表示されますが、選択できません。

- 所有者情報
- 所有者情報設定
- 文字色
- 背景色

起動メニュー

「起動」メニューでは、本パソコンの起動時の動作についての設定を行います。

■高速起動

■起動時の自己診断画面

■起動メニュー

POINT

- 管理者用パスワードが設定されている場合に設定できます。

■ネットワークサーバからの起動

■起動デバイスの優先順位

・起動デバイスリスト

- 1 : Floppy Disk Drive
- 2 : Drive0 : nnnnn
- 3 : CD/DVD Drive
- 4 : NETWORK : nnnnn
- 5 :
- 6 :
- 7 :
- 8 :

・除外された起動デバイス

- : USB MEMORY : None
- : USB HDD : None

POINT

- 起動デバイスリスト内の nnnnn には、お使いのデバイス名が表示されます。
- 利用可能な起動デバイスが、起動時の検索順序の高い順に表示されます。検索順序を変更したり、起動デバイスリストから除外したりすることができます。また、除外された起動デバイスを起動デバイスリストに戻すこともできます。
- 「1 : Floppy Disk Drive」はポータブルの FDD ユニット (USB) も含まれます。
- 「4 : CD/DVD Drive」はポータブル CD/DVD ドライブ (USB) も含まれます。

- ・「ネットワークサーバからの起動」が「使用する」に設定されている場合、「5: NETWORK: nnnnn」と表示され起動デバイスとして検索されます。「使用しない」に設定されている場合は、「5: NETWORK: None」と表示され検索の対象外になります。
- ・CD から起動するには起動可能な OS の入った CD が必要となります。再起動前に CD をセットしてください。

情報メニュー

「情報」メニューには、BIOS セットアップやパソコン本体についての情報が表示されます。設定を変更することはできません。

■ BIOS 版数

■ BIOS 日付

■ BIOS 領域

■ CPU タイプ

■ CPU 速度

■ L1 キャッシュ

■ L2 キャッシュ

■ 全メモリ容量

- ・標準メモリ

終了メニュー

「終了」メニューでは、設定値の保存や読み込み、BIOS セットアップの終了などを行います。

■ 変更を保存して終了する

設定した内容を CMOS RAM に保存して BIOS セットアップを終了します。

■ 変更を保存せずに終了する

設定した内容を CMOS RAM に保存しないで BIOS セットアップを終了します。

■ 標準設定値を読み込む

すべての項目を標準設定値にします。

■ 変更前の値を読み込む

すべての項目について、CMOS RAM から変更前の値を読み込み、変更を取り消します。

■ 変更を保存する

変更した内容を CMOS RAM に保存します。

■変更を保存して電源を切る

変更した内容を CMOS RAM に保存して電源を切ります。

4 BIOS のパスワード機能を使う

ここでは、本パソコンのデータを守るためにパスワード機能について説明します。

本パソコンは、他人による不正使用を防止するために、パスワードを設定することができます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外は本パソコンを使用できなくなります。

パスワードの種類

設定できるパスワードは次のとおりです。

- 管理者用パスワード

本パソコンをご購入になった方などが使用するパスワードです。パスワード機能を使用するときは必ず設定してください。

- ユーザー用パスワード

「管理者」以外で本パソコンをお使いになる方が使用するパスワードです。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。

- ハードディスク用パスワード

本パソコンのハードディスクを他のユーザー や他のパソコンで使用できないようにするためのパスワードです。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。

パスワードを設定する

パスワードの設定は、BIOS セットアップで行います。パスワードの設定方法は、次のとおりです。

管理者用パスワード／ユーザー用パスワードを設定する

1 BIOS セットアップを起動します。

起動の手順については、「BIOS セットアップを起動する」(→ P.157) をご覧ください。

2 「セキュリティ」メニューで「管理者用パスワード設定」(→ P.164)、または「ユーザー用パスワード設定」(→ P.165) を選択して【Enter】キーを押します。

パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

3 8桁までのパスワードを入力します。

入力できる文字種はアルファベットと数字です。

入力した文字は表示されず、代わりに「■」が表示されます。

また、ユーザー用のパスワードの最低文字数は、「ユーザー用パスワード文字数」(→ P.165) で設定することができます。

4 パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。

「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。

5 手順3で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。

「セットアップ通知」と書かれたウィンドウが表示されます。

6 【Enter】キーを押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順3からやり直してください。

パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

ハードディスク用パスワードを設定する

1 BIOS セットアップを起動します。

起動の手順については、「BIOS セットアップを起動する」(→P.157)をご覧ください。

2 「セキュリティ」メニューで「ハードディスクセキュリティ」(→P.165)→「ドライブ0用パスワード設定」(→P.165)を選択して【Enter】キーを押します。

パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

3 8桁までのパスワードを入力します。

入力できる文字種はアルファベットと数字です。

入力した文字は表示されず、代わりに「■」が表示されます。

4 パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。

「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。

5 手順3で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。

「セットアップ通知」と書かれたウィンドウが表示されます。

6 【Enter】キーを押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順3からやり直してください。

パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

パスワードを設定した後は

パスワードを設定すると、設定状態によって次の場合にパスワードの入力が必要になります。

- ・ BIOS セットアップを起動するとき
- ・ パソコンを起動するとき
- ・ 休止状態から復帰するとき
- ・ スタンバイから復帰するとき

POINT

- ・ 管理者用パスワードまたはユーザー用パスワードとハードディスク用パスワードが異なる場合は、それぞれのパスワードの入力が必要になります。

BIOS セットアップやパソコンの起動時、休止状態からの復帰時のパスワード入力

パスワードの入力を求めるウィンドウが表示されたら、パスワードを入力し、【Enter】キーを押してください。

POINT

- ・ 誤ったパスワードを 3 回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードやマウスが一切反応しなくなるので、電源ボタンを 4 秒以上押して本パソコンの電源をいったん切ってください。その後、10 秒以上待ってからもう一度電源を入れて、正しいパスワードを入力してください。
- ・ 「PowerUtility- リモート管理機能」では、パソコンを指定時刻に自動的に起動させたり、LAN を使って起動させたりできます。BIOS セットアップの「セキュリティ」メニューにある「自動ウェイクアップ時」で、これらの機能を使って起動した場合にパスワードを入力するかどうかを設定することができます。

復帰時のパスワード入力

パスワードを入力する画面は表示されず、状態表示 LED の Caps Lock ランプと Num Lock ランプが交互に点滅します。この状態では、フラットポイントとパスワードを入力する以外のキーボード操作ができません。これらを使えるようにするには、本パソコンの起動時に入力したパスワードと同じパスワードを入力してください（【Enter】キーは不要です）。

ただし、USB マウスなどの USB 機器は、セキュリティの対象外になります。

POINT

- ・ 正しいパスワードを入力しない限り、キーボードやフラットポイントは使用できません。
- ・ Windows の「電源オプションのプロパティ」ウィンドウで、スタンバイや休止状態からの回復時にパスワードを入力するように設定した場合は、スタンバイから回復するときに引き続き Windows のパスワードの入力も必要です。

ハードディスク用パスワード

ハードディスク用パスワードを設定すると、パソコンを起動するときにハードディスク用パスワードの入力が必要になります。

POINT

- 誤ったパスワードを 3 回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードやマウスが一切反応しなくなるので、電源ボタンを 4 秒以上押して本パソコンの電源をいったん切ってください。その後、10 秒以上待ってからもう一度電源を入れて、正しいパスワードを入力してください。
- 「ハードディスクセキュリティ」(→ P.165) でパスワードを設定したハードディスクは、他のパソコンに接続しても使用できません。他のパソコンに接続して使用する場合は、本パソコンで設定したハードディスク用パスワードの設定が必要となります。パスワードを忘れるときのハードディスクは使用できなくなるので、ご注意ください。
- 設定状態によっては、管理者用またはユーザー用パスワードと、ハードディスク用パスワードの入力が必要になります。
ただし、管理者用またはユーザー用パスワードと、ハードディスク用パスワードが同じ場合は、パスワードの入力は 1 回になります。

パスワードを変更／削除する

重要

- Windows を再起動して BIOS セットアップを起動したときには、ハードディスク用パスワードを変更／削除できません。
ハードディスク用パスワードを変更／削除する場合は、「終了メニュー」の「変更を保存して電源を切る」(→ P.168) を実行してください。次回起動時にハードディスク用パスワードを変更／削除することができます。

パスワードを変更する

設定したパスワードを変更するときは、次の操作を行ってください。

1 BIOS セットアップを起動します。

起動の手順については、「BIOS セットアップを起動する」(→ P.157) をご覧ください。

2 「セキュリティ」メニュー (→ P.164) で設定したいパスワードを選択して **【Enter】** キーを押します。

- 管理者用パスワード設定
- ユーザー用パスワード設定
- ハードディスクセキュリティ→ドライブ 0 用パスワード設定

3 設定してあるパスワードを入力し、**【Enter】** キーを押します。

「新しいパスワードを入力して下さい。」にカーソルが移ります。

4 8桁までの新しく設定したいパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。

「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。

※重要

- 管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れると、パスワード機能が解除できなくなり、修理が必要となります。そのため、パスワードを設定したら、次のことを行ってください。
 - 解除する手順が書かれたこのページを印刷しておく
 - 設定したパスワードを忘れないよう、何かに書き留めておく
 - また、これらは安全な場所に保管しておいてください。
- 管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れてしまった場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元までご連絡ください。なお、保証期間にかかる修理は有償となります。
- ハードディスク用パスワードは、盗難などによる不正な使用を防止することを目的としています。これは強固なセキュリティであるため、もしもパスワードを忘れてしまうと、たとえ修理をしても、パスワードの解除や、ハードディスク内のプログラムやデータの復元ができず、これらのデータは完全に失われてしまいます。
- パスワードの管理には充分注意してください。

5 手順4で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。

「変更が保存されました。」というウィンドウが表示されます。

6 【Enter】キーを押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順4からやり直してください。

パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

6

POINT

- 誤ったパスワードを3回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードやマウスが一切反応しなくなるので、電源ボタンを4秒以上押して本パソコンの電源をいったん切ってください。その後、10秒以上待つてからもう一度電源を入れて、正しいパスワードを入力してください。

パスワードを削除する

設定したパスワードを削除するときは、「パスワードを変更する」の手順4～5で何も入力せずに、【Enter】キーを押してください。

POINT

- ユーザーがユーザー用パスワードを削除できるのは、ユーザー用パスワード文字数設定が0のときだけです。0以外のときは、パスワード文字数不足のメッセージが表示されます。

5 BIOS が表示するメッセージ一覧

メッセージが表示されたときは

エラーメッセージが表示された場合は、次の手順に従って処置をしてください。

1 BIOS セットアップを再実行します。

BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップの、各項目を正しい値に設定してください。

それでもメッセージが表示される場合には、BIOS セットアップの設定値をご購入時の設定に戻して起動し直してください (→『取扱説明書』)。

2 周辺機器を取り外します。

周辺機器を取り付けている場合には、すべての周辺機器を取り外し、パソコン本体をご購入時の状態にして動作を確認してください。

それでも同じメッセージが表示される場合には、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

3 取り外した周辺機器を、1つずつ取り付けます。

取り外した周辺機器を1つずつ取り付けて起動し直し、動作を確認してください。

また、割り込み番号 (IRQ) を使用する周辺機器を取り付けたときは、割り込み番号が正しく割り当てられるように、設定を確認してください。このとき、各周辺機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合にはそれらのマニュアルも、あわせてご覧ください。

上記の処理を実行しても、まだ同じメッセージが表示される場合は、本パソコンが故障している可能性があります。「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

メッセージ一覧

本パソコンは、自動的に故障を検出します。故障の検出は、通常自己診断（POST）（→ P.156）時に行われます。本パソコンが表示するメッセージの一覧は、次のとおりです。

POINT

- ・メッセージ中の「n」には数字が表示されます。

正常時のメッセージ

パソコン本体や周辺機器に問題がない正常時には、BIOS のメッセージは自動では表示されません。

正常時に BIOS のメッセージを表示させる場合は、パソコンを起動して「FUJITSU」ロゴが表示されている間に【Esc】キーを押します。

- ・Please Wait... お待ちください ...
BIOS セットアップの起動中に表示されます。
- ・nnnnM システムメモリテスト完了。
システムメモリのテストが、正常に完了したことを表示しています。
- ・nnnnK メモリキャッシュテスト完了。
キャッシュメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。
- ・マウスが初期化されました。
マウス機能が初期化され、フラットポイントが使えるようになったことを示しています。

POINT

- ・正常時のメッセージを常に表示させる場合は、「起動」メニューの「起動時の自己診断画面」（→ P.166）の項目を「使用する」に設定してください。

エラーメッセージ

・拡張メモリエラー。アドレス行 : nn

拡張メモリのテスト中に、アドレス nn でエラーが発見されたことを示しています。

メモリを増設しているときは、メモリが正しく取り付けられているか、または弊社純正品かを確認してください。

それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

・キーボードエラーです。

キーボードテストで、エラーが発生したことを示しています。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

・キーボード接続エラーです。

キーボードテストで、接続エラーが発生したことを示しています。

テンキーボードや外付けキーボードを接続しているときは、正しく接続されているかを確認し、もう一度電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

・ディスクのエラーです。: ハードディスク n

ハードディスクドライブの設定に誤りがあることを示しています。

BIOS セットアップを起動し、「メイン」メニューの「ドライブ n」の各項目が正しく設定されているか、確認してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

・システムタイマーのエラーです。

システムタイマーのテストで、エラーが発生したことを示しています。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

・リアルタイムクロックのエラーです。

リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

・システム CMOS のチェックサムが正しくありません。- 標準設定値が設定されました。

CMOS RAM のテストでエラーが発見されたため、いったん標準設定値が設定されたことを示しています。

【F2】キーを押して BIOS セットアップを起動し、標準設定値を読み込んだあと、設定を保存して起動し直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

・前回の起動が正常に完了しませんでした。- 標準設定値が設定されました。

前回の起動時に正しく起動されなかったため、一部の設定項目が標準設定値で設定されたことを示しています。

起動途中に電源を切ってしまったり、または BIOS セットアップで誤った値を設定して起動できなかつたとき、3 回以上同じ操作で起動し直したときに表示されます。そのまま起動する場合は【F1】キーを押してください。BIOS セットアップを起動して設定を確認する場合は【F2】キーを押してください。

・< F1 >キーを押すと継続、< F2 >キーを押すと BIOS セットアップを起動します。

起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OS を起動する前に本メッセージが表示されます。【F1】キーを押すと発生しているエラーを無視して OS の起動を開始し、【F2】キーを押すと BIOS セットアップを起動して設定を変更することができます。

- ・ **日付と時刻の設定を確認してください。**
日付と時刻の設定値が正しくありません。
設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。
- ・ **NVRAM データが正しくありません。**
NVRAM データのテストでエラーが発見されたことを示しています。
「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。
- ・ **セキュリティボタン異常**
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。
- ・ **サーマルセンサエラー。システムの電源が切れます。**
温度制御系の設定が正しく行えなかったことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- ・ **ファンエラー。システムの電源が切れます。**
冷却用ファンのテストでエラーが発生したことを示しています。
「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。
- ・ **前回の起動中にサーマルセンサエラーが発生しました。**
前回の起動時にサーマルセンサエラーが発生したことを示しています。
「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。
- ・ **前回の起動中にファンエラーが発生しました。**
前回の起動時にファンエラーが発生したことを示しています。
「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。
- ・ **Invalid system disk**
Replace the disk, and then press any key
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。
- ・ **Non-System disk or disk error**
Replace and press any key when ready
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。
- ・ **NTLDR is missing**
Press any key to restart
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。
- ・ **Remove disks or other media.**
Press any key to restart
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。
- ・ **Operating system not found**
OS が見つからなかったことを示しています。
BIOS セットアップの「起動」メニューの設定が正しいか、指定したドライブに OS が正しくインストールされているかを確認してください。

- **PXE-E61:Media test failure, Check cable**

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。LAN ケーブルが正しく接続されていません。LAN ケーブルを正しく接続してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元に連絡してください。

- **PXE-E53:No boot filename received**

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーから、起動時に必要な IP アドレスまたは boot filename を取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元に連絡してください。

- **PXE-E78:Could not locate boot server**

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがないか、正しく動作していません。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元に連絡してください。

- **PXE-E89:Could not download boot image**

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元に連絡してください。

- **PXE-E32:TFTP open timeout**

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ネットワークブートに失敗しました。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元に連絡してください。

POINT

- 本書に記述されていないシステムエラーメッセージが表示された場合は、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

7

第7章

技術情報

本パソコンの仕様などを記載しています。

1 仕様一覧	180
--------------	-----

1 仕様一覧

本体仕様

製品名称		FMV-BIBLO LOOX Q70TN		
CPU ^{注1}		インテル® Core™ Solo プロセッサー超低電圧版 U1400 ^{注2} (インテル® Centrino® モバイル・テクノロジー搭載)		
		1.20GHz		
キャッシュメモリ			1 次:64KB + 2 次:2MB (CPU 内蔵)	
チップセット			モバイル インテル® 945GMS Express チップセット	
システムバスクロック			533MHz	
メインメモリ			標準 512MB (PC2-4200 SDRAM オンボード) ECC なし / 標準 1GB (PC2-4200 SDRAM オンボード) ECC なし	
表示機能	グラフィックアクセラレータ	チップセットに内蔵		
	ビデオメモリ	最大 64MB / 最大 128MB (標準) / 最大 224MB (メインメモリと共に用) ^{注3}		
	液晶ディスプレイ ^{注4}	12.1 型ワイド TFT カラー 1280 × 800 ドット		
	解像度 / 発色数 ^{注5}	液晶ディスプレイ表示: 1280 × 800 ドット / 1677 万色、 外部ディスプレイ表示: 最大 1600 × 1200 ドット / 最大 1677 万色、 液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示: 1024 × 768 ドット / 1677 万色		
ハードディスクドライブ ^{注6}			30/60/80GB (Ultra ATA100) ^{注7}	
オーディオ機能	オーディオコントローラ	チップセット内蔵 + High Definition Audio コーデック		
	PCM 録音再生機能	サンプリング周波数最大 192kHz、24 ビット (再生時) ^{注8} 、 サンプリング周波数最大 192kHz、24 ビット (録音時) ^{注8} 、 同時録音再生機能		
	MIDI 再生機能	OS 標準機能にてサポート		
	スピーカー	ステレオスピーカー内蔵		
キーボード			OADG 配列準拠 86 キー (Windows キー、アプリケーションキー付)	
ポインティングデバイス			フラットポイント	
ワンタッチボタン			× 4 (プログラマブル × 4)	
通信機能	LAN	1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T 準拠 ^{注9}		
	無線 LAN ^{注10}	規格	IEEE 802.11a (J52/W52/W53) 準拠、IEEE 802.11b 準拠、 IEEE 802.11g 準拠 (Wi-Fi® 準拠) ^{注11}	
	内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式		
セキュリティ機能	指紋センサー	スライド方式、スクロール機能付		
	セキュリティチップ	なし		

製品名称		FMV-BIBLO LOOX Q70TN
本体	PC カード	PC Card Standard 準拠 Type I / II × 1 スロット (CardBus 対応)
	SD メモリーカード ^{注12}	1 スロット
	IEEE1394(DV) ^{注13}	4 ピン × 1 (S400)
	USB ^{注14}	USB2.0 準拠 × 2 (右側面 × 2)
	CRT/LAN 変換コネクタ	専用コネクタ × 1
	オーディオ	マイク : φ3.5mm ステレオ・ミニジャック (入力 : 100mV 以下、入力インピーダンス (AC) 10kΩ 以上 (DC) 2kΩ 以上)、 ヘッドホン : φ3.5mm ステレオ・ミニジャック (出力 : 1mW 以上、負荷インピーダンス 32Ω)
	ドッキングステーション	専用コネクタ 54 ピン × 1
インターフェース	状態表示	LED
	CRT / LAN 変換ケーブル	外部ディスプレイ アナログ RGB ミニ D-SUB15 ピン × 1
注15 ドッキングステーション	LAN	RJ-45 × 1
	外部ディスプレイ	アナログ RGB ミニ D-SUB 15 ピン × 1
	USB ^{注14}	USB2.0 準拠 × 4
	LAN	RJ-45 × 1
	オーディオ	マイク : φ3.5mm ステレオ・ミニジャック (入力 : 100mV 以下、入力インピーダンス (AC) 10kΩ 以上 (DC) 2kΩ 以上)、 ヘッドホン : φ3.5mm ステレオ・ミニジャック (出力 : 1mW 以上、負荷インピーダンス 32Ω)
	CD/DVD ドライブ	スーパーマルチ ドライブ ^{注16}
電源供給方式	AC アダプタ	入力 AC100 ~ 240V、出力 16V (3.75A)
	バッテリ	内蔵バッテリパック : リチウムイオン 10.8V / 1150mAh 内蔵バッテリパック (M) : リチウムイオン 7.2V / 3800mAh 内蔵バッテリパック (L) : リチウムイオン 10.8V / 5200mAh
バッテリ稼働時間 (JEITA 測定法 1.0) ^{注17}		約 2 時間 (内蔵バッテリパック) / 約 4.5 時間 (内蔵バッテリパック (M)) / 約 9.5 時間 (内蔵バッテリパック (L))
	バッテリ充電時間 ^{注18}	約 2.5 時間 (内蔵バッテリパック) / 約 3.5 時間 (内蔵バッテリパック (M)) / 約 4.0 時間 (内蔵バッテリパック (L))
消費電力 ^{注19}		約 11W / 約 60W
省エネ法に基づく エネルギー消費効率 ^{注20}		S 区分 0.00021 (AAA) ^{注21}
		1 区分 0.00094 ^{注22}
外形寸法 (突起部含まず)		W297 × D219 × H18.2 ~ 19.9mm
質量		約 999g
温湿度条件		温度 5 ~ 35 °C / 湿度 20 ~ 80%RH (動作時)、 温度 -10 ~ 60 °C / 湿度 20 ~ 80%RH (非動作時) (ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと)
プレインストール OS		Windows XP Professional モデル : Windows XP Professional (DirectX 9.0c 対応)
サポート OS ^{注23}		Windows XP Professional

本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

注について

- 注 1 : ソフトウェアによっては CPU 名表記が異なる場合があります。
- 注 2 : エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能に対応しています。
エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能は、Windows XP モデルで、Microsoft® Windows® XP Service Pack 2 セキュリティ強化機能搭載（以降、Windows XP SP2）をインストールした場合のみお使いになれます。Windows XP SP2 をインストールしていない場合の動作保証はいたしません。また、Windows XP 以外の OS ではエグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能はサポートしていません。なお、Windows XP モデルには、あらかじめ Windows XP SP2 がインストールされています。
- 注 3 : 使用するビデオメモリ容量の最大値は、BIOS セットアップで変更できます。
Intel® Dynamic Video Memory Technology (DVMT) により、パソコンの動作状態によってビデオメモリ容量が BIOS セットアップで設定した最大値まで変化します。
- 注 4 : 以下は液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
- ・液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります。
 - ・本製品で使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。
 - ・長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらく経つと消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。
 - ・表示する条件によってはムラおよび微少な斑点が目立つことがあります。
- 注 5 : ・グラフィックアクセラレータが output する最大発色数は 1677 万色ですが、液晶ディスプレイではディザリング機能によって、擬似的に表示されます。
- 注 6 : 容量は、1MB = 1000²byte、1GB = 1000³byte 換算値です。
- 注 7 : カスタムメイドの選択によります。
- 注 8 : 使用できるサンプリングレートは、ソフトウェアによって異なります。
- 注 9 : ・100Mbps は 1000BASE-T の理論上の最高速度であり、実際の通信速度はお使いの機器やネットワーク環境により変化します。
・100Mbps の通信を行うためには、1000BASE-T に対応した HUB が必要となります。また、LAN ケーブルには、1000BASE-T に対応したエンハンスドカテゴリ 5（カテゴリ 5E）以上の LAN ケーブルを使用してください。
・1000Mbps のネットワーク速度しかサポートしていない HUB では、Wake up on LAN 機能はご使用になれません。
- 注 10 : このパソコンの無線 LAN は Super AG™ には対応しておりません。
- 注 11 : Wi-Fi® 準拠とは、無線 LAN の相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance」の相互接続性テストに合格していることを示しています。
- 注 12 : すべての SD メモリーカードの動作を保証するものではありません。
著作権保護機能には対応していません。
・マルチメディアカード (MMC) やセキュアマルチメディアカードには対応していません。
・miniSD メモリーカードをお使いの場合は、アダプタが必要になります。必ず miniSD メモリーカードアダプタにセットしてからお使いください。そのまま挿入すると、miniSD カードが取り出せなくなることがあります。
- 注 13 : すべての IEEE 1394 対応周辺機器について動作保証するものではありません。
- 注 14 : すべての USB 規格対応の周辺機器について、動作保証するものではありません。
・外部から電源を取らない USB 機器を接続するときの消費電流の最大容量は、1 ポートにつき 500mA です。詳しくは USB 機器のマニュアルをご覧ください。
- 注 15 : カスタムメイドで選択した場合。
- 注 16 : 各数值は仕様上の最大値であり、使用メディアや動作環境によって異なる場合があります。

スーパーマルチドライブ	CD-ROM 読出：最大 24 倍速、CD-R 書込：最大 24 倍速、 CD-RW 書込／書換：最大 10 倍速、DVD-ROM 読出：最大 8 倍速、 DVD-RAM：書込／書換：最大 5 倍速、DVD-R 書込：最大 8 倍速、 DVD-R DL：最大 2 倍速、DVD-RW 書込／書換：最大 4 倍速、 DVD+R 書込：最大 8 倍速、DVD+R DL 書込：最大 2.4 倍速、 DVD+RW 書込／書換：最大 4 倍速
-------------	--

- 注 17 : 社団法人電子情報技術産業協会の「JEITA バッテリ動作時間測定法 (Ver1.0)」(<http://it.jeita.or.jp/mobile/index.html>)。なお、本体のみ、省電力制御あり、満充電の場合。ただし、実際の稼働時間は使用条件により異なります。
- 注 18 : 電源 OFF またはスタンバイ時。装置の動作状況により充電時間が長くなることがあります。
- 注 19 : ・動作時の最小消費電力 (Windows 起動直後の消費電力) / 最大消費電力です。
また AC アダプタ運用時の消費電力です。
・電源 OFF 時の消費電力は約 1W 以下 (満充電時) です。
なお、電源 OFF 時のエネルギー消費を回避するには、AC ケーブルの電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 注 20 : エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を、省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。
- 注 21 : カッコ内のアルファベットは「A は 100% 以上 200% 未満、AA は 200% 以上 500% 未満、AAA は 500% 以上」の省エネ達成率であることを示します。
- 注 22 : 2007 年度基準で表示しています。
- 注 23 : ブレインストール OS のみサポートします。

8

第8章 トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

1	トラブルに備えて	184
2	トラブル発生時の基本操作	186
3	起動・終了時のトラブル	190
4	Windows・ソフトウェア関連のトラブル	192
5	ハードウェア関連のトラブル	194
6	それでも解決できないときは	204

1 トラブルに備えて

テレビ／ラジオなどの受信障害防止について

本パソコンは、テレビやラジオなどの受信障害を防止する VCCI の基準に適合しています。しかし、設置場所によっては、本パソコンの近くにあるラジオやテレビなどに受信障害を与える場合があります。このような現象が生じても、本パソコンの故障ではありません。テレビやラジオなどの受信障害を防止するために、次のような点に注意してください。

本パソコンの注意事項

- ・周辺機器と接続するケーブルは、指定のケーブルを使い、それ以外のケーブルは使わないでください。
- ・ケーブルを接続する場合は、コネクタが確実に固定されていることを確認してください。また、ネジなどはしっかりと締めてください。
- ・本パソコンの AC アダプタは、テレビやラジオなどを接続しているコンセントとは別のコンセントに接続してください。

テレビやラジオなどの注意事項

- ・テレビやラジオなどを、本パソコンから遠ざけて設置してください。
- ・テレビやラジオなどのアンテナの方向や位置を変更して、受信障害を生じない方向と位置を探してください。
- ・テレビやラジオなどのアンテナ線の配線ルートを、本パソコンから遠ざけてください。
- ・アンテナ線は同軸ケーブルをお使いください。

本パソコンや周辺機器などが、テレビやラジオなどの受信に影響を与えているかどうかは、本パソコンや周辺機器など全体の電源を切ることで確認できます。

テレビやラジオなどに受信障害が生じている場合は、前述の項目を再点検してください。それでも改善されない場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

Windows のセットアップ後の操作

Windows のセットアップが終了したら、バックアップを行ったり、セキュリティホール対策のための修正プログラムを適用したりすることをお勧めします。

詳しくは、「セキュリティ」－「コンピュータウイルス対策」(→ P.120) または「セキュリティ」－「Windows やソフトウェアのアップデート」(→ P.124) をご覧ください。また、『取扱説明書』もあわせてご覧ください。

修正プログラムの適用について

セキュリティの強化、安定したシステム運用のため、本パソコンに最新のサービスパックや修正モジュールを適用することを基本的にお勧めします。ただし、お客様の環境によっては、サービスパックや修正モジュールの適用により、予期せぬ不具合が発生する場合もありますので、ご利用前には「Readme.txt」などを必ずご確認ください。

また、万一、インストールに失敗したときのことを考慮し、システムのバックアップをとることをお勧めいたします。

なお、弊社のサポートページ (<http://azby.fmworld.net/support/>) でも、本パソコンに関連したサポート情報やドライバを提供しておりますので、ご覧ください。また、「アップデートナビ」を利用すると、本パソコンに関連したソフトウェアを自動的にダウンロードすることができます。

Windowsについては、「Windows Update」で最新の修正プログラムを入手できます。Office製品については、「Office のアップデート」で最新の修正プログラムを入手できます。

データのバックアップ

ハードディスクに障害が発生した場合などは、データが失われることがあります。必要なデータはフロッピーディスクや CD などの別媒体や、バックアップ装置を備えたファイルサーバーなどに定期的にバックアップしてください。

自動車内での使用について

パソコン本体を自動車内に設置した状態での使用は、保証しておりません。

ドキュメントの確認

周辺機器の取り付けやソフトウェアのインストールを行う前に、製品に添付されているドキュメントを読み、次の点を確認してください。

- ・ハードウェア／ソフトウェア要件

使用したい周辺機器やソフトウェアが本パソコンのハードウェア構成や Windows で使用できるか確認します。

- ・取り付け時やインストール時に注意すべき点

特に「Readme.txt」や「Install.txt」などのテキストファイルがある場合は、マニュアルに記述できなかった重要な情報が記載されている場合があります。忘れずに目を通してください。

また、製品添付のドキュメントだけではなく、Web 上の情報もあわせて確認してください。ベンダーの Web サイトからは、次のような情報やプログラムを得ることができます。

- ・製品出荷後に判明した問題などの最新情報

- ・問題が解決されたドライバやソフトウェアの修正モジュール

弊社のサポートページ (<http://azby.fmworld.net/support/>) でも、本パソコンに関連したサポート情報やドライバを提供しておりますので、ご覧ください。

2 トラブル発生時の基本操作

本パソコンや周辺機器の電源を確認する

電源が入らない、画面に何も表示されない、ネットワークに接続できない、などのトラブルが発生したら、まず本パソコンや周辺機器の電源が入っているか確認してください。

- ・電源ケーブルや周辺機器との接続ケーブルは正しいコネクタに接続されていますか？またゆるんだりしていませんか？
 - ・電源コンセント自体に問題はありませんか？他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
 - ・OA タップを使用している場合、OA タップ自体に問題はありませんか？他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
 - ・使用する装置の電源スイッチはすべて入っていますか？ネットワーク接続ができなくなった場合は、ネットワークを構成する機器（サーバー本体やハブなど）の接続や電源も確認してください。
 - ・キーボードの上に物を載せていませんか？キーが押され、本パソコンが正常に動作しないことがあります。
- この他、「起動・終了時のトラブル」(→P.190) の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」もあわせてご覧ください。

以前の状態に戻す

周辺機器の取り付けやソフトウェアのインストールの直後にトラブルが発生した場合は、いったん以前の状態に戻してください。

- ・周辺機器を取り付けた場合は、取り外します。
 - ・ソフトウェアをインストールした場合は、アンインストールします。
- その後、製品に添付されているマニュアル、「Readme.txt」などの補足説明書、Web 上の情報を確認し、取り付けやインストールに関して何か問題がなかったか確認してください(→P.185)。
- 発生したトラブルに該当する記述があれば、ドキュメントの指示に従ってください。

前回起動時の構成に戻す

問題が発生した周辺機器を取り外したにもかかわらず Windows が起動しない場合は、前回起動時の構成に戻してみてください。

1 本パソコンの電源を入れます。

- 2 「FUJITSU」ロゴが消えたら、【F8】キーを押します。**
「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されます。
【F8】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。しばらくの間押してください。
- 3 「前回正常起動時の構成(正しく動作した最新の設定)」を選択し、【Enter】キーを押します。**
画面の指示に従って操作します。

Safe モードで起動する

Windowsが起動しない場合、Safeモードで起動できるか確認してください。
起動方法は、次のとおりです。

- 1 本パソコンの電源を入れます。**
- 2 「FUJITSU」ロゴが消えたら、【F8】キーを押します。**
「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されます。
【F8】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。しばらくの間押してください。
- 3 「セーフモード」を選択し、【Enter】キーを押します。**
「オペレーティングシステムの選択」が表示されます。
- 4 お使いの Windows が選択されていることを確認し、【Enter】キーを押します。**
- 5 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。**
「Administrator パスワード」を設定している場合は、パスワードを入力してログオンします。
「Windows はセーフモードで実行されています。」と表示されます。
- 6 「はい」をクリックします。**
必要に応じて、問題があるドライバを再インストールしてください。

バックアップを行う

ハードディスクの障害などで本パソコンの動作が不安定になった場合は、必要なデータをただちにバックアップしてください。

メッセージなどが表示されたらメモしておく

画面上にメッセージなどが表示されたら、メモしておいてください。マニュアルで該当する障害を検索する場合や、お問い合わせのときに役立ちます。

診断／修正プログラムを使用する

本パソコンでは、次のパソコン診断／修正プログラムを用意しています。

- ・「FMV 診断」（→ P.188）
- ・「QT-PC/U」（→ P.188）

FMV 診断

「FMV 診断」でハードウェアの障害箇所を診断できます。

POINT

- ・起動中のソフトウェアや常駐プログラムはすべて終了してください。
- ・スクリーンセーバーは「なし」に設定してください。
- ・フロッピーディスク ドライブを診断する場合は、フォーマット済みのフロッピーディスクをセットしてください。
- ・CD/DVD ドライブを診断する場合は、お手持ちの CD-ROM をセットしてください。
- ・ネットワーク機能の診断を行う場合は、あらかじめ固定 IP を設定しておいてください。

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「FMV 診断」の順にクリックします。

この後はメッセージに従って操作します。

QT-PC/U

Windows が起動しないために「FMV 診断」が使用できない場合、添付のディスクから起動できる「QT-PC/U」を使用することで、ハードウェアの障害箇所を診断できます。

診断後にエラーコードが表示された場合は、メモしておき、「富士通パーソナルエコセンター」にお問い合わせの際にお知らせください。

診断時間は通常 5～10 分程度ですが、診断するパソコンの環境によっては長時間かかる場合があります。

次のものを用意してください。

- ・アプリケーションディスク

- 1 「アプリケーションディスク」をセットします。

- 2 本パソコンの電源を一度切り、再び電源を入れます。

3 「FUJITSU」ロゴの下に文字が表示されている間に【Enter】キーを押します。

ポップアップメニューが表示されます。

4 【↓】キーまたは【↑】キーを押し、「起動メニュー」を選択し、【Enter】キーを押します。

メニューが表示されます。

POINT

- ・ポップアップメニューの「診断プログラム」からも「QT-PC/U」が起動できます。ただし、一部の機能がお使いになれません。すべての機能を使用する場合は、アプリケーションディスクから起動してください。

5 「CD/DVD Drive」を選択し、【Enter】キーを押します。

自動的に診断が開始されます。診断は 6 項目について行われ、各項目の診断結果が画面の「STATUS」の部分に表示されます。

- ・診断でエラーが発生した場合は、「STATUS」部に「ERROR」と表示され、画面の「Message Display」部に 8 行のエラーコードが表示されます。
お問い合わせのときは、表示されたエラーコードをお知らせください。
- ・診断でエラーが発生しなかった場合は、「STATUS」部に「NO ERROR」と表示されます。

6 診断が終了し、画面の「Message Display」部に次のように表示されたら、CD-ROMを取り出します。

Eject CD-ROM.

Press Ctrl + ALT + DEL for power off

7 【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押します。

8 次のように表示されたら、【Enter】キーを押します。

[Ctrl+ALT+DEL Push] -> Power off execute ok (ENTER)?

約 5 秒後に電源が切れます。

ただし、機種によっては次のように表示され、自動的に電源が切れない場合があります。

Please power off manually

この場合は、パソコン本体の電源を切ってください。

8

リカバリ

トラブル発生時の基本操作をした後も回復しない場合には、リカバリを実行します。リカバリの方法については、『取扱説明書』をご覧ください。

リカバリ後も状態が改善されない場合は

リカバリ後も状態が改善されない場合は、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元に連絡してください。

3 起動・終了時のトラブル

■メッセージが表示された

電源を入れた後の自己診断（POST）時に、画面にメッセージが表示される場合があります。メッセージ内容と意味については、「BIOS」－「BIOS が表示するメッセージ一覧」（→ P.174）をご覧ください。

■電源が入らない

・ACアダプタは接続されていますか？

お買い上げ後最初にお使いになるときなど、バッテリが充電されていない場合は、ACアダプタを接続してください。また、電源スイッチ付きのACタップをお使いの場合は、ACタップの電源をONにしてください。

・バッテリは充電されていますか？（バッテリ運用時）

状態表示LEDのバッテリ残量ランプで、バッテリの残量を確認してください。

バッテリ残量表示、および確認方法については、「ハードウェア」－「バッテリ残量を確認する」（→ P.36）をご覧ください。

バッテリが充電されていない場合は、ACアダプタを接続してお使いください。

・長期間未使用状態ではありませんでしたか？

長期間お使いにならなかった後でお使いになるときは、ACアダプタを接続してから電源を入れてください。

■画面に何も表示されない

・電源ランプは点灯していますか？

- 点灯している場合

【Fn】+【F6】キー、または【Fn】+【F7】キーを押して明るさを調節してください。

- 点滅または消灯している場合

電源ボタンを押して動作状態にしてください。また、バッテリ運用時は、バッテリが充電されているか確認してください。充電されていないときには、ACアダプタを接続して充電してください。

ACアダプタをお使いになっている場合は、コンセント、およびパソコン本体に正しく接続されているか確認してください。

・キーを操作していましたか？

本パソコンには省電力機能が設定されており、一定時間キーを押さないとCPUが停止したり、液晶ディスプレイのバックライトが消灯したりします（何かキーを押すとバックライトが点灯します）。頻繁に停止してしまうときは、「電源オプションのプロパティ」ウィンドウで省電力の設定を変更してください。

・外部ディスプレイ出力に設定されていませんか？

外部ディスプレイだけに表示する設定になっていると、液晶ディスプレイには表示されません。

「機能」－「表示装置の切り替え」（→ P.85）をご覧になり、設定を液晶ディスプレイ表示に切り替えてください。

・外部ディスプレイを使用している場合（→ P.85、→ P.88）、次の項目を確認してください。

- パソコン本体の電源を入れる前に、外部ディスプレイの電源を入れていますか？

- セットアップ前に、外部ディスプレイを接続していませんか？

必ずセットアップ後に接続してください。

- ・解像度や走査周波数は、外部ディスプレイに合った設定になっていますか？（外部ディスプレイに表示している場合）

そのまま 15 秒くらい待っても、液晶ディスプレイ表示に戻らない場合は、本パソコンを強制終了してください。

その後、外部ディスプレイのケーブルを外してから電源を入れると、液晶ディスプレイに表示されます。

「機能」－「外部ディスプレイの走査周波数について」（→ P.91）をご覧になり、お使いになる外部ディスプレイに合わせた設定値に変更してから、外部ディスプレイ表示への切り替えを行ってください（→ P.85）。

■ ポイントティングデバイスが使えないため、Windows を終了できない

- ・キーボードを使って Windows を終了させることができます。

1. 【Windows】キーまたは【Ctrl】+【Esc】キーを押します。

「スタート」メニューが表示されます。

2. 【↑】【↓】キーで終了メニューの選択、【Enter】キーで決定を行うことで Windows の終了操作を行います。

ポインティングデバイスが故障している場合は、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元に連絡してください。

■ Windows が動かなくなってしまい、電源が切れない

- ・次の手順で Windows を終了させてください。

1. 【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押します。

2. Windows を終了します。

表示されるウィンドウによって手順が異なります。

- ・「Windows タスクマネージャ」ウィンドウが表示された場合

「シャットダウン」メニュー→「コンピュータの電源を切る」の順にクリックします。

- ・「Windows のセキュリティ」ウィンドウが表示された場合

1. 「シャットダウン」をクリックします。

「Windows のシャットダウン」ウィンドウが表示されます。

2. 「シャットダウン」を選択し、「OK」をクリックします。

POINT

- ・強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。

- ・強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします（→ P.197）。

この操作で強制終了されないときは、電源ボタンを 4 秒以上押して電源を切り、10 秒以上待ってから電源を入れます。

4 Windows・ソフトウェア関連のトラブル

ここでは、Windows、ソフトウェアに関連するトラブルを説明します。トラブルに合わせてご覧ください。

■ Windows が起動しなくなった

・周辺機器を取り付けませんでしたか？

いったん周辺機器を取り外し、Windows が起動するか確認してください（→ P.186）。

もし起動するようであれば、周辺機器の取り付け方法が正しいか、もう一度確認してください。

・Safe モードで起動できますか？

いったん Safe モードで起動し（→ P.187）、問題を解決（ドライバの再インストールなど）してください。

・添付のディスクに入っている「QT-PC/U」という診断プログラムで、パソコンの診断をしてください（→ P.188）。

「QT-PC/U」でエラーが発生しなかった場合は、リカバリを実行し、本パソコンをご購入時の状態に戻してください（→ 『取扱説明書』）。

それでも解決しない場合は、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

・Windows を正常に終了できなかった場合

次回起動時に自動的に Safe モードになり、「キーボードの選択」画面が表示されることがあります。

この場合、そのまま Safe モードで起動し、起動が完了したら本パソコンを再起動してください。

■ プログラムが動かなくなってしまった

・次の手順でプログラムを終了させてください。

1. 【Ctrl】+【Shift】+【Esc】キーを押します。

「Windows タスクマネージャ」ウィンドウが表示されます。

2. 「アプリケーション」タブをクリックします。

3. 動かなくなったプログラムを選択し、「タスクの終了」をクリックします。

プログラムが強制終了されます。

4. 「Windows タスクマネージャ」ウィンドウを閉じます。

POINT

- ・プログラムを強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ・プログラムを強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします（→ P.197）。

■ 省電力機能が実行されない

・「コントロールパネル」や BIOS の設定を確認してください。

省電力機能の詳細については、「機能」－「省電力」（→ P.104）をご覧ください。

■バッテリ運用時に画面がちらつく

- ご購入時の状態で、本パソコンをバッテリ運用すると、液晶ディスプレイの消費電力を節約するインテル®ディスプレイ省電テクノロジの機能が有効となり、画面がちらついて見えたり、画質が変化しているように見えたりする場合があります。
「機能」-「液晶ディスプレイの明るさ設定」(→P.80)をご覧になり、設定を変更してください。

■周辺機器の動作が不安定になった

- なんらかの理由でドライバが削除されているか破損している場合があります。
ドライバを再インストールしてください。

■ソフトウェアのインストールが正常に行われない

- ウイルス検索ソフトを起動している場合、その影響が考えられます。
ウイルス検索ソフトを終了させ、ソフトウェアのインストールができるか試してください。
ウイルス検索ソフトを終了させてもインストールが正常に行われないときは、各ソフトウェアのサポート窓口にお問い合わせください。

■画面右下の通知領域にソフトウェアのアイコンが表示されない

- Windows を起動したあと、通知領域に表示されるはずのソフトウェアのアイコンが表示されないことがあります。
通知領域にアイコンが表示されなかったソフトウェアをお使いになる場合は、次のいずれかの方法を実行してください。
 - 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」の順にクリックし、表示されるメニューからソフトウェアを選択する
 - 「スタート」ボタン→「終了オプション」→「再起動」の順にクリックし、Windows を再起動する

POINT

- Windows を起動したあと、通知領域にアイコンが表示されなかった場合、ソフトウェアによっては起動できなかったことを通知するメッセージが表示されることがあります。
この場合、メッセージに従って、Windows を再起動してください。

5 ハードウェア関連のトラブル

ハードウェア関連のトラブル一覧

- ・ BIOS の「管理者用パスワードを忘れてしまった」(→ P.195)
- ・「ユーザー用パスワードを忘れてしまった」(→ P.195)
- ・パソコン本体起動時に「エラーメッセージが表示された」(→ P.195)
- ・「仮想メモリが足りない」(→ P.195)
- ・「ネットワークに接続できない」(→ P.196)
- ・「ネットワーククリソースに接続できない」(→ P.197)
- ・「ハードディスクが使えない」(→ P.197)
- ・「ハードディスクからカリカリ音がする」(→ P.197)
- ・「頻繁にフリーズするなど動作が不安定」(→ P.197)
- ・(CD/DVD) 「ディスクからデータの読み出しができない」(→ P.198)
- ・「WinDVD が起動しない」(→ P.198)
- ・「DVD の再生が円滑に行われない」(→ P.198)
- ・「外部ディスプレイに再生画面が表示されない」(→ P.198)
- ・「DVD の再生音が小さい」(→ P.199)
- ・「ディスクへの書き込み速度が遅い」(→ P.199)
- ・「状態表示 LED のバッテリ残量ランプが赤色に早い間隔で点滅している」(→ P.199)
- ・「状態表示 LED のバッテリ充電ランプがオレンジ色に点滅している」(→ P.199)
- ・「バッテリが充電されない」(→ P.199)
- ・「画面に何も表示されない」(→ P.200)
- ・「ディスプレイの表示が見にくい」(→ P.200)
- ・「液晶ディスプレイが閉まらない」(→ P.200)
- ・「表示が乱れる」(→ P.200)
- ・「スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる」(→ P.201)
- ・「マイクからうまく録音ができない」(→ P.201)
- ・「押したキーと違う文字が入力される」(→ P.201)
- ・「ポインティングデバイスが使えないため、Windows を終了できない」(→ P.201)
- ・「USB デバイスが使えない」(→ P.202)
- ・「USB デバイスが使えず、「デバイスマネージャ」で確認するとエクスクラメーションマーク (!) が表示される」(→ P.202)
- ・「IEEE1394 デバイスが使えない」(→ P.202)
- ・「IEEE1394 デバイスが使えず、「デバイスマネージャ」で確認するとエクスクラメーションマーク (!) が表示される」(→ P.203)
- ・「プリンタを使用できない」(→ P.203)
- ・「使用中の製品に関する最新情報を知りたい」(→ P.203)

■管理者用パスワードを忘れてしまった

管理者用パスワードを忘れると、BIOS セットアップを管理者権限で起動することができなくなり、項目の変更やパスワード解除ができなくなります。この場合は、修理が必要となりますので「富士通パーソナルエコセンター」、またはご購入元にご連絡ください。なお、保証期間にかかるわらず修理は有償となります。

■ユーザー用パスワードを忘れてしまった

ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。パソコンの管理者に管理者用パスワードをいったん削除してもらった後、管理者用パスワード、ユーザー用パスワードの順にパスワードを設定し直してください。パスワードの設定方法については、「BIOS」－「BIOS のパスワード機能を使う」(→ P.169) をご覧ください。

■エラーメッセージが表示された

パソコン本体起動時に、画面にエラーメッセージが表示される場合があります。

エラーメッセージの内容と意味については、「BIOS」－「BIOS が表示するメッセージ一覧」(→ P.174) をご覧ください。

メモリ

■仮想メモリが足りない

仮想メモリ（ページングファイル）の設定を行います。

仮想メモリの設定を行うには、仮想メモリの「最大サイズ」分の空き容量がハードディスクに必要です。本体搭載メモリ容量が大きい場合などに、選択したドライブに充分な空き容量がないときは、別のドライブに設定してください。

ただし、ブートパーティション以外に設定する場合、あるいはページングファイルサイズが小さい場合などは、メモリダンプをファイルに出力できなくなります。ダンプファイルを取得する場合は、システムドライブに最低でも物理メモリ +1MB（仮想メモリの容量は含まず）の空き容量が必要です。

POINT

- ・仮想メモリの推奨値は、次のとおりです。
初期サイズ：本体搭載メモリの 1.5 倍
最大サイズ：初期サイズの 2 倍

- 1 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を右クリックして「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

- 3** 「詳細設定」タブをクリックし、「パフォーマンス」の「設定」をクリックします。
「パフォーマンスオプション」ウィンドウが表示されます。
- 4** 「詳細設定」タブをクリックし、「仮想メモリ」の「変更」をクリックします。
「仮想メモリ」ウィンドウが表示されます。
- 5** ページングファイルが保存されているドライブを変更する場合は、「ドライブ」の一覧で変更するドライブをクリックします。
システムドライブに充分な空き容量がある場合は、ドライブの変更は必要ありません。
- 6** 「選択したドライブのページングファイルサイズ」の「初期サイズ」または「最大サイズ」を適切な値に変更し、「設定」をクリックします。
- 7** 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。
- 8** 本パソコンを再起動します。

内蔵 LAN

■ネットワークに接続できない

- ・ネットワークケーブルは正しく接続されていますか？
パソコン本体との接続、ハブとの接続を確認してください。
- ・ネットワークケーブルに関して、次の項目を確認してください。
 - ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
 - 100Mbpsで通信している場合、カテゴリ5以上のケーブルを使用してください。
- ・内蔵 LAN に関して、次の項目を確認してください。
 - 無線 LAN 設定が正しく設定されていますか？
必要に応じて、『内蔵無線 LANをお使いになる方へ』をご覧になり、再度設定等を確認してください。
無線 LAN と有線 LAN で、同じ設定にはできません。
 - LAN ドライバは正しくインストールされていますか？
必要に応じて、再インストールしてください。
- ・TCP/IP プロトコルをお使いの場合
コマンドプロンプトで次のように入力し、「Reply from ~」という応答が表示されるか確認してください。

```
ping nnn.nnn.nnn.nnn
```

(nnnには通信相手の IP アドレスを入力します)
- ・ハブに関して、次の項目を確認してください。
 - 電源は入っていますか？
 - ACT/LNK ランプは点灯していますか？
 - Speed (1000Mbps/100Mbps/10Mbps/Auto)、Duplex (Full/Half/Auto) の設定は、パソコン側の設定と合っていますか？

- ・画面右下の通知領域に LAN の接続状況が表示されますので、確認してください。
- ・スタンバイや休止状態にしませんでしたか？
LAN 機能を使ってネットワークに接続中は、スタンバイや休止状態にしないことをお勧めします。
お使いの環境によっては、ネットワークへの接続が正常に行われない場合があります。

■ネットワークリソースに接続できない

各種サーバーに接続できない場合は、ネットワーク管理者に原因を確認してください。一般的に、次の点を確認します。

- ・お使いのネットワークに適したコンポーネント（クライアント / サービス / プロトコル）をインストールしていますか？
- ・各コンポーネントの設定は、正しいですか？
- ・サーバーにアクセスするためのユーザー名やパスワードは正しいですか？
- ・サーバーにアクセスする権限を与えられていますか？
- ・サーバーがなんらかの理由で停止していませんか？

ハードディスク

■ハードディスクが使えない

- ・エラーメッセージは出でていませんか？
「BIOS」－「BIOS が表示するメッセージ一覧」（→ P.174）をご覧ください。

■ハードディスクからカリカリ音がする

- ・次のような場合に、ハードディスクからカリカリという音がすることがあります。
 - Windows を終了した直後
 - スタンバイや休止状態にした直後
 - パソコンの操作を一時中断した場合（ハードディスクアクセスが数秒間なかった場合）
 - 中断した状態から再度パソコンを操作させた場合
 - パソコンを操作しない場合でも、常駐しているソフトウェアなどが動作した場合（ハードディスクアクセスされた場合）
- これはハードディスクの特性です。故障ではありませんので、そのままお使いください。

■頻繁にフリーズするなど動作が不安定

- ・次の手順でハードディスクをチェックしてください。
 1. 実行中のプログラムをすべて終了します。
 2. 「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」の順にクリックします。
 3. プログラムをインストールしてあるディスクを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
 4. 「ツール」タブをクリックし、「エラーチェック」の「チェックする」をクリックします。
 5. 「チェックディスクのオプション」内の項目をチェックし、「開始」をクリックします。
「ファイルシステムエラーを自動的に修復する」をチェックして C ドライブを検査する場合は、
「次回のコンピュータの再起動後に、このディスクの検査を実行しますか？」と表示されます。
「はい」をクリックすると、次回 Windows 起動時にエラーのチェックが行われます。それ以外
の場合は、ディスクのチェックが開始されます。終了すると「ディスクの検査が完了しまし
た。」と表示されます。
 6. 「OK」をクリックします。

修復してもトラブルが頻繁に発生する場合は、リカバリを実行してください（→ 『取扱説明書』）。

POINT

- 新しいユーザーを作成すると、エラーメッセージが表示されることがあります。この場合も、同様の手順で CHKDSK コマンドを実行してください。

なお、ハードディスクのチェックは、CHKDSK コマンドではなく、ディスクのプロパティの「ツール」タブから行うことをお勧めします。

CD／DVD

■ディスクからデータの読み出しができない

- ディスクが正しくセットされていますか？
ディスクの表裏を間違えないよう、正しくセットしてください。
- ディスクが汚れていたり、水滴がついたりしていませんか？
汚れたり水滴がついたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側へ向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
- ディスクが傷ついていたり、極端に反っていたりしませんか？
ディスクを交換してください。
- 規格外のディスクを使用していませんか？
規格に合ったディスクをお使いください。

■WinDVD が起動しない

- 市販されているアンチウイルスソフトを起動していませんか？
市販されているアンチウイルスソフトと「WinDVD」を同時に起動することはできません。アンチウイルスソフトを終了してから、「WinDVD」を起動してください。
- 自動検索機能付きのアンチウイルスソフト（市販）をインストールしていませんか？
自動検索機能付きのアンチウイルスソフトをインストールしていると、「WinDVD」を起動することはできません。
アンチウイルスソフトをアンインストールしてから「WinDVD」を起動してください。

■DVD の再生が円滑に行われない

- 「WinDVD」を正しくインストールしましたか？
「WinDVD」を再インストールしてください。
- 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてからインストールしましたか？
一度アンインストールしてから管理者権限を持ったユーザーとしてログオンし直し、「WinDVD」を再インストールしてください。
- Wave 音源の再生、または AVI ファイル等の映像再生をしていませんか？
Wave 音源、または AVI ファイル等の映像と同時再生はできません。

■外部ディスプレイに再生画面が表示されない

- パソコン本体がマルチモニタ機能を使用していませんか？
マルチモニタ機能に設定している場合、再生映像は「プライマリディスプレイ」側にしか表示できません。

■ DVD の再生音が小さい

- ・パソコン本体のボリュームの設定は正しいですか？

DVD ディスクによっては音のレベルが小さく録音されているものがあります。Windows の「音量の調整」または「ボリュームコントロール」の設定を調節してください。

■ ディスクへの書き込み速度が遅い

- ・ウイルス対策ソフトなどを常駐させていませんか？

ウイルス対策ソフトなどを常駐し、ファイルアクセスの監視を行った状態でディスクに書き込むと、書き込み速度が低下する場合があります。

バッテリ

■ 状態表示 LED のバッテリ残量ランプが赤色に早い間隔で点滅している

- ・バッテリは正しく取り付けられていますか？

バッテリが正しく充電できないことを示します。パソコン本体の電源を切ってからバッテリの取り付けをやり直してください。それでも赤色に点滅している場合はバッテリが異常です。新しいバッテリと交換してください。バッテリパックの交換については、「ハードウェア」—「内蔵バッテリパックを交換する」(→ P.39) をご覧ください。

■ 状態表示 LED のバッテリ充電ランプがオレンジ色に点滅している

- ・バッテリ運用直後ではありませんか？

バッテリ運用直後の充電などでは、バッテリの温度が上昇しているため、保護機能が働いてバッテリ充電ランプがオレンジ点滅することがあります。しばらくして、バッテリの温度が低下し、正常な温度に戻ると、そのときのバッテリ残量を表示します。

■ バッテリが充電されない

- ・AC アダプタは接続されていますか？

AC アダプタを接続している場合は、コンセントおよびパソコン本体に正しく接続されているか確認してください。

- ・バッテリが熱くなっていますか？

状態表示LEDのバッテリ充電ランプがオレンジ点滅します。

周囲の温度が高いときや使用中にバッテリの温度が上昇すると、バッテリの保護機能が働いて、充電を止めることができます。

- ・パソコン本体が冷えていませんか？

状態表示LEDのバッテリ充電ランプがオレンジ点滅します。

バッテリの温度が 5 ℃以下になっていると、バッテリの保護機能が働いて、充電を止めることができます。

- ・充電を途中で中断させていますか？

充電を始めてから、バッテリの充電が完了するまでの間に本パソコンを使用したり、ACアダプタを取り外したりすると、バッテリの特性により充電が不完全に終わることがあります。この場合は、本パソコンをしばらくの間バッテリで稼働させ、バッテリ残量が89%以下になってから充電してください。また、いったん充電を開始したら、バッテリの充電が完了するまでACアダプタを接続したまま充電を終わらせてください。

ディスプレイ

■画面に何も表示されない

- ・「起動・終了時のトラブル」(→P.190) の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」をご覧ください。

■ディスプレイの表示が見にくい

- ・ディスプレイは見やすい角度になっていますか？
ディスプレイの角度を調節してください。
- ・明るさなどを調節しましたか？
「機能」-「液晶ディスプレイの明るさ設定」(→ P.80) をご覧になり、明るさを調節してください。

■液晶ディスプレイが閉まらない

- ・間に物がはさまっていませんか？

無理に閉めようすると液晶ディスプレイに傷をつけることがあります。物がはさまっていないか確認してください。また、クリップなどの金属製品がキーのすき間などに入ると、故障の原因になります。

■表示が乱れる

- ・Windows の画面が正常に表示されない場合は、ディスプレイドライバを再インストールしてください。
Windowsが起動しないときは、Safeモードで起動してからインストールしてください(→ P.187)。
- ・ソフトウェアを使用中に、アイコンやウィンドウの一部が画面に残ってしまった場合は、次の手順でウィンドウを再表示してください。
 1. ウィンドウの右上にある最小化ボタンをクリックし、ソフトウェアを最小化します。
 2. タスクバーに最小化されたソフトウェアのボタンをクリックします。

POINT

次のような場合に表示が乱れることがあります、動作上は問題ありません。

- ・Windows 起動時および画面の切り替え時
- ・DirectX を使用した一部のソフトウェア使用時

- ・近くにテレビなどの強い磁界が発生するものがありますか？

強い磁界が発生するものは、ディスプレイやパソコン本体から離して置いてください (→ P.184)。

- ・外部ディスプレイに出力していますか？

外部ディスプレイによっては、対応している解像度や走査周波数が異なるため、正常に表示されないことがあります。その場合は、外部ディスプレイのマニュアルで外部ディスプレイが対応しているリフレッシュレートを確認し、設定を変更してください (→ P.91)。

サウンド

■スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる

- ・内蔵スピーカーに関して、次の項目を確認してください。
 - スピーカーの出力はONになっていますか？
 - 【Fn】+【F3】キーを押して、スピーカーの出力を確認してください。
 - 音量は正しく調節されていますか？
 - 【Fn】+【F8】キー、または【Fn】+【F9】キーを押して、適正な音量にしてください。また、本体側面の音量ボリュームでも調節できます。
- ・音量を設定するウィンドウで、ミュートや音量などを確認してください。詳細については、「機能」－「音量の設定」(→P.92)をご覧ください。
- ・音が割れる場合は、音量を小さくしてください。
- ・ハードウェアの競合が起こっていませんか？
- ・サウンドドライバが正しくインストールされていますか？
必要に応じて、再インストールしてください。

■マイクからうまく録音ができない

- ・音量は調節されていますか？
音量を設定するウィンドウで録音の項目を有効にし、音量を調節してください。詳細については、「機能」－「音量の設定」(→P.92)をご覧ください。

キーボード

■押したキーと違う文字が入力される

- ・【NumLk】キーや【CapsLock】キーが有効になっていませんか？
状態表示LEDのNum Lk表示やCaps Lock表示が点灯していないか確認してください。
- ・「コントロールパネル」の「キーボード」の設定は正しいですか？
次の手順で確認してください。
 1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
 2. 「プリンタとその他のハードウェア」をクリックします。
 3. 「キーボード」をクリックします。
「キーボードのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 4. 「ハードウェア」タブの「デバイス」で、正しい日本語キーボードが設定されているか確認します。

ポインティングデバイス

■ポインティングデバイスが使えないため、Windowsを終了できない

- ・キーボードを使用してWindowsを終了してください(→P.191)。

USB

■ USB デバイスが使えない

- ・ケーブルは正しく接続されていますか？
ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- ・USB デバイスがルートハブ以外に接続されていませんか？
USB デバイスはルートハブに直接接続してください。
- ・USB デバイスに不具合はありませんか？
USB デバイスに不具合がある場合、Windows が動かなくなります。
パソコンを再起動して、USB デバイスを接続し直してみてください。それでも正常に動作しない場合は、USB デバイスのご購入元にご連絡ください。

■ USB デバイスが使えず、「デバイスマネージャ」で確認するとエクスクラメーションマーク (!) が表示される

- ・デバイスドライバに問題はありませんか？インストールされていますか？
必要なドライバをインストールしてください。
- ・外部から電源を取らない USB デバイスの場合、消費電力に問題はありませんか？
次の手順で USB コネクタの電力使用状況を確認してください。
 1. 「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウインドウが表示されます。
 2. 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
「デバイスマネージャ」ウインドウが表示されます。
 3. 「USB (Universal Serial Bus) コントローラ」をダブルクリックし、「USB ルートハブ」をダブルクリックします。
「USB ルートハブのプロパティ」ウインドウが表示されます。
 4. 「電力」タブをクリックし、USB バスの電力使用状況がデバイスマネージャで使用可能な電力の合計を超えていないか確認します。

IEEE1394

■ IEEE1394 デバイスが使えない

- ・長すぎるケーブルを使用していませんか？
長さ 4.7 メートル以内のケーブルをお使いください。
- ・IEEE1394 デバイスが表示されていますか？
IEEE1394 デバイス接続後、IEEE1394 デバイスがデバイスマネージャに一度表示され、すぐに表示されなくなることがあります。
この場合、IEEE1394 デバイス側の電源の管理機能がコンピュータに誤って認識されている可能性があります。IEEE1394 デバイス側の電源設定を変更してください。
- ・IEEE1394 デバイスに不具合はありませんか？
IEEE1394 デバイスに不具合がある場合、Windows が動かなくなります。
パソコンを再起動して、IEEE1394 デバイスを接続し直してみてください。それでも正常に動作しない場合は、IEEE1394 デバイスのご購入元にご連絡ください。

-
- IEEE1394 デバイスが使えず、「デバイスマネージャ」で確認するとエクスクラ
メーションマーク (!) が表示される
- ・ デバイスドライバに問題はありませんか？インストールされていますか？
必要なドライバをインストールしてください。

プリンタ

■ プリンタを使用できない

- ・ 次の点を確認してください。
 - プリンタケーブルは正しく接続されていますか？
 - ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
 - プリンタの電源は入っていますか？
 - プリンタドライバは正しくインストールされていますか？
プリンタのマニュアルをご覧になり、再インストールしてください。
 - ネットワークプリンタの場合、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行いましたか？
 - ネットワークプリンタの場合、ネットワーク自体へのアクセスはできていますか？（→ P.196）

その他

■ 使用中の製品に関する最新情報を知りたい

- ・ 製品出荷後に判明した問題などの最新情報は、弊社のサポートページ (<http://azby.fmworld.net/support/>) で公開しています。必要に応じてご覧ください。

6 それでも解決できないときは

お問い合わせ先

本製品に添付されているソフトウェアは、提供会社によってお問い合わせ先が異なります。お問い合わせについては、添付の冊子『サポート＆サービスのご案内』をご覧ください。

索引

B

BIOS セットアップ	156
-各キーの役割	160
-一起動する	157
-終了する	161
-設定を変更する	159
-操作のしかた	158
BIOS のパスワード機能を使う	169

C

Caps Lock 表示	19
--------------	----

D

DC-IN コネクタ	15, 57
------------	--------

F

FDD ユニット (USB)	46
FMV 診断	188

I

IEEE (アイトリプレイ) 1394 (DV)	1394 (DV)
端子	14

L

LAN	95
LAN コネクタ	18, 58
LAN 着信によるレジューム	109

N

Num Lock ランプ	19
--------------	----

P

PC カード	65
-スロット	14
-取り出しボタン	14

Q

QT-PC/U	188
---------	-----

S

Safe モード	187
Scroll Lock ランプ	19
SD メモリーカード	70
SD メモリーカードスロット	16

U

USB コネクタ	14, 57
----------	--------

W

Wakeup on LAN	109
Windows Update	124

あ行

色数	84
液晶ディスプレイ	10
-お手入れ	77
音量ボリューム	16

か行

解像度	84
外部ディスプレイ	74
-コネクタ	18, 57
外部ディスプレイの走査周波数	91
仮想メモリ	195
管理者用パスワード	169
キーボード	11, 30
-お手入れ	78
起動時の自己診断 (POST)	156
起動メニュー	166
吸気孔	12, 17
休止状態	104

さ行

指紋センサー	12, 128
周辺機器	26
終了メニュー	167
詳細メニュー	163
状態表示 LED	11, 19
省電力	104
情報メニュー	167
スピーカー	11
セキュリティ	118
セキュリティメニュー	164
接続コネクタ	57
全画面表示と通常表示の切り替え	82

た行

ディスプレイの明るさ設定	80
テンキーモード	32
電源ボタン	11
盗難防止用ロック取り付け穴	57

ドッキングステーション	51, 56
－接続コネクタ	17
－取り付ける	58
－取り外しレバー	57
－取り外す	60

な行

内蔵バッテリパック	17
－ロック	17
内蔵マイク	11
内蔵無線 LAN アンテナ	13

は行

ハードディスク／CD アクセスランプ	19
ハードディスクデータ消去	146
ハードディスク用パスワード	169
排気孔	15
パスワード (BIOS)	169
－削除する	173
－設定する	169
－変更する	172
パソコン本体のお手入れ	77
バッテリ	
－LOW バッテリ状態	37
－異常表示	36
－運用する	35
－交換する	39
－残量表示	36
－残量ランプ	19
－充電する	34
－充電ランプ	20
－取り扱い上の注意	37
バッテリ温度アラーム	34, 36
バッテリ充電ランプ	34
表示装置の切り替え	85
フラットポイント	11, 27
－使い方	28
プリンタ	73
ページングファイル	195
ヘッドホン端子	16
ヘッドホン端子 (ドッキングステーション)	57
ポインティングデバイス	27

ま行

マイク端子	16
マイク端子 (ドッキングステーション)	57
マルチモニタ機能	88
無線 LAN	97
無線 LAN アンテナ	13
メインメニュー	162
メッセージ (BIOS)	174

や行

ユーザー用パスワード	169
------------	-----

ら行

レジューム	109
-------	-----

わ行

ワイヤレススイッチ	12
ワントッチボタン	11

FMV-BIBLO LOOX Q70TN

製品ガイド
B5FJ-0861-01 Z0-00

発行日 2006年8月
発行責任 富士通株式会社

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。